佐久市文化財

年報 11

平成13年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市文化財

年　報 11

平成13年度

長野県佐久市教育委員会

佐久市遠景（浅間山を臨む）

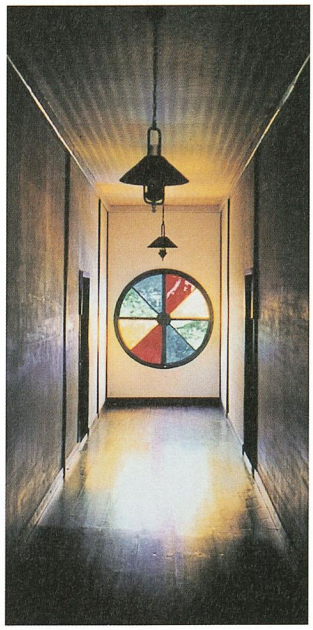
五家山遺跡航空写真（西方より）

宮田遺跡航空写真（北方より）

西一本柳遺跡Ⅷ航空写真（西方より）

東久保古墳１号墳石室垂直写真

国史跡旧中込学校



旧中込学校ステンドグラス

目　　次

Ⅰ　組　　織……1

Ⅱ　埋蔵文化財事業

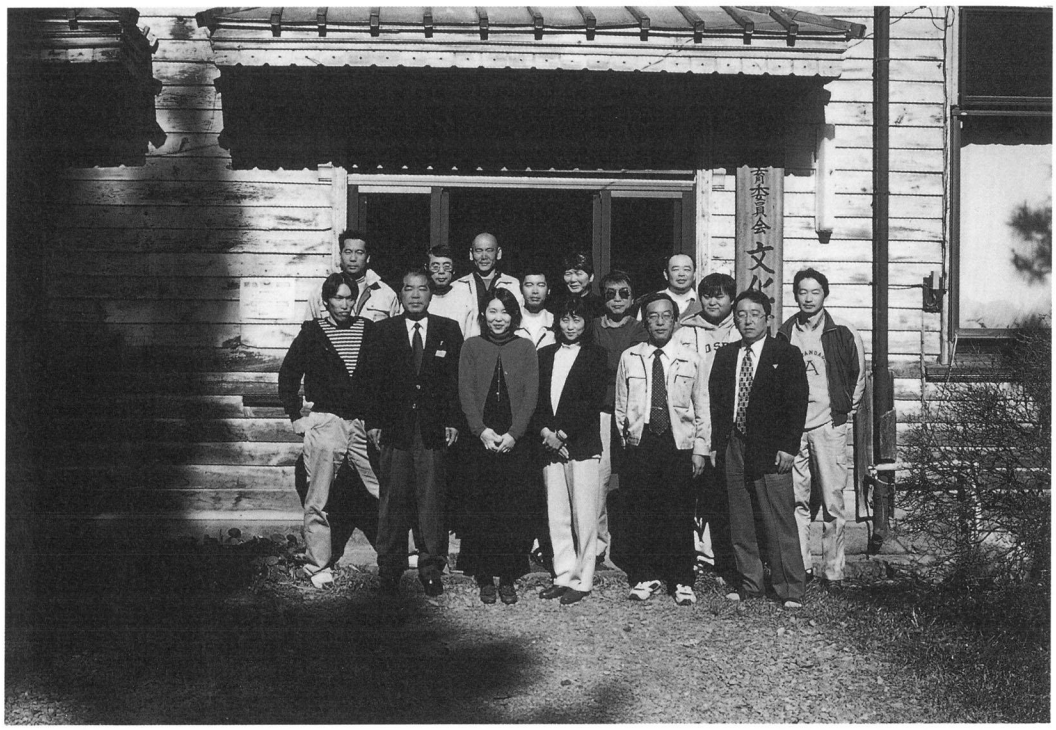
1. 体　制……1
2. 調査事業費……2
3. 保護・保存事業……3
   （1）現状及び保護・保存事業……3
   （2）記録保存……3
      1）概　要……3
      2）発掘調査・整理調査……3
      3）整理作業……4
      4）試掘・立会調査……5
4. 普及・公開事業……6
   （1）第22回少年考古学教室……6
   （2）後家山・宮田遺跡現地説明会……6
   （3）埋蔵文化財資料展示室利用状況……7
5. 分析・鑑定……8
6. 刊行図書……8
7. 調査概報……9
   枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅳ……9
   一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅶ……12
   中道遺跡Ⅱ……15
   後家山・宮田遺跡……18
   岩村田遺跡群上木戸遺跡……20
   長土呂遺跡群聖石遺跡……23
   長土呂遺跡群聖石遺跡Ⅱ……25
   枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅳ……27
   栗毛坂遺跡群東芝間遺跡……30
   藤塚古墳群1号墳……33
   野沢館跡Ⅲ……36
   天神尾根遺跡・牛房沢遺跡……38
   東久保古墳群1号墳・宮田遺跡Ⅱ……40
   新海坂遺跡群新海坂遺跡発掘調査報告書……43
   蛇塚Ａ遺跡群蛇塚遺跡Ⅱ……73
   白拍子遺跡群白拍子遺跡……77
8. 分析・鑑定結果報告書　佐久市出土のガラス玉類の分析……79

Ⅲ　一般文化財事業

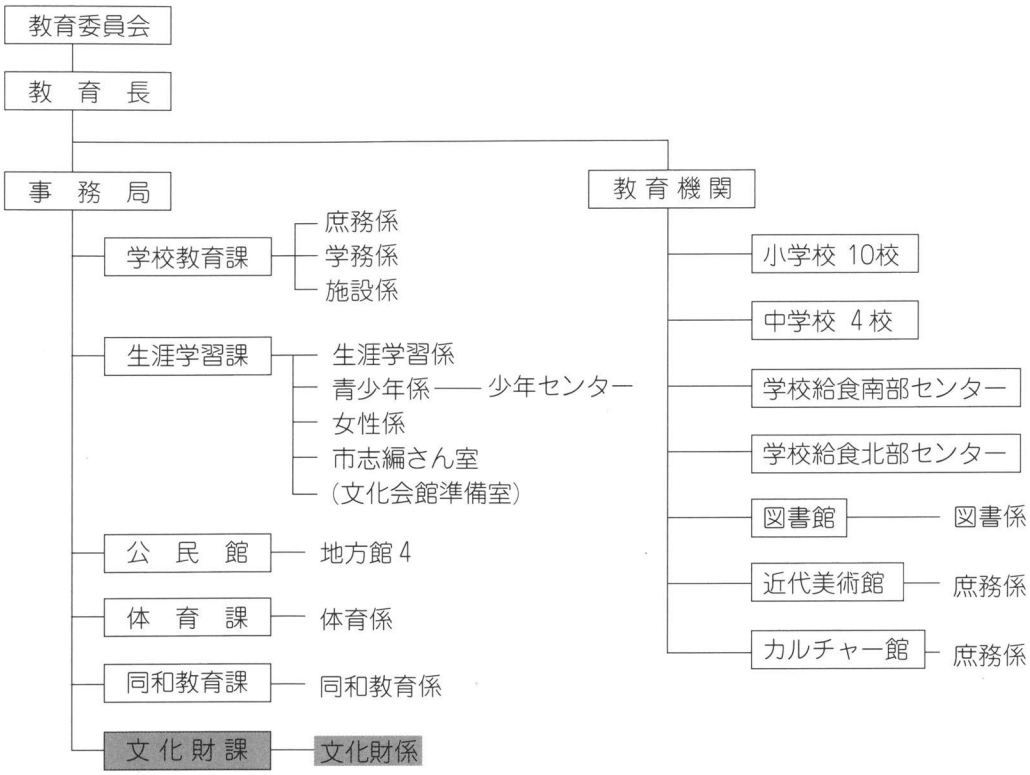
1. 体制……87
2. 調査事業費……87
3. 国・県・市指定文化財……88
4. 普及・公開事業……90

Ⅳ　庶務日誌……90

Ⅴ　施　　設……92


育委員会
文化

Ⅰ　組　　織



Ⅱ　埋蔵文化財事業

1．体　　制

佐久市教育委員会　　文化財課

教　育　長　　依田　英夫（4月～6月）、髙柳　　勉（7月～）

教育次長　　小林　宏造（4月）、黒沢　俊彦（5月～）

文化財課長　　草間　芳行

文化財係長　　荻原　一馬（4月）、森角　吉晴（5月～）

文化財係　　林　　幸彦　　須藤　隆司　　小林　眞寿　　羽毛田卓也　　冨沢　一明

　　上原　　学　　山本　秀典　　出澤　　力

調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子			
調査副主任	堺　益子				
調査員	秋山　勝哉	浅沼ノブ江	阿部　和人	荒井ふみ子	市川　昭
	岩崎　重子	岩下　友子	上原　幸子	碓氷　知子	臼田　真杉
	梅澤　淳子	江原　富子	遠藤しづか	荻原千鶴子	小田川　栄
	小幡　弘子	柏木　貞夫	柏木　三郎	柏木　義雄	柏原　松枝
	金井　保夫	木内　明美	木内　節夫	菊池　喜重	幸崎　真理
	神津ツネヨ	小金沢たけみ	小須田サクエ	小林喜久子	小林　幸子
	小林　妙子	小林　裕	小林まさ子	小林百合子	小林よしみ
	小山　功	佐久本眞樹子	桜井　牧子	佐々木　正	佐々木久子
	佐藤　愛子	佐藤志げ子	佐藤　剛	澤井　皐月	篠崎　清一
	島田　幹子	清水佐知子	須藤　瑞帆	関口　正	副島　充子
	高見澤　綾	田中　章雄	田中ひさ子	富沢　真哉	中嶋　照夫
	中島とも子	中嶋フクジ	中嶋　良造	中条　悦子	成澤　冨子
	橋詰　勝子	橋詰　信子	花岡美津子	花里四之助	花里三佐子
	林　美智子	林　幸男	比田井久美子	平林　泰	細萱ミスズ
	細谷　秀子	堀籠　滋子	堀籠みさと	真嶋　保子	増野　深志
	水間　雅義	宮川百合子	武者　幸彦	森角　雅子	柳沢　孝子
	柳澤千賀子	山浦　豊子	山村　容子	依田　みち	若林　希
	和久井義雄	渡邊久美子	渡辺　長子	中島　里佳	

2　調査事業費

平成13年度埋蔵文化財事業費	予算額	227,084,000円
	決算額	227,069,643円
	受託事業費	111,126,000円

3　保護・保存事業

（1）現状及び指定保護・保存

なし

（2）記録保存

1）概　要

開発原因者		調査実施数					報告書刊行
		発掘	試掘	立会	整理	計	
国県市等	国・県補助						1
	長野県土地開発公社						
	佐久建設事務所	1	3	2	2	8	1
	長野県土地改良課				1	1	1
	佐久市土地開発公社	1			2	3	2
	佐久市	5	5		5	15	2
個人・民間企業		8	23		8	39	4
学術調査							
合　計		15	31	2	19	66	11
原因者負担		14		2	17	33	10
国・県補助		1	31		1	33	1

2）発掘調査・整理作業

No.	遺跡名 調査面積	所在地 事業	備考
1	枇杷坂遺跡群　円正坊遺跡Ⅳ 4,200㎡	大字岩村田字円正坊 都市計画道路改築工事	住居址23軒　掘立21棟　方形周溝 円形周溝　古墳周溝　溝　土坑
2	一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅷ 983㎡	大字岩村田字下樋田 市道整備	住居址41軒　掘立柱建物址15棟 溝　土坑
3	中道遺跡Ⅱ 560㎡	大字前山字中道 公営住宅建設	住居址3軒
4	白拍子遺跡群　白拍子遺跡 64㎡	大字取出町字白拍子 消防詰所・器具庫建築	堀立柱建物址1棟 土坑
5	後家山遺跡・宮田遺跡 13,368㎡	大字平賀・瀬戸 総合運動公園建設	住居址34軒　環濠　土坑墓（後家山） 竪穴状遺構　堀立　井戸（宮田）
6	岩村田遺跡群　上木戸遺跡 1,240㎡	大字岩村田字上木戸 店舗建設	住居址1軒　堀立柱建物址1棟 円形周溝墓　落とし穴　土坑

No.	遺 跡 名 調査面積	所在地 事　業	備　　考
7	長土呂遺跡群　聖石遺跡 585㎡	大字長土呂字聖石 宅地造成	住居址3軒 溝　土坑
8	長土呂遺跡群　聖石遺跡Ⅱ 211㎡	大字長土呂字聖石 土壌調査及び改良	溝　包含層（弥生時代）
8	蛇塚Ａ遺跡群　蛇塚遺跡Ⅱ 29㎡	大字安原字南御堰 集合住宅建設	住居址1軒
10	枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅳ 300㎡	大字岩村田字上直路 宅地造成	住居址2軒 溝
11	栗毛坂遺跡群　東芝間遺跡 300㎡	大字岩村田字東芝間 宅地造成	住居址3軒 土坑
12	藤塚古墳群1号墳・藤塚遺跡Ⅳ 442㎡	大字塚原字姫小石 個人住宅	古墳1基　古墳周溝
13	野沢館跡Ⅲ 250㎡	大字原字屋敷 集合住宅建設	土坑　特殊遺構 柱穴(中世建物址)
14	天神尾根遺跡・牛房沢遺跡 1363㎡(天神尾根)・660㎡(牛蒡沢)	大字志賀 緊急地方道路整備	細石刃石器群（天神尾根）
15	東久保古墳群1号墳・宮田遺跡Ⅱ 371㎡(東久保)　86㎡(宮田)	大字瀬戸 道路改良	古墳1基（東久保） 住居址1軒（宮田）

2）整理作業

No.	遺 跡 名	所在地 事　業	備　　考
1	枇杷坂遺跡群	佐久市大字長土呂 佐久平駅周辺区画整理	平成7年度より調査。
2	樋村遺跡Ⅱ	佐久市大字平賀字樋村 道路改良事業	平成11年度より調査。
3	久禰添遺跡Ⅲ	佐久市大字小田部字入江 道路改良事業	佐久市埋蔵文化財報告書第97集

No.	遺 跡 名	所在地 事　業	備　　考
4	深堀遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ	佐久市大字瀬戸 農村活性化環境整備事業	佐久市埋蔵文化財報告書第98集
5	長土呂遺跡群　聖原遺跡	佐久市大字長土呂 佐久流通業務団地造成	平成元年～平成7年度調査。 佐久市埋蔵文化財報告書第103集
6	深堀遺跡群　深堀遺跡Ⅳ	佐久市大字瀬戸 住宅団地造成	佐久市埋蔵文化財報告書第101集

4）試掘・立会調査

No.	遺　跡　名	所　在　地	開発面積（㎡）	調査期間	調査方法
1	宮の上遺跡群5	佐久市大字横和	1,077	H13.4.24～27	試掘
2	岩村田遺跡群29	佐久市大字岩村田	888	H13.5.2	試掘
3	栗毛坂遺跡群19	佐久市大字岩村田	1,147	H13.5.14～15	試掘
4	蛇塚Ａ遺跡群蛇塚遺跡Ⅱ	佐久市大字安原	1,182	H13.5.21	試掘
5	高師町遺跡群3	佐久市大字新子田	182.27	H13.5.22	試掘
6	蛇塚Ｂ遺跡群4	佐久市大字新子田	2,136	H13.5.28～29	試掘
7	西一里塚遺跡群他	佐久市大字根々井	33,000	H13.6.4～22	試掘
8	栗毛坂遺跡群20	佐久市大字横和	320	H13.6.26	試掘
9	長土呂遺跡群聖石遺跡Ⅱ	佐久市大字長土呂	8,391	H13.7.11～19,21	試掘
10	蛇塚Ｂ遺跡群5	佐久市大字新子田	374	H13.11.26	試掘
11	枇杷坂遺跡群上直路遺跡	佐久市大字岩村田	1,789	H13.7.24～26	試掘
12	藤塚古墳1号墳	佐久市大字塚原	442	H13.8.20～10.19	試掘
13	東内池遺跡5	佐久市大字新子田	1,432	H13.8.27	試掘
14	戸坂遺跡群浅井城跡2	佐久市大字新子田	816	H13.8.29	試掘
15	跡坂遺跡群8	佐久市大字横根	7,800	H13.8.30	試掘
16	鳴沢遺跡群3	佐久市大字根々井	849	H13.9.5～6	試掘
17	蛇塚Ａ遺跡群2	佐久市大字安原	3,510	H13.9.13～14	試掘
18	中金井遺跡群4	佐久市大字小田井	4,793	H13.9.17	試掘
19	一町田遺跡1	佐久市大字三塚	1,100	H13.9.26	試掘
20	野沢館跡Ⅲ	佐久市大字原	1,176	H13.10.15～16	試掘

No	遺　跡　名	所　在　地	開発面積（㎡）	調査期間	調査方法
21	城下遺跡2	佐久市大字内山	879	H13.10.22	試掘
22	東千石平遺跡群東千石平遺跡1	佐久市大字瀬戸	345	H13.10.29～30	試掘
23	長土呂遺跡群聖石遺跡Ⅲ	佐久市大字長土呂	323	H13.11.15,16,19	試掘
24	蛇塚Ｂ遺跡群6	佐久市大字新子田	530	H13.7.17～19	試掘
25	長土呂遺跡群5	佐久市大字長土呂	1,644	H13.12.5～7	試掘
26	栗毛坂遺跡群東芝間遺跡1	佐久市大字岩村田	2,791	H13.11.29～12.15	試掘
27	未周知	佐久市大字内山	13,920	H13.12.3～4	試掘
28	栗毛坂遺跡21	佐久市大字岩村田	4,328	H14.2.14～15	試掘
29	松の木遺跡Ⅳ	佐久市大字岩村田	1,051	H14.3.7	試掘
30	曽根城遺跡Ⅲ	佐久市大字小田井	2,786	H14.1.15～16	試掘
31	竹原遺跡	佐久市大字平賀	260	H14.1.31,2.7	立会
32	寺畑遺跡	佐久市大字猿久保	725	H14.2.13,18	立会

4　普及・公開活動

（1）第22回少年考古学教室

開 催 遺 跡　　後家山遺跡

開　催　日　　平成13年8月6・7・8日

対象・参加者　　市内小中学生・高校生　　参加者　133人

内　　容　　講話「佐久地方における発掘調査の成果」

実　　技　　弥生時代竪穴住居址の発掘調査

見　　学　　弥生中期～後期の高地性集落址の見学

（2）後家山・宮田遺跡現地説明会

開　催　日　　平成13年10月20日

対象・参加者　　平賀地区住民　　参加者　70人

内　　容　　後家山・宮田遺跡の調査の経過と成果

見　　学　　弥生中期～後期の高地性集落址の見学

(3) 埋蔵文化財資料展示室利用状況

入室者数　320人

▶埋蔵文化財資料展示室

◀▲少年考古学教室風景

▲五家山・宮田遺跡見学会風景

5　分析・鑑定

(1) 円正坊遺跡	○出土遺物の材同定・灰像分析 ・X線回折分析	パリノ・サーヴェイ（株）
	○土器態度分析	（株）第四期地質研究所
(2) 後家山遺跡	○炭化物・炭化種子鑑定	株式会社　古環境研究所
	○ガラス小玉の分析	有限会社 武蔵野文化財修復保存研究所
	○石器の分析・実測	（株）アルカ
	○出土鉄製品の分析・保存	（財）元興寺文化財研究所
(3) 聖原遺跡	○炭化材鑑定	パリノ・サーヴェイ（株）
(4) 辻の前遺跡他	○出土獣骨鑑定	日本ほ乳類学会　宮崎重雄氏

6　刊行図書

佐久市埋蔵文化財調査報告書

第94集　『聖石遺跡』
第95集　『市内遺跡発掘調査報告書2000』
第96集　『上木戸遺跡』
第97集　『久禰添遺跡』
第98集　『深堀Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』
第99集　『中道遺跡Ⅱ』
第100集　『野沢館跡Ⅲ』
第101集　『深堀遺跡Ⅳ』
第102集　『円正坊遺跡Ⅳ』
第103集　『聖原　第1分冊』
第104集　『聖石遺跡Ⅱ』

『佐久市文化財　年報10』

7　調査概報

枇杷坂遺跡群　円正坊遺跡Ⅳ

所　在　地　佐久市大字岩村田字円正坊
1282－1　他

調査委託者　佐久市都市計画課

開発事業　都市計画道路佐久平駅蓼科口線
道路改築工事

調査期間　平成11年5月13日～
平成13年3月31日

調査面積　4,200㎡

調査担当者　森泉かよ子

円正坊遺跡Ⅳ位置図（1：50,000）

経過と立地

円正坊遺跡は佐久市岩村田地籍にあり、小海線岩村田駅の西にある。この遺跡は考古学的に由緒のある遺跡で、昭和9年刊行の八幡一郎著『北佐久郡の考古学的調査』（P 131－先史時代後期の遺跡－岩村田駅付近の竪穴）において、すでに登場している。

「岩村田町付近一帯の地が遺跡に富むことはすでに知った所である。佐久鉄道の敷設、中学校及女学校の地均等の大工事に際してはもとより、土地開サクにあたって暴露される竪穴の数は極めて多く、その都度多数の土器が発見された。佐久鉄道株式会社岩村田駅付近にも再三斯かる機会があった。神津猛氏の注意に基づき、本教育会郷土研究部委員は、昭和5年6月該所の調査を行い、その一部を調査した。」とこのように述べられ、昭和5年に発掘調査が行われた地である。また、昭和59年には長野県高速道事務所の建物建築に伴い浄化槽部分として円正坊遺跡Ⅰ地点が発掘調査され、竪穴住居址、円形周溝が検出されている。今回、都市計画課により都市計画道路佐久平駅蓼科口線道路改築工事が着工されることとなり、遺跡の破壊が余儀なく、発掘調査を行い記録保存する運びとなった。

遺跡は岩村田台地の西縁に位置し、浅間火山の噴出物である浅間第1軽石流の堆積地域である。ここは河川に浸食され形成された田切り地形が発達している地点でもある。本遺跡の西はその田切りが消滅し、広く低地になるところであり、遺跡は隣接地にある。低地に望むため地崩れ現象があったのか、西の低地に向かって～100cmほど水平方向の地盤のズレが確認された。

調査概要（平成11～13年度調査）

検出遺構

古墳時代中期・後期　竪穴住居址　27棟

古墳時代　掘立柱建物址　21棟

ピット　104個

弥生時代後期　方形周溝　3基

〃　円形周溝　7基

古墳時代後期古墳周溝　1基

中世～近代　溝（道路址含む）3本

弥生・古墳時代　溝　2本

古墳時代・不明　土坑　3基

主な出土遺物

弥生式土器　壺・甕・杯・高杯

土師器　杯・高杯・鉢・丸胴甕・長胴甕・甑

須恵器　杯・瓶・甕

陶磁器片　青磁碗・白磁碗

鉄製品　鉄族・刀子・鎌・鉄滓

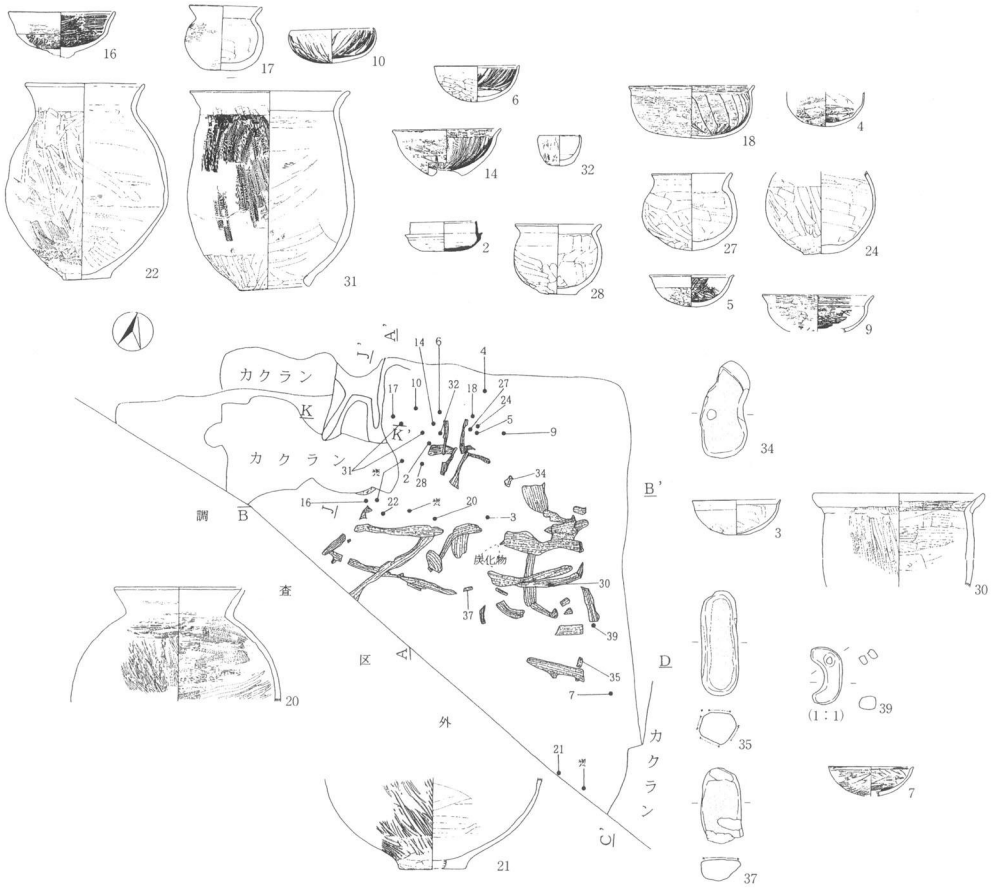
石製品　石製模造品（剣・鏡）・臼玉・管玉・勾玉・スリ石・編物石・石鏃

炭化物　柱材・カヤ状炭化物・木の実

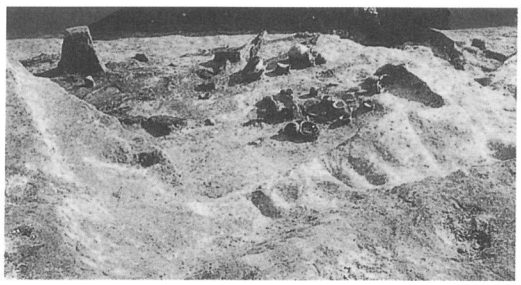
古銭　寛永通寶・半銭

骨

枇杷坂遺跡群円正坊遺跡Ⅳ平成13年度調査区設定図・全体図

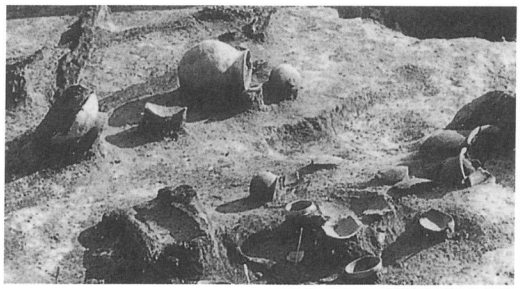


円正坊遺跡Ⅳ　H30号住居址

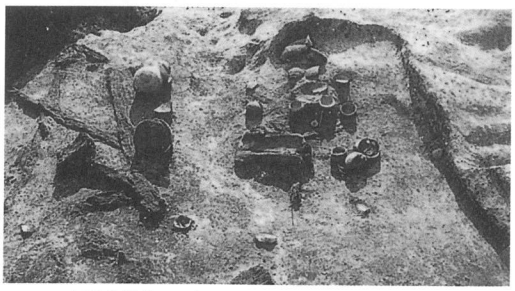


H30号住居址　遺物出土状況（北東より）

H30号住居址　遺物出土状況（南より）



H30号住居址　遺物出土状況（北東より）



H30号住居址　遺物出土状況（南より）

一本柳遺跡群　西一本柳遺跡Ⅷ

所　在　地　佐久市大字岩村田字下樋田
1773－1　他

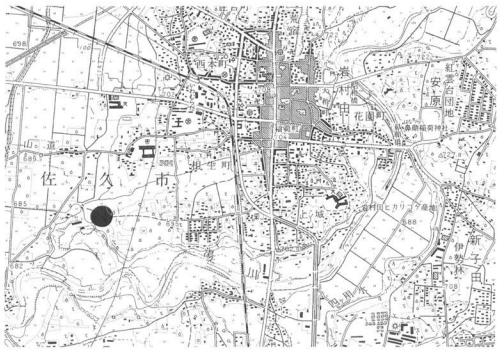
調査委託者　佐久市土木課

開発事業　市道11-1号線緊急地方
道路整備事業

調査期間　平成12年5月28日～
平成13年3月31日

調査面積　983.6㎡（2983.6㎡の内）

調査担当者　森泉かよ子



西一本柳遺跡Ⅷ位置図（1：50,000）

経過と立地

一本柳遺跡群は佐久市大字岩村田地籍に所在し、湯川の右岸、岩村田市街地南部のＪＲ小海線から西方に約1km地点に展開している。地質は西では塚原泥流の残丘が地盤をなし、東は塚原泥流の上にのった浅間第1軽石流が地盤をなすところと、その上に二次堆積した砂質の浅間第1軽石流が基盤をなすところがある。大半は、砂質土が遺構構築面であるため、壁・床ともに崩壊しやすい所である。

平成12年度に市道11－1号線改良工事が行われることになり、遺跡の破壊が余儀なくされ、記録保存するため発掘調査をおこなった。今年は北の12年度調査区を埋めて迂回路を造り、現道を剥いで、昨年に継続して主に新設される道路南側地点の調査をおこなった。

調査概要（平成13年度調査分）

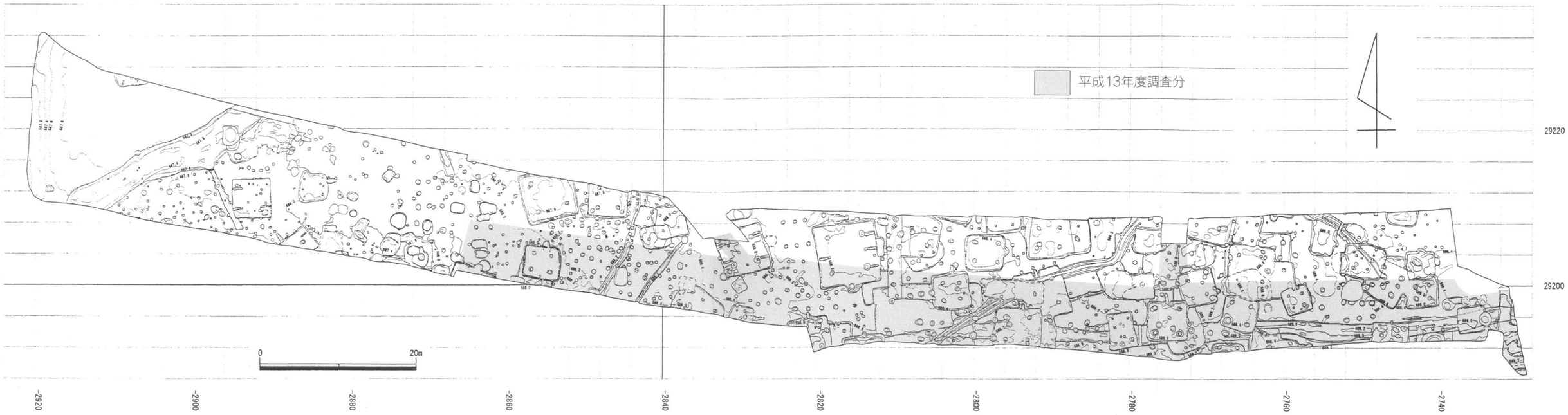
検出遺構

竪穴住居址	新規26棟、継続15棟
掘立柱建物址	15棟
土坑	21基
溝（道路址含む）	5本
単独ピット	200個

主な出土遺物

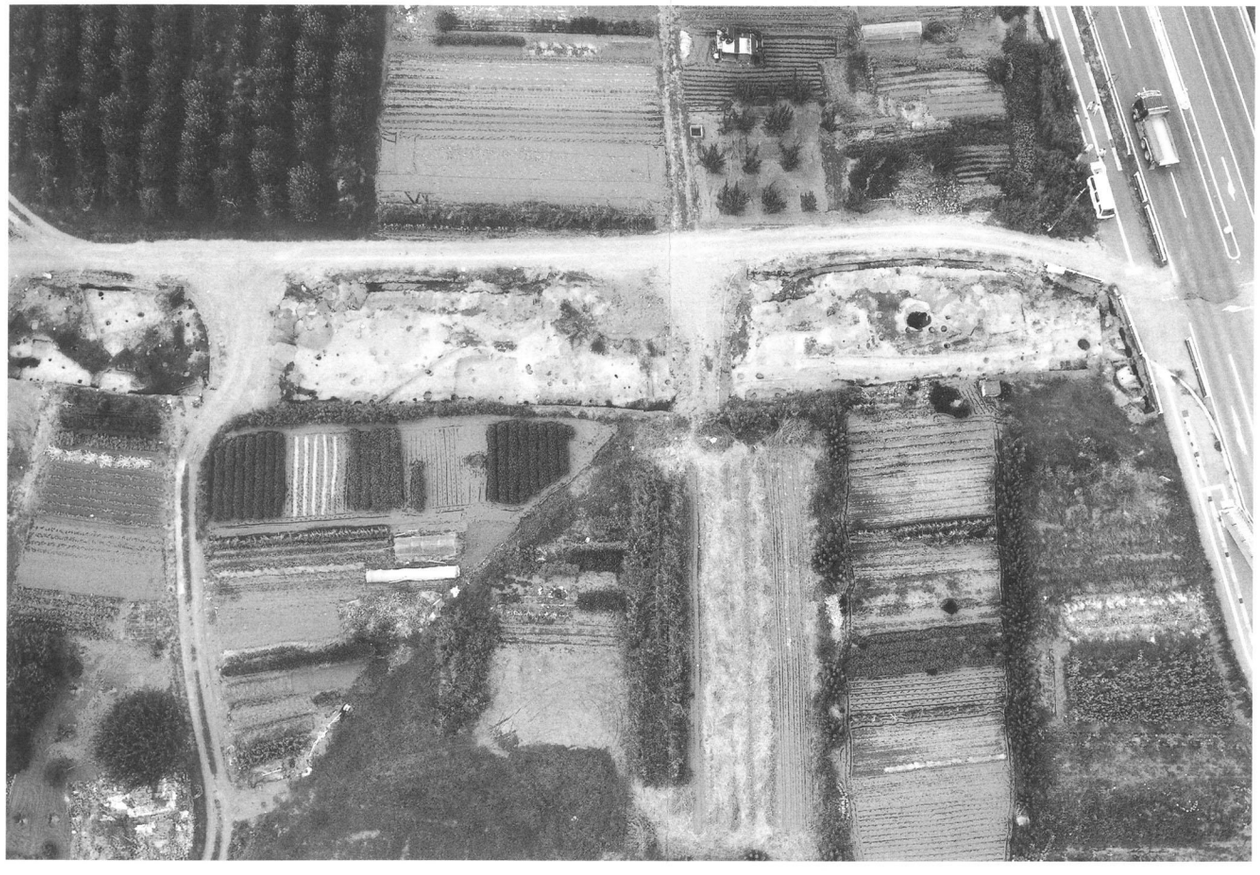
弥生式土器　壺・甕・杯

土師器	杯・高杯・鉢・丸胴甕・長胴甕・甑
須恵器	杯・瓶・甕
陶磁器片	青磁碗
鉄製品	刀子・鎌・鉄滓
石製品	石製模造品（剣・鏡）・臼玉・スリ石・編物石・砥石・石鏃
炭化物	柱材・カヤ状炭化物・木の実
骨	



一本柳遺跡群西一本柳Ⅷ全体図

西一本柳Ⅷ（平成13年度）全景（西より）



西一本柳Ⅷ（平成13年度）全景（南より）

中道遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字前山字中道
調査委託者　佐久市都市計画課
開発事業名　公営住宅建設事業
調 査 期 間　平成13年4月3日～4月20日
調 査 面 積　560㎡
調査担当者　上原　学

中道遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

中道遺跡は、野沢平西方の千曲川と片貝川に挟まれた沖積低地に立地し、標高670m内外を測る。遺跡内では昭和46年の調査によって古代の住居址が検出され、須恵器・土師器の他、奈良三彩蓋の破片が出土している。また遺跡の周辺では平成6年に北方300mに所在する三千束遺跡群の南東端に位置する寺添遺跡の調査が行われ、古墳・奈良時代の住居址29軒などが検出されている。

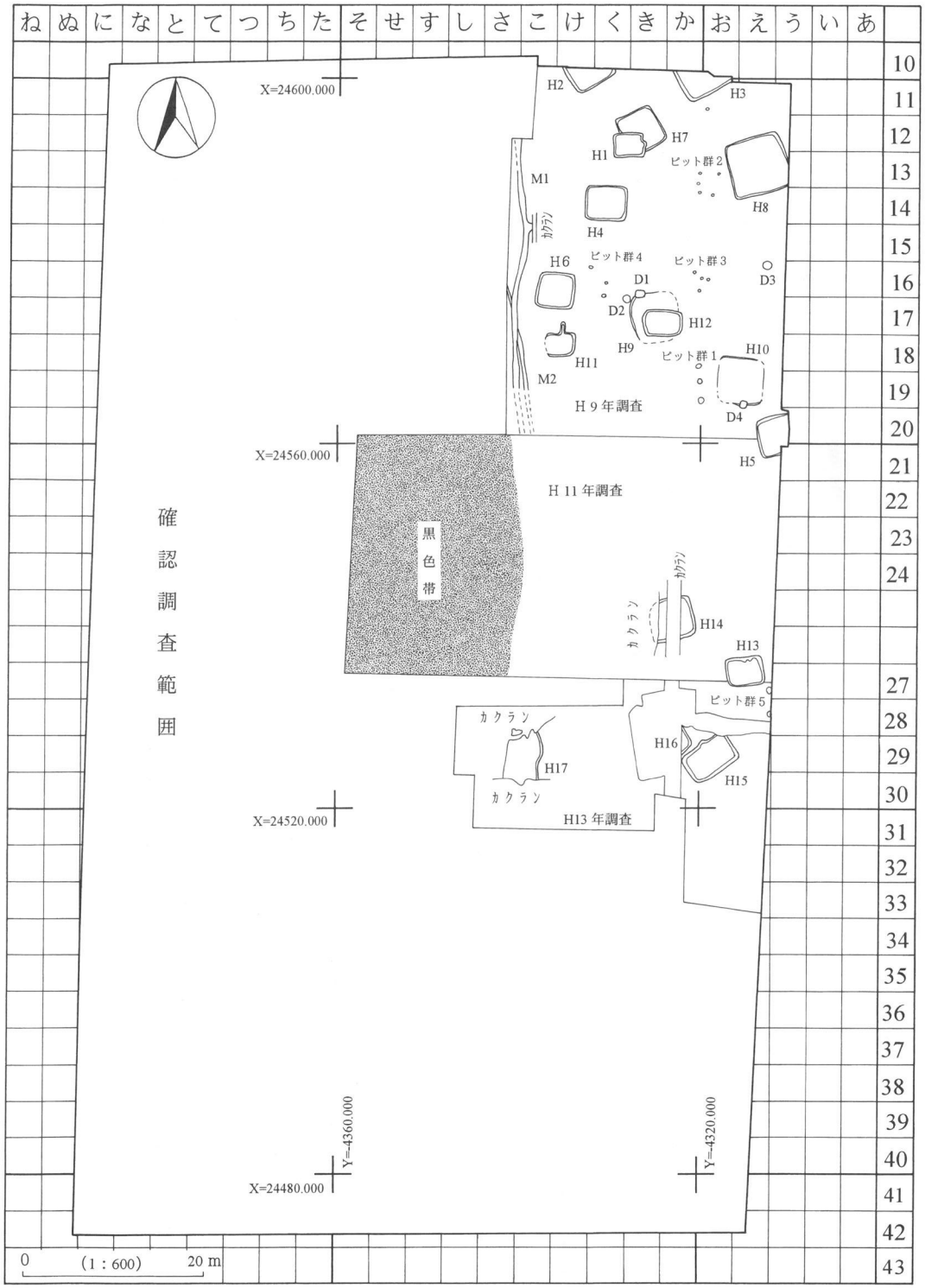
今回、佐久市による公営団地建て替え工事が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を行った。その結果、古代の住居址が発見されたため、遺構の記録保存を目的として発掘調査を行う運びとなった。

なお、立て替え工事に伴う発掘調査は工事計画に合わせ平成9年度から行われており、今回の調査は平成9・11年度に続き3度目となり、本年度をもってすべての調査が終了した。

調査の結果

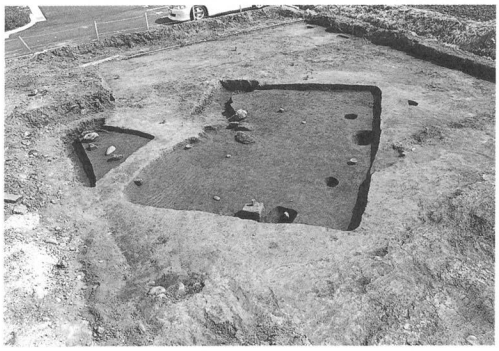
調査によって、竪穴住居址3軒（古墳2、時期不明1）弥生時代の遺構1を発見した。古墳時代の住居址の内1軒は平成11年度に調査を行った住居址の一部であり、もう一軒は新たに発見された住居址で、規模は東西5.8m、南北4.1m、深さ52cm内外を測る。遺物は住居址の床面上から土師器坏・甕、滑石製紡錘車などの遺物が出土した。弥生時代の遺構については浅い掘り込みが確認でき、弥生時代の遺物を伴ったが住居址であるかの断定はできなかった。

H15号住居址遺物出土状況

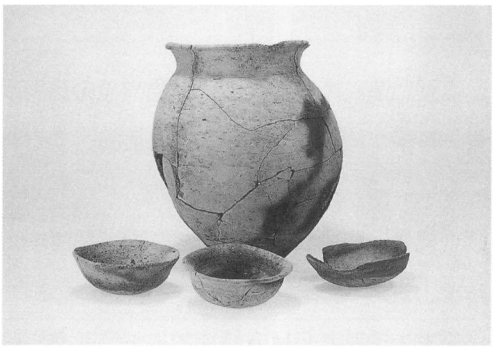

ね ぬ に な と て つ ち た そ せ す し さ こ け く き か お え う い あ
10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43
X=24600.000
X=24560.000
X=24520.000
X=24480.000
Y=-4360.000
Y=-4320.000
H1
H2
H3
H4
H5
H6
H7
H8
H9
H10
H11
H12
H13
H14
H15
H16
H17
M1
M2
D1
D2
D3
D4
カクラン
ピット群1
ピット群2
ピット群3
ピット群4
ピット群5
H 9 年調査
H 11 年調査
H13 年調査
黒色帯
確認調査範囲
0 (1：600) 20 m

中道遺跡Ⅱ遺構配置図

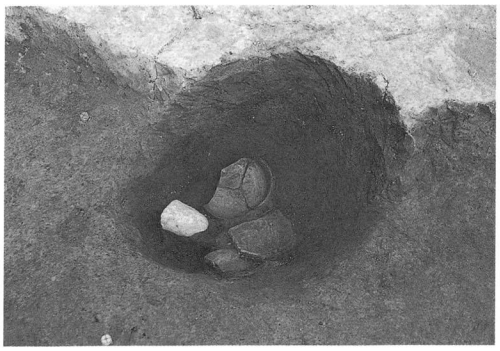
中道遺跡Ⅱ調査区全景（南から）



H15（右）・16号（左）住居址全景（南から）



H15号住居址出土遺物

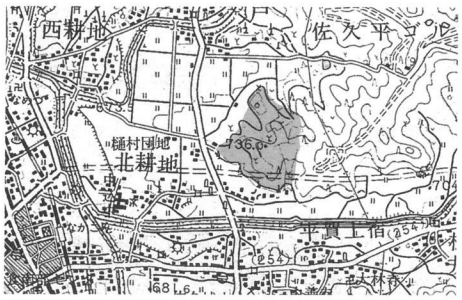


H15号住居址内土坑遺物出土状況

調査風景

後家山遺跡・宮田遺跡

所　在　地　佐久市大字平賀・瀬戸
調査委託者　佐久市都市計画課
開発事業名　総合運動公園建設
調 査 期 間　平成13年5月7日～平成14年3月31日
調 査 面 積　13,368㎡
調査担当者　羽毛田卓也　冨沢一明



中道遺跡Ⅱ位置図（1：50,000）

経過と立地

後家山遺跡と宮田遺跡は佐久市大字平賀・瀬戸にそれぞれ所在する。両遺跡が立地する丘陵は内山川に沿ってのびた山麓が佐久平に最も飛び出した丘陵部分で、周辺部の水田との標高差は約30mを測る。各遺跡の位置は丘陵の上部部分が後家山遺跡、丘陵と沖積地の水田が接する丘陵裾部分が宮田遺跡である。周辺部の遺跡としては、丘陵西側の水田面に古墳時代後期の集落址が検出された樋村遺跡、谷田を越えた北側の丘陵には縄文時代中期の大集落が調査された寄山遺跡等がある。

今回、遺跡内に総合運動公園建設の計画がなされ、当教育委員会で試掘調査を行った。その結果、遺構が確認され記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。

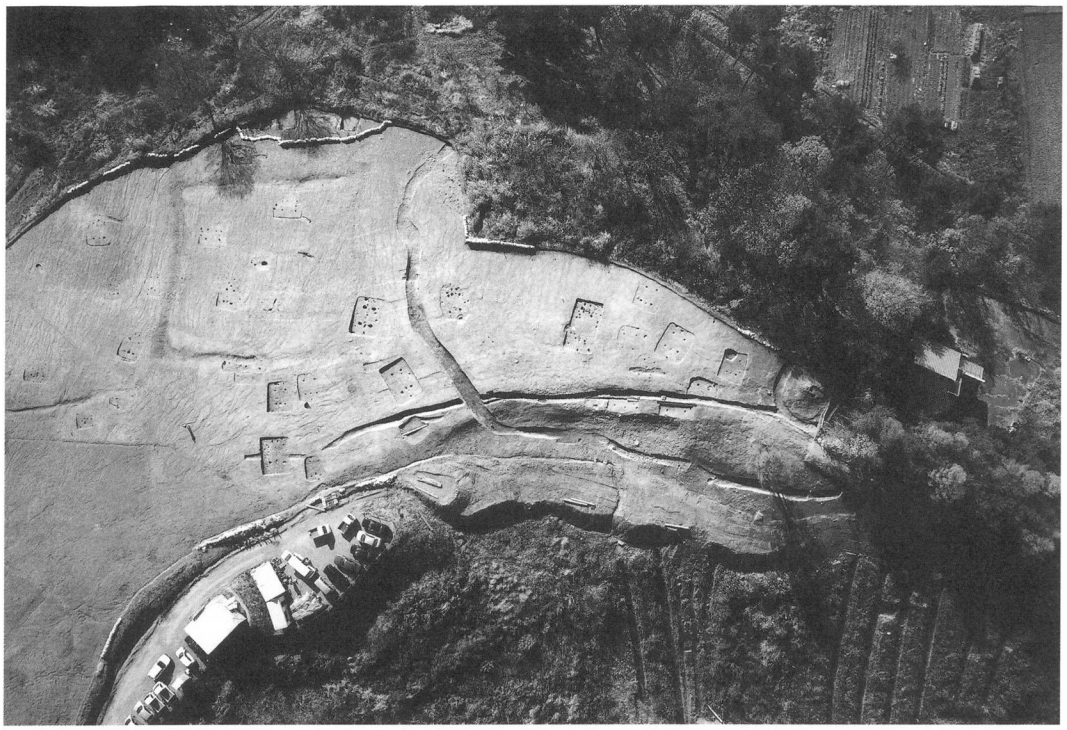
調査概要（平成13年度分）

後家山遺跡

後家山遺跡からは丘陵尾根に沿うように弥生時代中期と後期の集落址、弥生後期の土壙墓、古墳等が検出された。弥生時代中期（栗林期）の住居址は4軒、後期（箱清水期）の住居址は30軒であった。特に中期の住居は環濠と考えられる溝に囲まれていた。この溝の規模は広いところで幅3m・深さ約1mで、溝に囲まれた範囲は東西90m・南北40mであった。佐久においてほぼ全容の把握できる「環濠」の検出は初例である。また、土壙墓からは鉄釧とガラス小玉が出土した。

宮田遺跡

宮田遺跡は丘陵の北西側斜面やそれにつながる谷田に広がる遺跡であり、今回は谷田部分から中世（15～16世紀頃）の遺構が確認された。確認された遺構は竪穴状遺構、ピットを中心とした掘建柱建物址群3カ所、井戸跡等である。



後家山遺跡全景（北側より）　丘陵先端部に楕円形に巡るのが「環濠」検出部分は深浅の違いはあるが全周している。

後家山遺跡H2号住居址　遺跡内で最大の住居址で5×8.5mの規模を測る。覆土やピット内から勾玉・管玉・ガラス小玉が出土した。

岩村田遺跡群　上木戸遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字上木戸
938他7筆

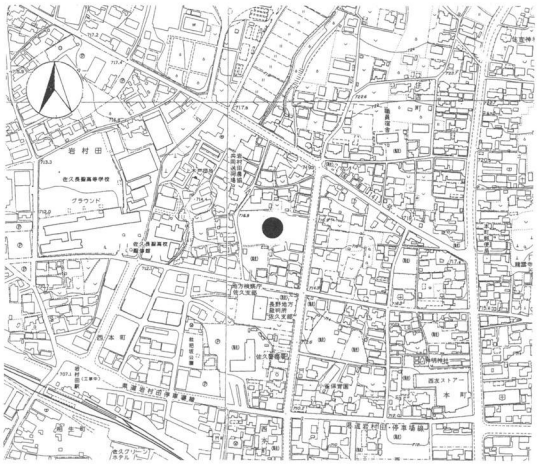
調査委託者　株式会社　名鉄建設工業

開発事業名　店舗建設事業

調 査 期 間　平成13年4月4日～4月27日

調 査 面 積　1,240㎡

調査担当者　佐々木　宗昭



上木戸遺跡　位置図（1:10,000）

立地と経過

上木戸遺跡は、岩村田遺跡群の南西部に所在し、北から南へ緩く傾斜する岩村田の街内に位置する。標高は710m内外を測り、当地点は浅間山の火砕流により形成された台地が低湿地と接する付近である。

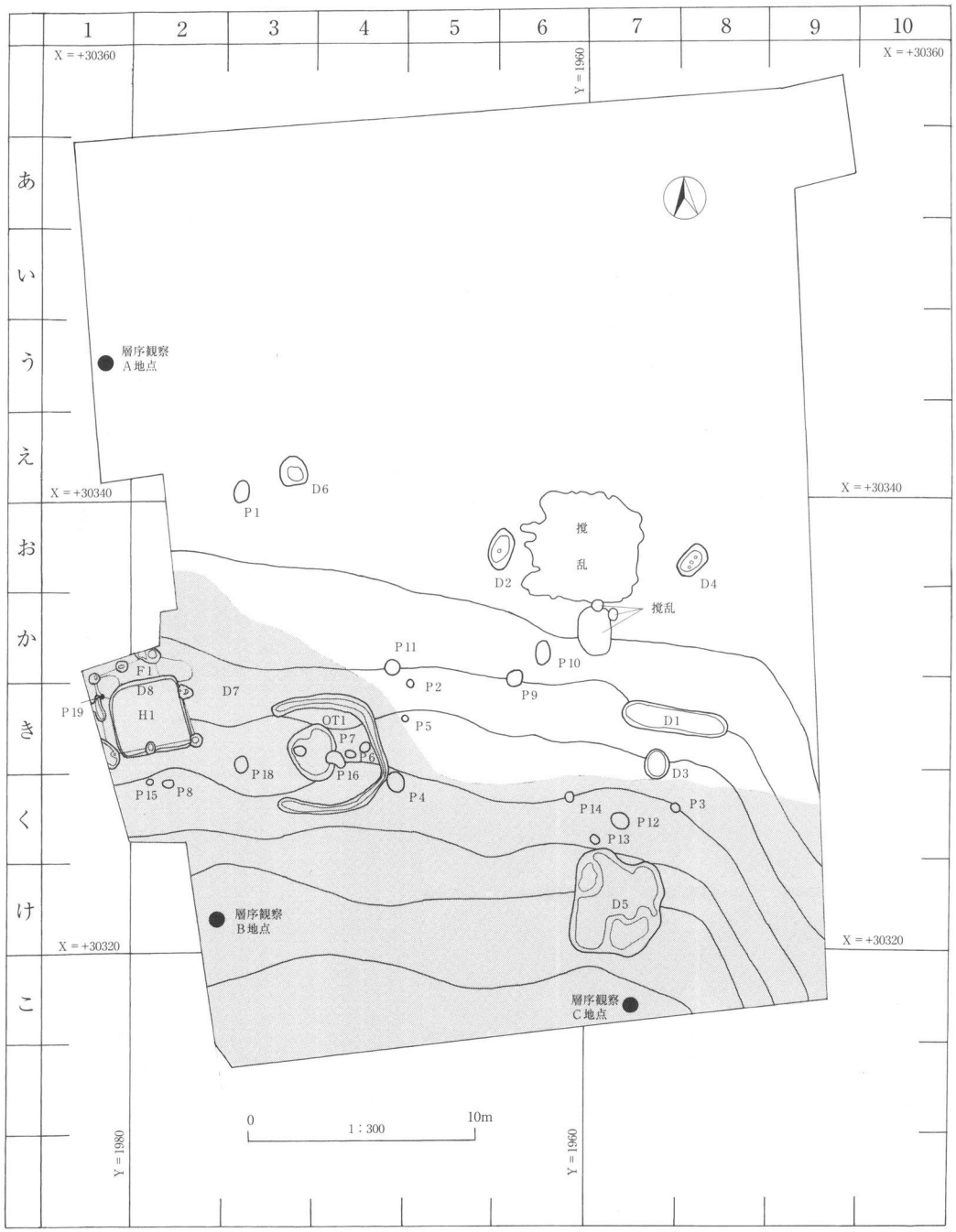
周辺の遺跡としては過去、上直路遺跡・内西浦遺跡・柳堂遺跡・中宿遺跡・円正坊遺跡、他の遺跡が調査され、弥生時代後期から中世にかけての遺構・遺物が多く検出されている。今回、こうした遺跡が周知されている範囲（岩村田遺跡群）内に名鉄建設工業の店舗建設が計画された。このため試掘調査を行った結果、遺構が確認されたため、本調査を行うこととなった。

調査概要

調査対象地における旧状地形は、調査区の中央部から南に約1.5m比高差を持って急傾斜している。斜面の土層は黒色土層で遺構・遺物は、主に東部の斜面付近から検出された。

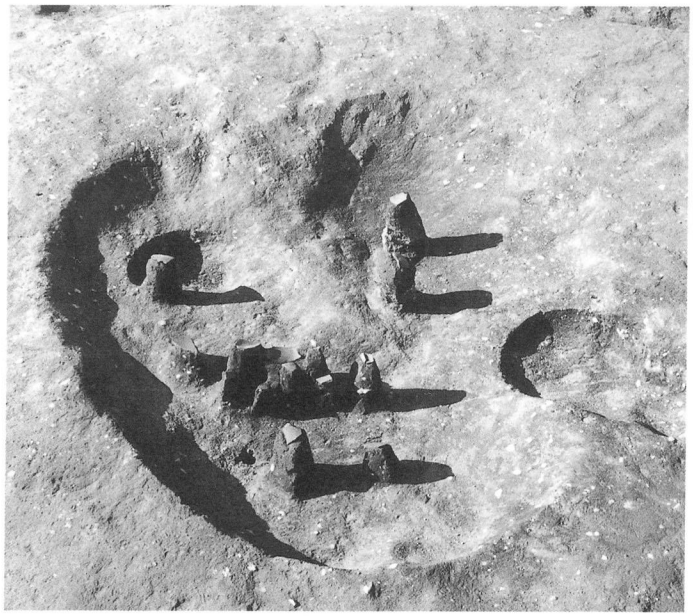
本調査では、竪穴住居址1棟（9世紀中葉～後期）、円形周溝墓1基（弥生時代後期）、掘立柱建物址1棟（平安時代後期以前）、落とし穴2基（縄文時代）、土坑6基（弥生時代～平安時代後期以前）、ピット19基などが検出された。また、出土遺物としては、縄文土器、弥生土器、土師器の他、ガラス小玉、鉄製品、土製品などがある。

円形周溝墓の規模は、東西550cm、南北510cmを測り、平面形態はわずか方形を呈し、西側を大きく堀り残してブリッジとしている。周溝の内側中央部から埋葬施設と考えられる墓壙が検出された。尚、当施設の西壁部からガラス小玉が出土している。

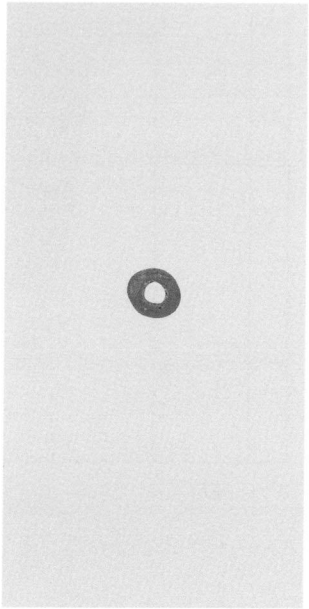


上木戸遺跡　全体図（1:300）

上木戸遺跡　円形周溝墓



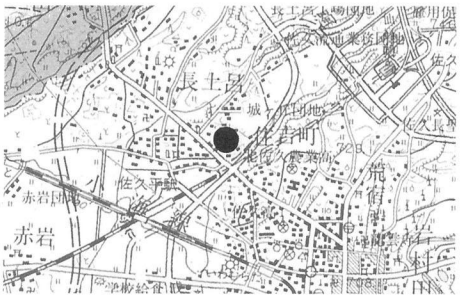
周溝の内側に配された墓壙



墓壙内より出土した
ガラス小玉

長土呂遺跡群　聖石遺跡

所　在　地　佐久市大字長土呂字聖石440-1・2
調査委託者　大蔵不動産株式会社
開発事業名　宅地造成事業
調 査 期 間　平成13年4月9日～9月28日
調 査 面 積　585,0㎡
調査担当者　出澤　力



聖石遺跡　位置図（1:50,000）

立地と経過

長土呂遺跡群は佐久平の北方、佐久市大字長土呂に所在する。佐久平北方は浅間山南麓の末端にあたり火山噴出物が多く堆積し、その堆積物の性格上水による各種作用を容易に受け小河川などによって大小様々な峡谷や田切り地形と呼ばれる帯状台地と低地からなる交互地形が形作られている。長土呂遺跡群はその田切りの帯状台地上に展開する集落跡で、同遺跡群内には古墳から平安時代の住居址975軒、掘立柱建物址860軒などが確認された聖石遺跡がある。田切りの台地上から千曲川河岸に至る、新幹線佐久平駅から佐久ＩＣの周辺はその遺跡の密集度において佐久市内でも屈指の地域であり、今回調査が行われた聖石遺跡は長土呂遺跡群が存在する田切りの台地が低地へと変わる舌端部に立地している。

今回、大蔵不動産株式会社により、宅地造成事業が計画され、先だって行われた試掘調査により弥生時代後期の住居址24軒が確認された。その結果を踏まえ保護協議が行われ、開発による破壊を免れない開発地籍東側について、記録保存を目的とする発掘調査が行われることとなった。

調査概要

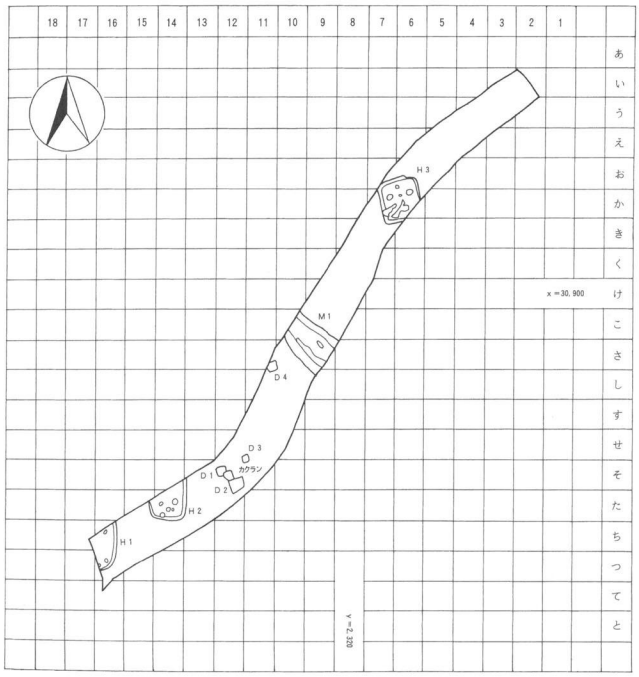
調査の結果、以下の遺構が確認された。

・竪穴住居址　3軒　・土　坑　4基　・溝状遺構　1条

竪穴住居址は、いずれも出土遺物から弥生時代後期後半に位置付けられるものである。甕、壷、台付甕の脚部、高坏頸部などの遺物が見られ、赤色塗彩が施された物も多い。H2号住居址から出土した壷の口縁部は、口縁を埋設するようにして床に置かれた状態で出土し、内面の摩耗の様子からも何らかの二次利用がされた遺物と思われる。H3号住居址では土器片を敷設した炉が確認された。土坑からは遺物等出土が皆無であり、所産時期は明らかではない。溝状遺構は田切り

低地に落ち込むような形で存在し、堆積した覆土の上層から弥生土器の破片を確認した。

今回の発掘調査に先立つ試掘調査で、今回調査区域の北西部で確認された住居址のほとんどもその検出面で弥生時代後期の物と思われる土器片を認め、古墳時代後期に当たる住居址と考えられる。21軒という数で密集して確認されたそれら住居址や今回の調査の結果から、田切り台地の舌端部から北に向かい弥生時代の集落址が存在することが明らかとなった。



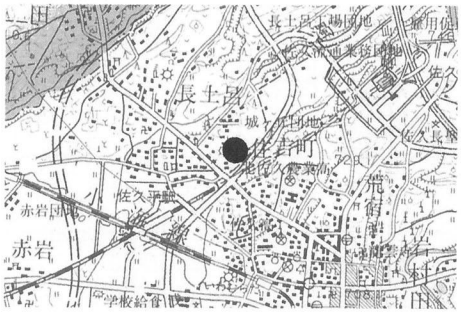
聖石遺跡　調査全体図（1：1,000）

聖石遺跡　全景

聖石遺跡　H2号住居址（東から）

長土呂遺跡群　聖石遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字長土呂字聖石429-1
調査委託者　双信電機株式会社
開発事業名　土壌調査、及び土壌改良事業
調 査 期 間　平成13年9月20日～平成14年3月29日
調 査 面 積　211,0㎡
調査担当者　出澤　力



聖石遺跡Ⅱ　位置図（1:50,000）

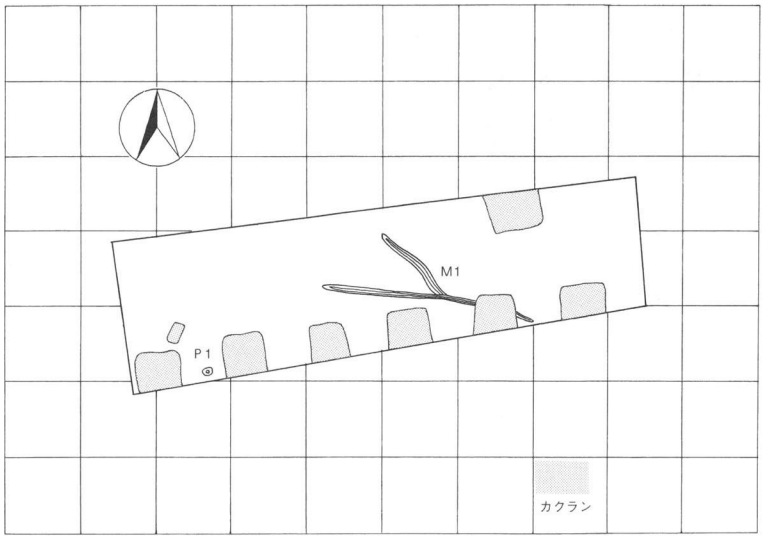
立地と経過

現在遺跡周辺は、新幹線佐久平駅を中心に商業地として開発が進み、それにともなう発掘調査によって多くの遺跡が確認されている。本遺跡の存在する田切りの帯状台地上には長土呂遺跡群があり、佐久市有数の集落址群の存在が知られる。そのほか隣接する帯状台地には近津遺跡群、周防畑遺跡群、芝宮遺跡群、枇杷坂遺跡群などがある。また、佐久平駅周辺で田切り地形は姿を消し、田切りから流出した土砂が堆積する低湿地となる。ここでは弥生時代後期から古墳時代前期の住居址3軒が発掘調査で確認されており、また濁り遺跡・中長塚遺跡・松の木遺跡などでは水田址、またそれに関係する遺構が発見された。今回調査部分は帯状台地の舌端部より、低地に近い部分での調査である。

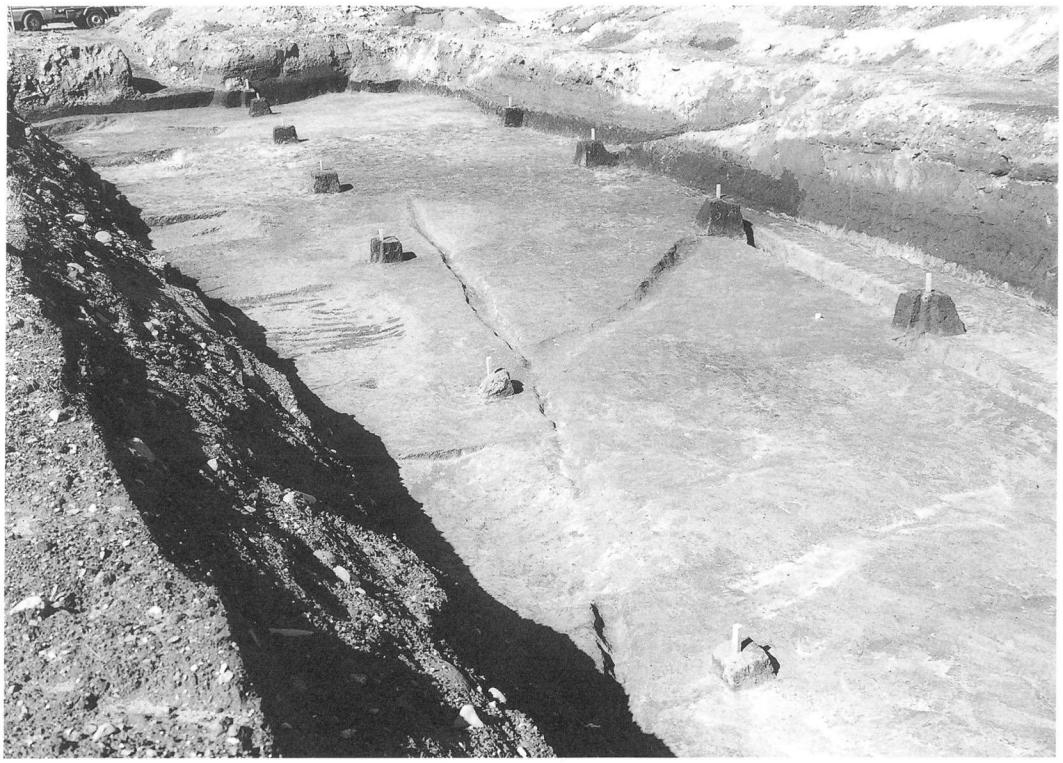
双信電機株式会社により土壌調査及び土壌改良事業が行われることとなり試掘調査が行われた。試掘の結果、黒色土層中より多量の土器が出土、遺構の存在する可能性が認められた。その結果を踏まえ保護協議が行われ、遺構の破壊の懸念のある事業対象地について、発掘調査が行われることとなった。

調査概要

調査対象地は帯状台地の先端近く、低地へと落ち込む縁辺部分の低地に近い部分に当たる。遺物の混入を認める黒色土層は表土より120㎝下方にあり、調査はその層より行われた。結果、遺構については確認されなかったが、弥生時代中期から後期にかけての遺物を含む包含層の存在が確認された。遺物の状態、層の堆積などから水害等による土砂の流出に伴う包含層であることが分かり、聖石遺跡の調査から推測される弥生時代後期集落址の存在との関連が想像される。



聖石遺跡Ⅱ　調査全体図（1:400）



聖石遺跡　調査区近景（南より）

枇杷坂遺跡群　直路遺跡Ⅳ

所　在　地　佐久市大字
岩村田字上直路1074-1・8・9
長土呂字水引270-1・11・12、290-9

調査委託者　（有）田園不動産

開発事業　宅地造成事業

調査期間　平成13年7月26日～8月10日

調査面積　370㎡

調査担当者　林　幸彦

枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅳ位置図（1:50,000）

経過と立地

枇杷坂遺跡群は佐久市の北部に展開する「田切り地形」の台地上にある。仙禄湖付近は「田切り地形」が顕著であるが、枇杷坂遺跡群の南端に至ると谷底との比高が減じ、微高地状の地形となる。標高705m付近は水位が高く湧水が見られ、水引・清水田といった小字名がみられる。

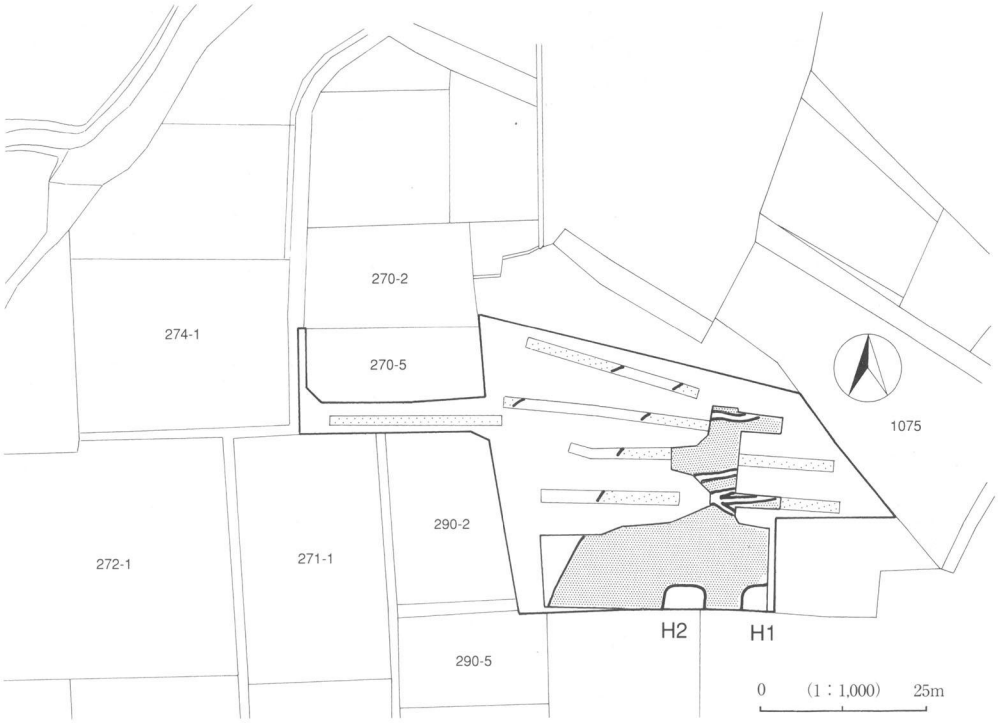
本遺跡群内では、多くの遺跡が調査されている。今回の調査地点付近では、1978（昭和53年）～1985（昭和60）年に北佐久農業高校用地内において琵琶坂遺跡Ⅰ～Ⅴの発掘調査で竪穴住居址5棟（弥生時代後期2棟、古墳時代後期3棟）が検出された。

1985（昭和60）年の（株）イケウチの店舗建設の際には、上直路遺跡が調査されて弥生時代後期竪穴住居址2棟が検出された。第1号住居址からは、21点の銅釧や多量の土器が出土した。1997年（平成9）年から佐久駅周辺区画整理事業に伴う直路遺跡Ⅰ～Ⅲでは多くの弥生時代中期後半・後期の竪穴住居址が検出されている。

調査の概要

調査の結果、調査区の西側には低地がみられ遺構は確認されず、南端から弥生時代後期の竪穴住居址2棟が検出された。低地に向かう斜面から多量の弥生時代後期の土器片が出土した。他に時期不明の溝状遺構が5本検出された。

すでに、円正坊遺跡群や清水田遺跡Ⅱで確認されているように、2軒の住居址とも床面が西方へ数10cm移動している地殻の変動がみられた。



枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅳ調査全体図（1：1,000）

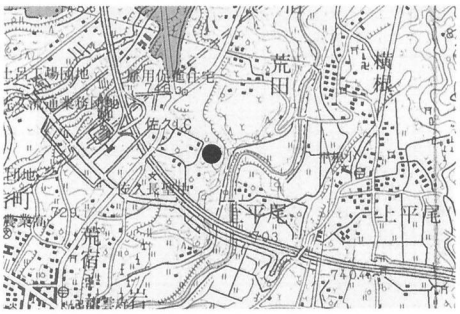
枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅳ（西方から）

枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅳ H 1号住居址（北方から）

枇杷坂遺跡群直路遺跡Ⅳ H 2号住居址（東方から）

栗毛坂遺跡群　東芝間遺跡

所　在　地　佐久市大字岩村田字東芝間3872-1
調査委託者　有限会社　田園不動産
開 発 事 業　宅地造成事業
調 査 期 間　平成13年12月5日～12月14日
調 査 面 積　300㎡
調査担当者　林　幸彦



栗毛坂遺跡群東芝間遺跡位置図（1:50,000）

立地と経過

栗毛坂遺跡群は佐久市大字岩村田に所在する。東芝間遺跡は栗毛坂遺跡群内湯川の右岸にあり、東・北東は急峻な田切り地形に臨む。標高740ｍを測る。今回、（有）田園不動産が宅地造成を計画したため事前に試掘調査を実施し平安時代の竪穴住居址5軒、溝5本、土坑6基を検出した。

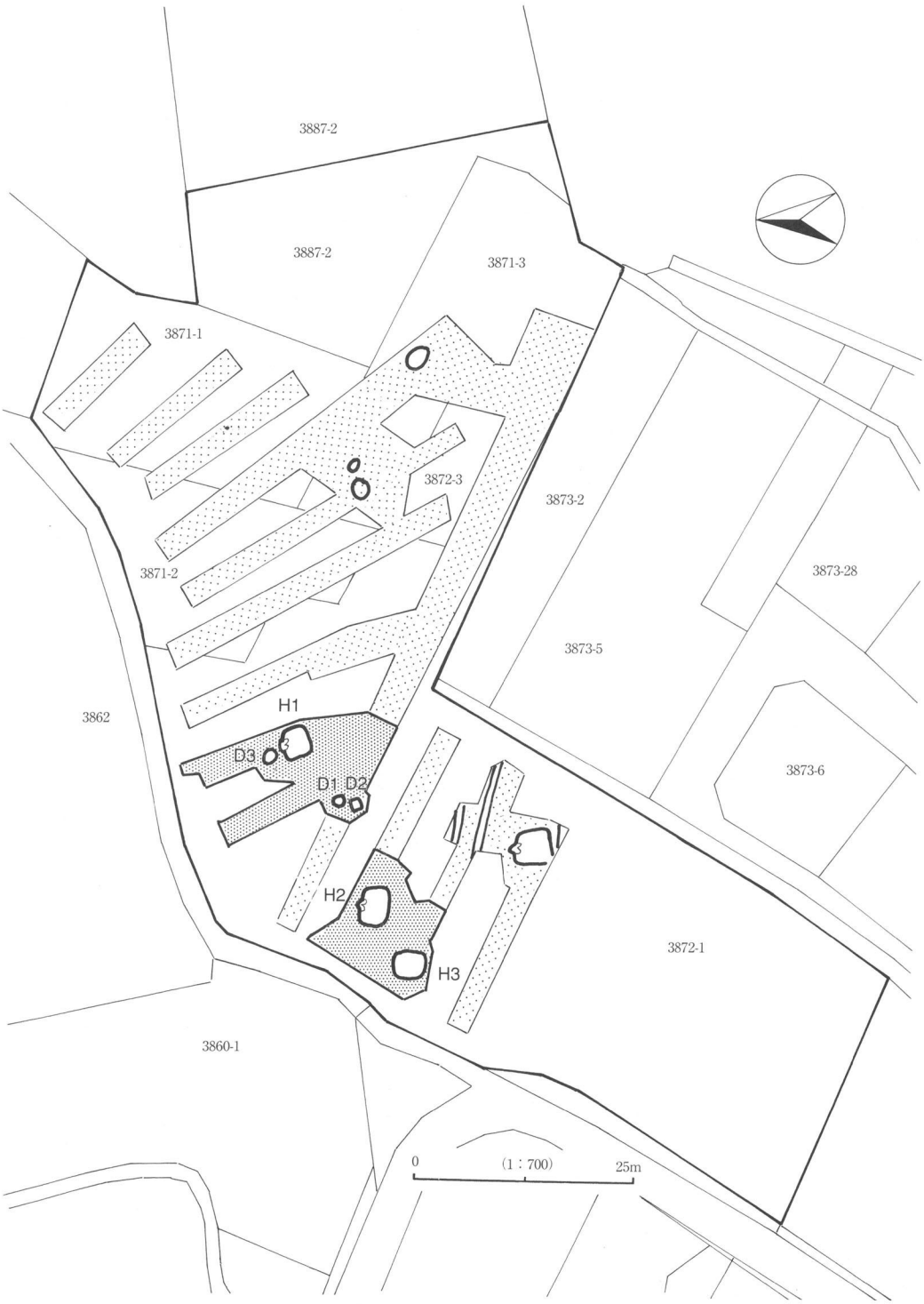
栗毛坂遺跡群東芝間遺跡近景（西方から）

保護協議の結果、削平される北西の位置の竪穴住居址3軒と土坑3基を調査することになった。

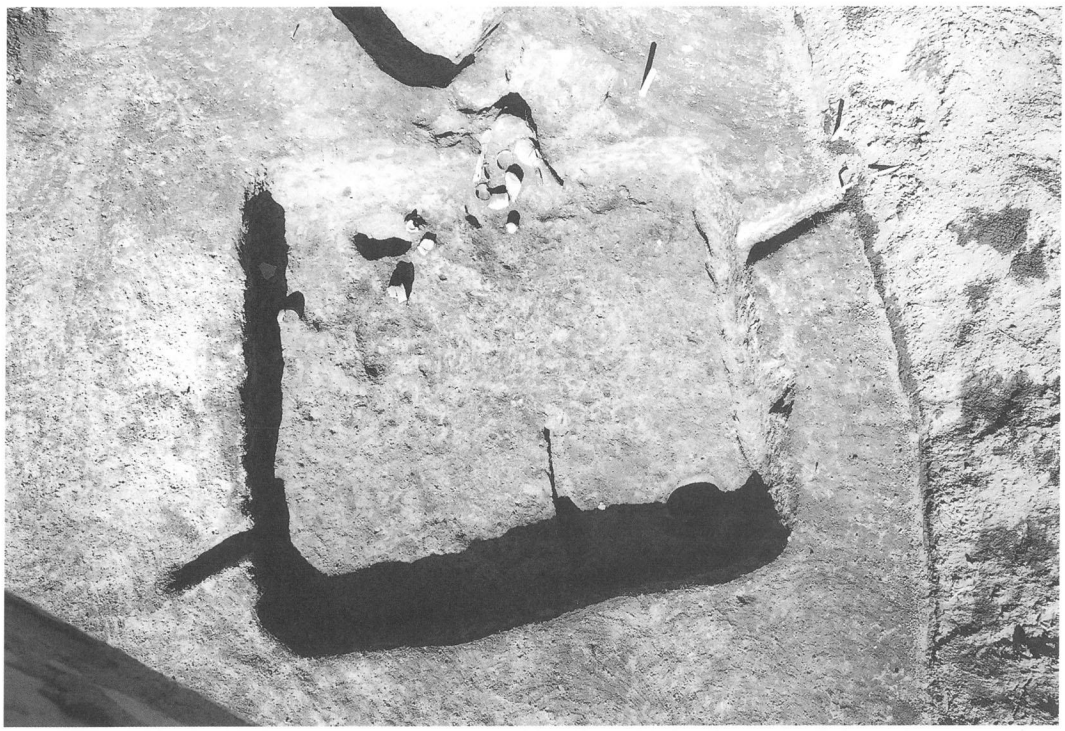
南の隣接地は、1995年（平成8年）サカイ創建（株）が宅地造成を計画したため試掘調査を実施している。平安時代の竪穴住居址6軒等が確認されたが開発は凍結された。その後、1998年11月（平成10年）には、同じ場所を（株）アメックが宅地造成を行った。削平される道路部分が発掘調査され（栗毛坂遺跡群Ⅱ）、平安時代10世紀後半の竪穴住居址3軒が検出された。

調査の概要

Ｈ1号住居址、Ｈ2号住居址ともに北にカマドを持つ。遺物は須恵器甕、土師器甕・坏等が出土した。土師器甕は、栗毛坂遺跡群Ⅱと同様にロクロ甕であった。



栗毛坂遺跡群東芝間遺跡調査全体図（1：700）

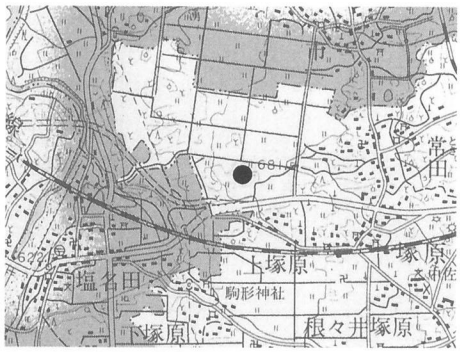


栗毛坂遺跡群東芝間遺跡Ｈ1号住居址（南方から）

栗毛坂遺跡群東芝間遺跡Ｈ2号住居址（南方から）

藤塚古墳群1号墳

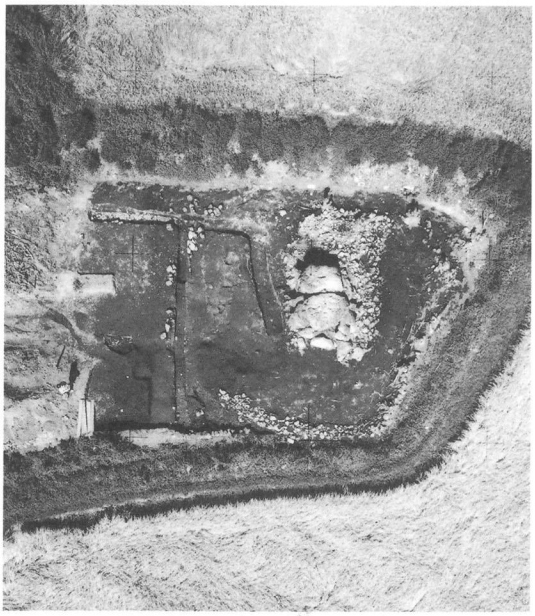
所　在　地　佐久市大字塚原字姫小石1543-1
調査委託者　曽根勇二　曽根深雪
開発事業　個人住宅建設
調査期間　平成13年8月20日～10月19日
調査面積　442㎡
調査担当者　林　幸彦



藤塚古墳群1号墳
藤塚遺跡Ⅳ位置図（1:50,000）

立地と経過

藤塚古墳群・藤塚遺跡は佐久市の北西端、浅科村と小諸市境に位置する。標高は670m内外である。発掘調査地点や周辺には、塚原泥流の「流れ山」が多く見られる。一帯は塚原泥流の西の端に近く、「流れ山」の最西端である。平成3・4年度に与志本林業（株）による資材置き場・加工場建設に関わり19,033㎡が発掘調査されている。円墳（古墳時代後期・7世紀末）3基、前方後円形の4号墳（古墳時代前期）1基、竪穴住居址3棟（古墳時代前期）、竪穴状遺構2棟等が検出されている。今回、曽根勇二・曽根深雪が住宅建設を計画した。保護協議を重ねたが保存が困難となり、藤塚古墳群1号墳とその周辺の発掘調査を実施した。

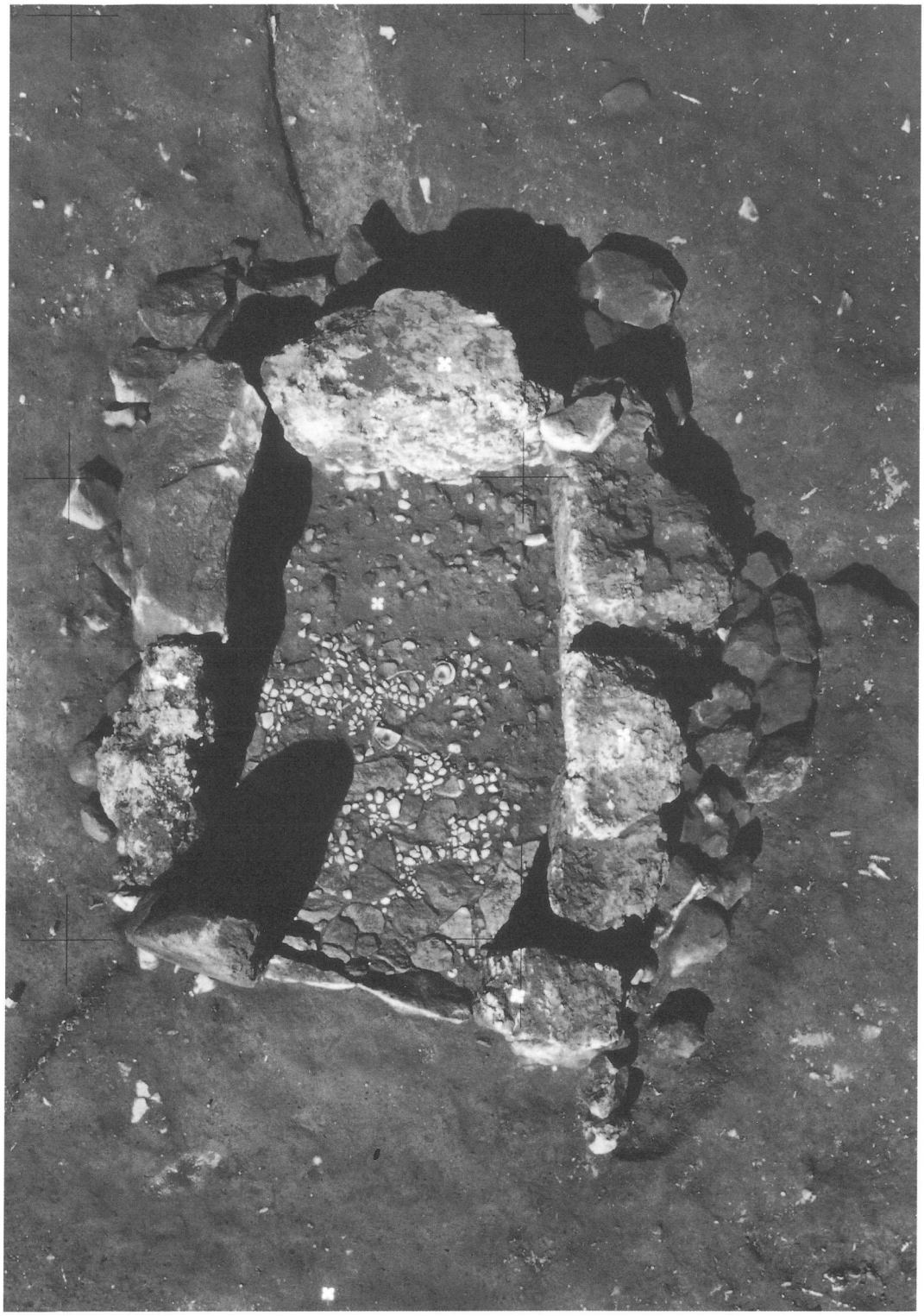

藤塚古墳群1号墳石室（南方から）

調査の結果

1号墳は、7世紀後半の両袖式の立柱石横穴石室を持つ円墳である。出土遺物は、石室礫床から須恵器甕片8点、鉄器1点、銅碗蓋1点が出土した。石室攪乱層から人骨・近世陶磁器類が出土した。調査区西端から、礫を伴う浅い溝状遺構が検出された。須恵器片が少量出土している。

藤塚古墳群1号墳石室全景（南方から）

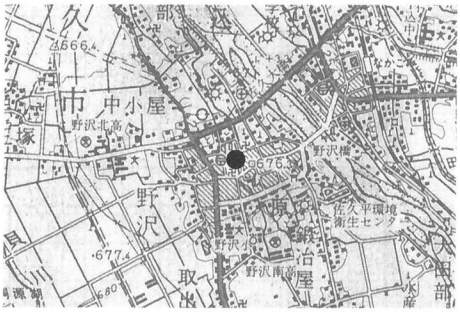
藤塚古墳群1号墳石室全景（西方から）



藤塚古墳群1号墳石室全景

野沢館跡Ⅲ

所　在　地　佐久市大字原字屋敷466-1、480-2
調査委託者　野沢潤子
開発事業名　集合住宅建設
調 査 期 間　平成13年10月25日～11月9日
調 査 面 積　250㎡
調査担当者　羽毛田卓也



野沢館跡Ⅲ位置図（1:50,000）

立地と経過

野沢館跡は佐久市大字野沢・原に所在し、千曲川西側に広がる河岸低段丘上、標高675m内外に展開する平安時代末期から中世の居館址である。本館跡内では平成3年度に試掘調査が実施され、中世の土坑・柱穴址・石組遺構等が確認されている。また、本調査地北側では平成11年度に薬師寺遺跡の発掘調査が行われ、近世の寺院と中世の園池が検出されている。

今回、野沢潤子により集合住宅の建設が計画され試掘調査を行った結果、対象地内全体に中世から近世にかけての遺構と遺物包含層が広がっていることが判明したため保護協議を行い、建物部分について発掘調査を行い、駐車場部分については保存されることとなった。

調査概要

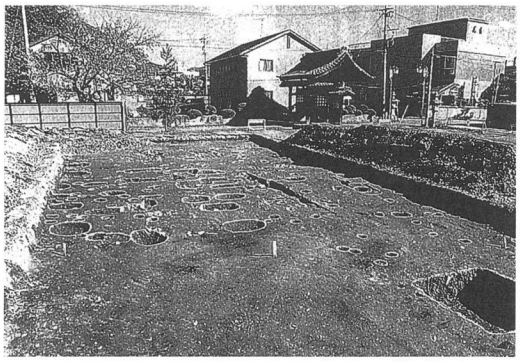
調査の結果、調査区全体から土坑31基、特殊遺構1基、柱穴址152基が検出された。今回の調査地は、薬師寺遺跡において検出された中世の園池や主郭部分に近接していることから密度の高い建物址の存在が予想されたが、近世以降の整地等によりかなりの削平・撹乱を受けていた。また、試掘調査を行った駐車場部分では中世の遺構密度は高く、比較的良好な状態で残存していることが確認された。

中世の遺物が出土した遺構は以下のとおりである。

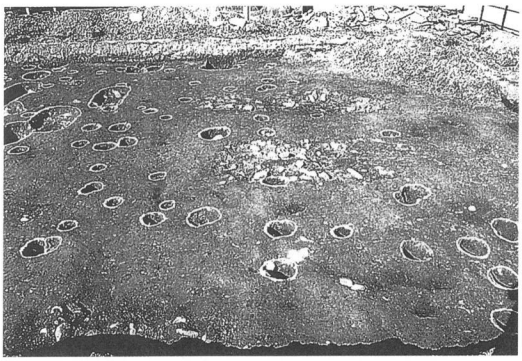
D2（常滑甕）、D5（土鍋）、D7（瀬戸灰釉）、D9（瀬戸）、D12（白磁）、D15（土師質土器）、D19（土鍋）、D22（白磁）、D24（土師質土器）、D28（青磁）、P3（土鍋）、P35（土鍋）、P45（土師質土器）、P71（土鍋）、P96（土鍋）、P104（瀬戸灰釉）、P141（土鍋・土師質土器）

近世の可能性が高い遺構はD8・D11・D21・D29である。T1は近代の地下室的な構造物と考えられる。柱穴址はいくつかのまとまりに分けることが可能で、おそらく中世期であろう建物址や柵列が想定される。

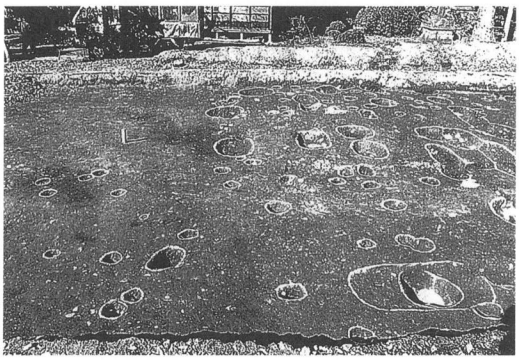
調査区全景（東方より）



調査区全景（西方より）



東側柱穴址群（南方より）

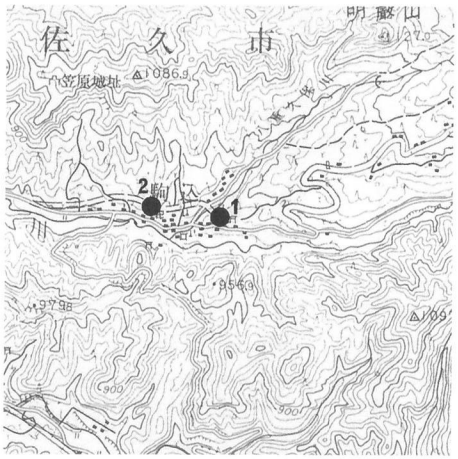


西側柱穴址・土坑群（南方より）

野沢館跡Ⅲ　全体図（1：200）

天神尾根遺跡・牛房沢遺跡

所　在　地　佐久市大字志賀字天神小根663
佐久市大字志賀字牛房沢1420-1.2
調査委託者　佐久建設事務所
開発事業名　緊急地方道路整備事業
調 査 期 間　平成13年5月29日～同年7月21日
調 査 面 積　天神小根遺跡　1,363㎡
午房沢遺跡　660㎡
調査担当者　須藤　隆司



天神小根遺跡（1）・午房沢遺跡（2）位置図（1：50,000）

経過と立地

天神小根遺跡は佐久市東部山地の志賀川と八重久保川合流部に位置し、山麓端部尾根状平坦面と段丘テラスに立地する。午房沢遺跡は志賀川の支流ゴボウ沢で形成された谷中緩斜面に立地する。両遺跡は平成9年度から開始された佐久建設事務所による緊急地方道路整備事業（駒込バイパス）に伴い発掘調査された遺跡である。

調査概要

天神小根遺跡では、平成12年度の段丘テラス調査地点でソフトローム層中・大窪沢第2軽石上部から旧石器時代の北方系細石刃石器群（補正14C年代14,770±80年BP）が発見された。

今回の調査地点は標高854mの丘陵頂部地点で実施した。その結果、縄文時代前期の土器・石器約100点からなるブロック（狩猟キャンプに伴う石器製作跡か）が確認された。利用石材は硬質頁岩を主体としており、平成12年度の細石器石器群の利用石材、下層偽石器の石材における硬質頁岩のあり方に加えて、本調査地点周辺における頁岩産地の存在を示唆するものであった。なお、ローム層掘り下げによる旧石器時代石器群の確認調査を行い、ＡＴ下位の数枚のテフラを確認したが、石器は出土しなかった。

午房沢遺跡の堆積状態は、表土下が地山である岩片混じり黄褐色粘質土層となる地点で大半が占められ、調査区東側に黒褐色土の堆積からなる幅4～11mの浅い谷部が確認された。

本遺跡は採集土器から平安時代の遺跡とされていたが、土師器片数片が検出されただけで遺構は確認されなかった。その一方で、幅の広い谷部北側で縄文時代前期・中期の土器十数片、打製石斧1点が検出された。

午房沢遺跡の調査トレンチ

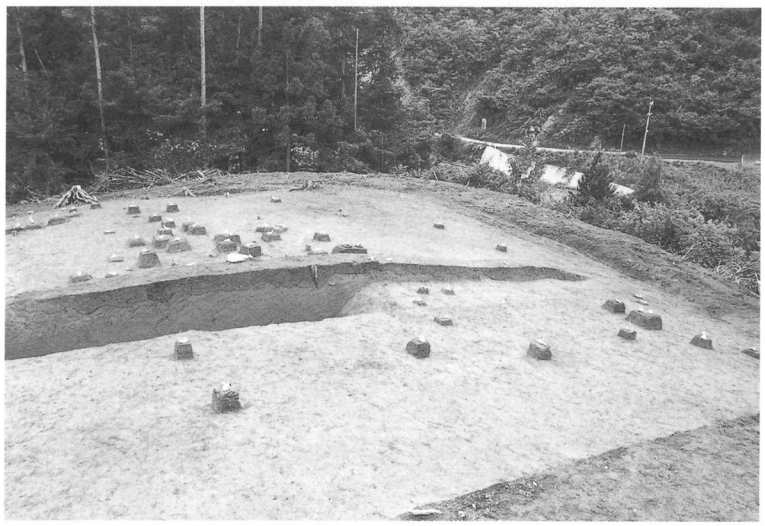
奥の黒い部分が縄文土器が出土した谷部。

天神小根遺跡遠景

八重久保川側
北より望む。

天神小根遺跡の遺物分布

丘陵頂部の集中部が
原位置。



東久保古墳群1号墳・宮田遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字平賀字東久保3398・3399
佐久市大字瀬戸字宮田2374-55

調査委託者　佐久市土地開発公社

開発事業名　道路改良（宮田線）

調 査 期 間　平成13年7月19日～同年11月2日

調 査 面 積　東久保古墳群1号墳　371.3㎡
宮田遺跡Ⅱ　86.6㎡

調査担当者　須藤　隆司

東久保古墳群1号墳（1）・宮田遺跡Ⅱ（2）位置図（1：50,000）

経過と立地

東久保古墳群1号墳は平賀地籍に所在し、平地に接する谷中斜面に立地する。宮田遺跡Ⅱは瀬戸地籍に所在し、丘陵小テラス面に立地する。

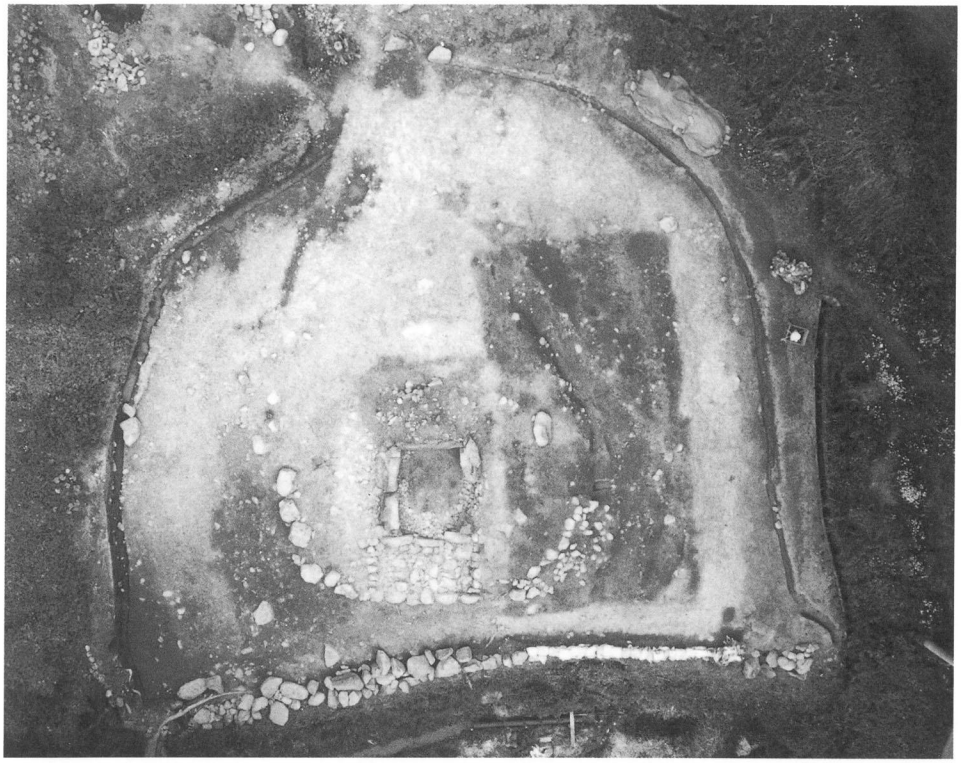
今回、佐久市総合運動公園建設に伴う道路改良（宮田線）が計画され、試掘調査で新たに確認した宮田遺跡Ⅱと路線変更が不可能なため記録保存が必要となった東久保古墳群1号墳の発掘調査を実施した。

調査概要

東久保古墳群1号墳調査前の状態は、過去の盗掘・畑の造成により墳丘は削られ、天井石が取り除かれた石室が露出していた。その石室も礫床のほとんどが掘り返され、多量の礫によって埋め戻された状態にあった。従って、副葬品のほとんどは失われ、被葬者の人骨さえ残存していなかった。ほぼ原位置で検出された副葬品は、玄室側壁近くに残された礫床から鉄製刀子1点、鉄製鍔1点、瑪瑙製勾玉1点である。また、盗掘坑に残された鉄製直刀1点・蛇紋岩製勾玉1点と墳丘外から瑪瑙製勾玉1点が出土した。

外護列石のあり方から墳丘直経は少なくとも10m規模と想定される。また、墳丘東側には小さな谷頭を有効に利用した周溝が存在した。石室は溶結安山岩の巨石を用いた南に開口する玄門付両袖式横穴式石室で、遺骸を安置する玄室は長さ3m、幅2mであり、玄室への通路となる羨道部は長さ2.5m、幅1mである。

試掘調査で新たに確認された宮田遺跡Ⅱでは、平安時代の竪穴住居址1軒が検出され、須恵器坏・蓋・甕が出土した。



東久保古墳群1号墳全景

東久保古墳群1号墳石室

新海坂遺跡群

新海坂遺跡（しんかいざか）

調査報告書

新海坂遺跡群　新海坂遺跡

所　在　地　佐久市大字根岸3000-1、3004-1外

調査委託者　佐久市建設部土木課

開発事業名　道路改良

調 査 期 間　平成11年9月31日～
10月14日

調 査 面 積　800㎡

調査担当者　上原　学

新海坂遺跡群　新海坂遺跡位置図（1:50,000）

例言・凡例

1　本書は、平成11年度、佐久市建設部土木課による道路改良事業に伴う佐久市大字根岸に所在する新海坂遺跡群新海坂遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査受託者　　佐久市大字中込3056　佐久市教育委員会　教育長

4　遺跡の略称ＮＭＳ

5　発掘調査は上原学が行った。

6　編集・執筆は上原が行った。

7　本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

8　遺構の略称は以下のとおりである。

Ｈ－竪穴住居址　　Ｄ－土坑　　Ｐ－ピット

9　スクリーントーンの表示は以下のとおりである。

遺　構　　地山　　焼土　　床下埋土

遺　物　　赤色塗彩

10 挿図の縮尺は以下のとおりである。

遺構－竪穴住居址1/80　　土坑1/80　　遺物－土師器・須恵器1/4　　石器2/3

11 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

12 調査区グリッドは公共座標に基づき大グリッド40×40m、小グリッド4×4mに設定。

13 土層・遺物の色調は、「新版標準土色帖」による。

立地と経過

新海坂遺跡群新海坂遺跡は佐久市大字根岸地積に所在し、蓼科山麓から佐久平に向かい舌状に張り出した尾根に挟まれた沢筋から西方向に枝状に延びる沢の緩斜面上に位置する。標高は723～730mである。

付近の調査としては、昭和61年度、新海坂遺跡の北北東、約1kmの立科丘陵地北端に位置する瀧の峯古墳群の調査が行われ、3基の古墳の調査が行われている。また、平成5年には新海坂遺跡の北1km、瀧の峯古墳群の北東300mの尾根の先端部、西から東方向に緩やかに傾斜する地域に所在する榛名平遺跡の調査が行われ、縄文時代前期から平安時代後期の竪穴住居址、古墳跡（坪の内古墳）、中世の竪穴状遺構、掘立柱建物址、墓跡（土壙墓・火葬墓等）といった遺構が存在し、これに伴う土器など多数の遺物が出土した。

今回、佐久市建設部土木課による道路改良事業が行われることとなり、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として、発掘調査を行う運びとなった。

新海坂遺跡位置図（1:5,000）

調査概要

新海坂遺跡は南北を尾根に挟まれた沢筋の緩斜面上に立地している。今回の調査からは古墳時代前期の住居址6軒が確認できた。遺物は住居址内出土の土師器、石器が出土した。

遺　構

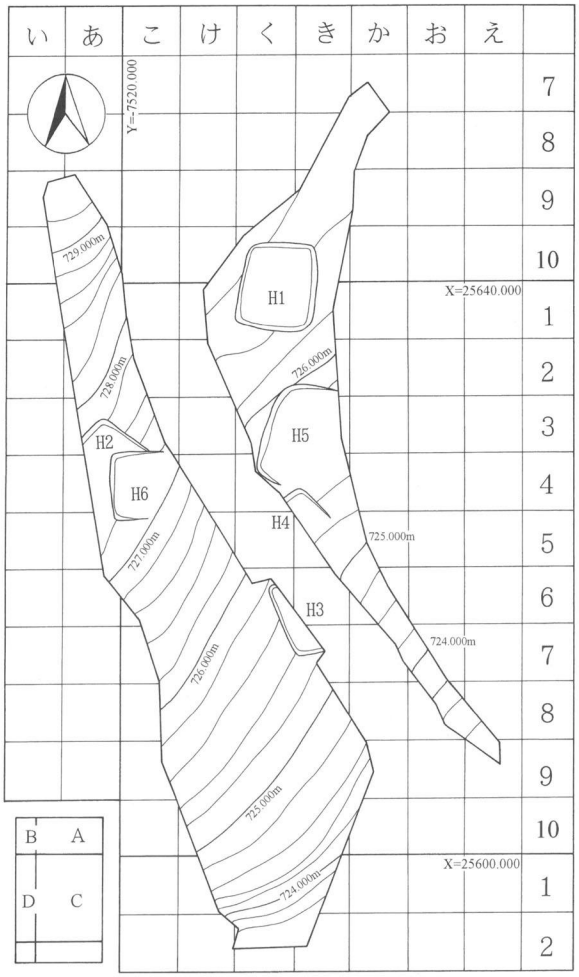
竪穴住居址ー6軒（古墳時代前期）

遺　物

土師器（高坏・台付甕・甕・壺・器台小型丸底壺・鉢・蓋）

石器（石鏃・石錐・スクレーパー）

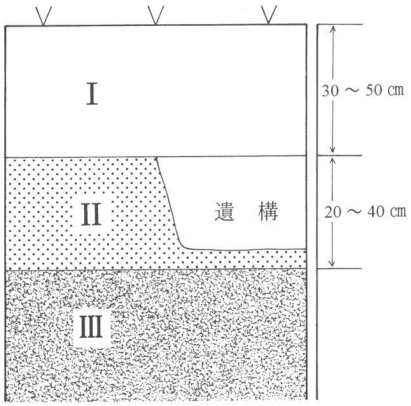
新海坂遺跡全景（北から）



新海坂遺跡遺構配置図（1:1,000）

基本層序

調査対象地域は畑地として利用されており、基本層序は上層から褐色土の耕作土（Ⅰ層）、強粘性のやや礫混じりの暗褐色土（Ⅱ層）、この地域に広く認められる相浜層の上層にあたるレキを多く含む暗褐色土（Ⅲ層）である。遺構確認はⅡ層の暗褐色土上面だが、遺構覆土が周囲とほぼ同一のため遺構検出はは困難を極めた。

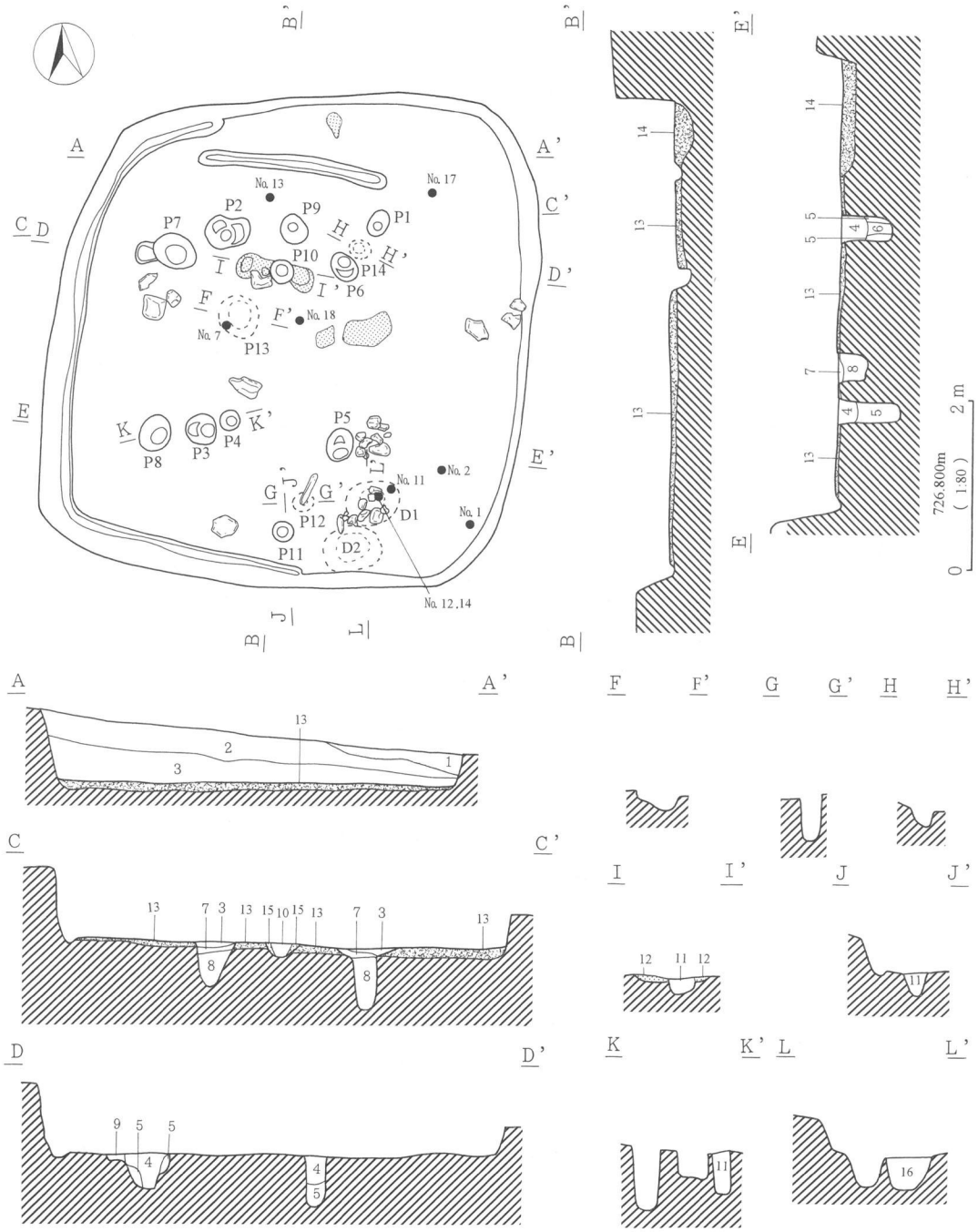


基本層序模式図

遺構と遺物

竪穴住居址（H）

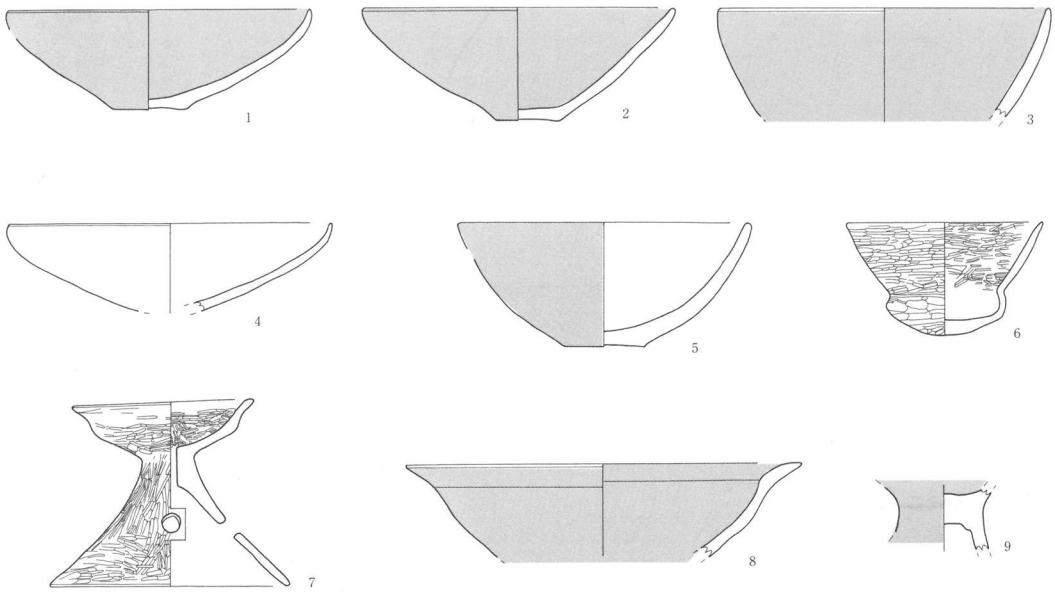
H1号住居址



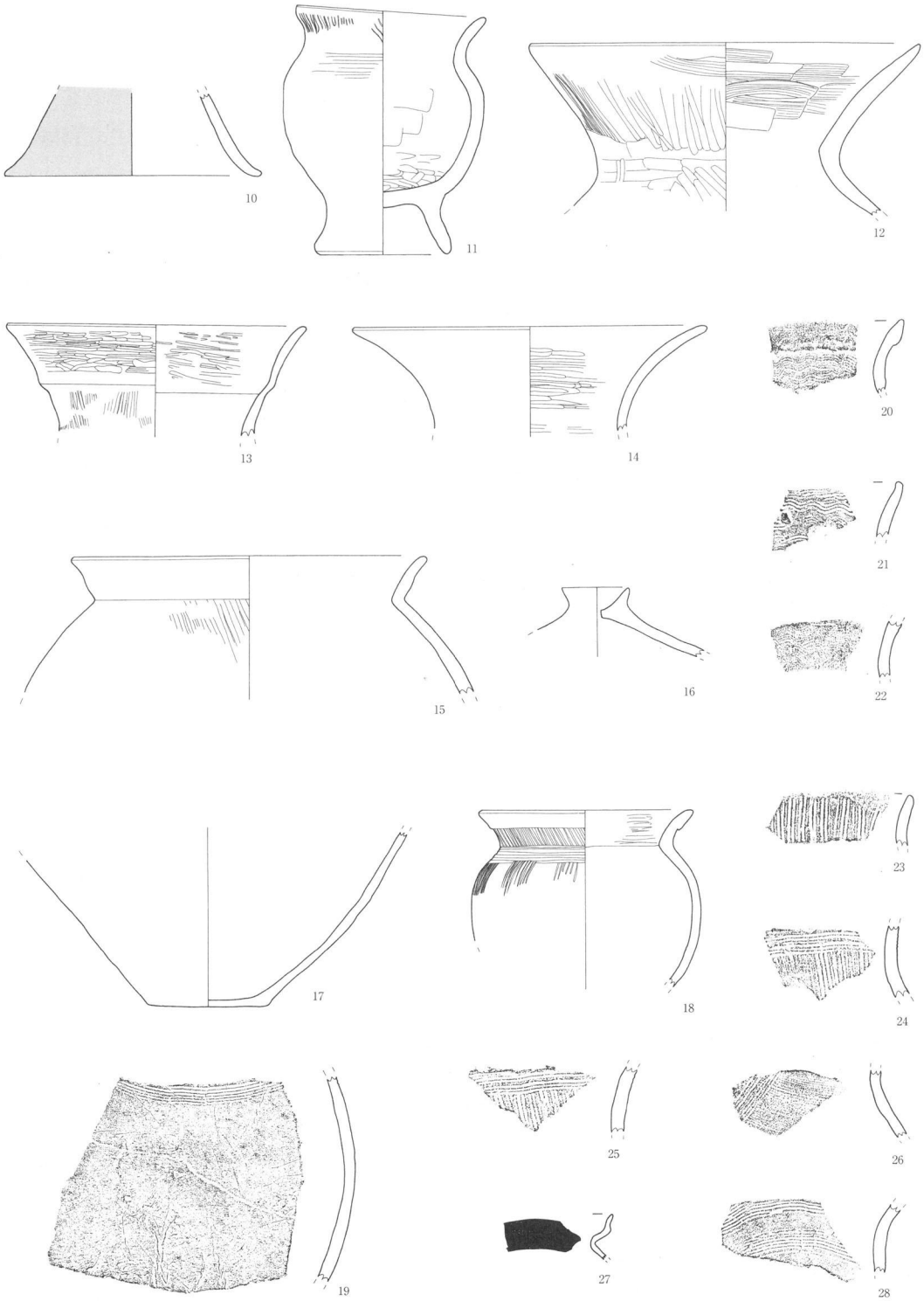
H1号住居址実測図

1層　暗褐色土（10YR3/3）小石含む。強粘性。
2層　黒褐色土（10YR2/2）小石・炭化物含む。強粘性、しまりあり。
3層　黒褐色土（10YR2/3）小石含む。強粘性、しまりあり。
4層　褐 色 土（10YR4/4）小石含む。しまり強固 。（貼床）
5層　黒褐色土（10YR2/3）小石含む。強粘性、しまりあり。
6層　黒褐色土（10YR2/3）赤色粒含む。粘性・しまりあり。
7層　赤褐色土（2.5YR4/6）焼土層。黒色土わずか含む。
8層　黒褐色土（7.5YR2/2）焼土・炭化物含む。しまりあり。（炉址）
しまりややあり。（炉址）
9層　赤褐色土（2.5YR4/6）焼土層。しまりあり。（炉址）
10層　黒褐色土（10YR2/2）炭化物含む。粘性あり。
11層　黒褐色土（10YR2/3）炭化粒含む。粘性ややあり、しまりなし。

遺構はA－く－10グリットの緩斜面上に位置する。覆土は強粘性の黒褐色・暗褐色土で、自然堆積と考えられる。規模は南北5.2m～5.8m、東西5.0m～5.6m、深さは最深で0.76m（床面）を測り、平面形はやや隅丸の方形である。壁は斜面に構築されていることから斜面上部である西側では残りがよく、壁高も70cm内外を測るが、斜面下の東側では30cm前後と低くなる。床面は堅く土間状を呈し、西壁及び南北壁の西半分の壁際に周溝が認められた。ピットは床面上に12個あり、P1～P5・P6～P8といった2組の主柱穴が存在した。これは、北側に一部不自然に壁内部に巡る周溝が存在すること、東側に周溝がなく空間が広いことなどから本住居址は拡張による立て替えが行われた可能性が考えられ、建て替え前は東よりに位置するP1～P5を使用し、建て替え後にP6～P8を使用したものと思われる。炉はP1とP2の間及びP6とP7の間に存在するほか、住居址中央付近に焼土の堆積が認められた。また南東隅には小規模な土坑が2基存在し、土坑1からは小型台付甕、甕の輪切り状の口縁部が出土した。床下は2～4cm前後の厚さの貼り床が認められるだけであった。よって、掘方は床面を平らにする程度のものであったと考えられる。新たにピットが2個確認できた。



H1号住居址遺物実測図（1）



H1号住居址遺物実測図（2）

遺物は土師器の鉢、高坏、壺、小型丸底壺、甕、小型台付甕、器台、石器（黒曜石）が出土し

た。1～5は鉢で1～3は内外面赤色塗彩を施し、うち1､2は小型の底部から開き気味に立ち上がり口縁付近においてやや内彎し立ち上がる。3、4は口縁付近の破片である。5は底部から口縁にかけて内彎気味に立ち上がり、外面は摩耗しているものの僅かに赤色塗彩された痕跡が認められる。6は小型丸底壺で手持ち篦削りされた底部から丸みを持ちながら頸部にいたり､口辺部はやや開き直線的に口縁部に至る。細かなミガキを施す。7の小型器台とセットと考えられる。7は小型器台で脚部に3個のすかしを持つ。坏部は体部途中で明瞭な稜を持ち、そこからほぼ垂直に立ち上がった後口縁付近にて大きく外反する。6の小型丸底壺とセットと考えられる。8～10は高坏で8は内外面赤色塗彩された坏部口縁の破片である。9は頸部で外面赤色塗彩を施す。10は脚部の破片で外面赤色塗彩を施す。11は小型台付甕で太めの台部から丸みを帯ながら頸部に至り、やや開き気味に口縁部に至る。口辺部に縦方向の櫛描文、体部上半に横方向の櫛描文を施す。12は甕13、14は壺の口縁付近で12は口縁部完残で体部から「く」の字に立ち上がる。13は口辺部途中に明瞭な稜を持つ。14の口辺はやや外反しながら口縁部に至る。15は甕と思われ丸みをおびた体部から「く」の字に折れ口縁部に至る。16は蓋でつまみ中央に形3㎜程度の孔が認められる。17は甕で底部から体部の一部である。18は2重口縁の小型甕で、19は壺の体部破片で外面に簾状文、斜めの櫛描文を施す。20～28は口縁、体部の破片で、20～22は櫛描波状文、23は縦方向の櫛描文、24・25は縦の櫛描文及び横方向の簾状文を施す。26は斜め方向の櫛描文、27はＳ字状口縁の甕の破片である。28は簾状文及び外面赤色塗彩を施す。このほか覆土中から多数の黒曜石が出土した。本住居址は古墳時代前期中頃と考えられる。

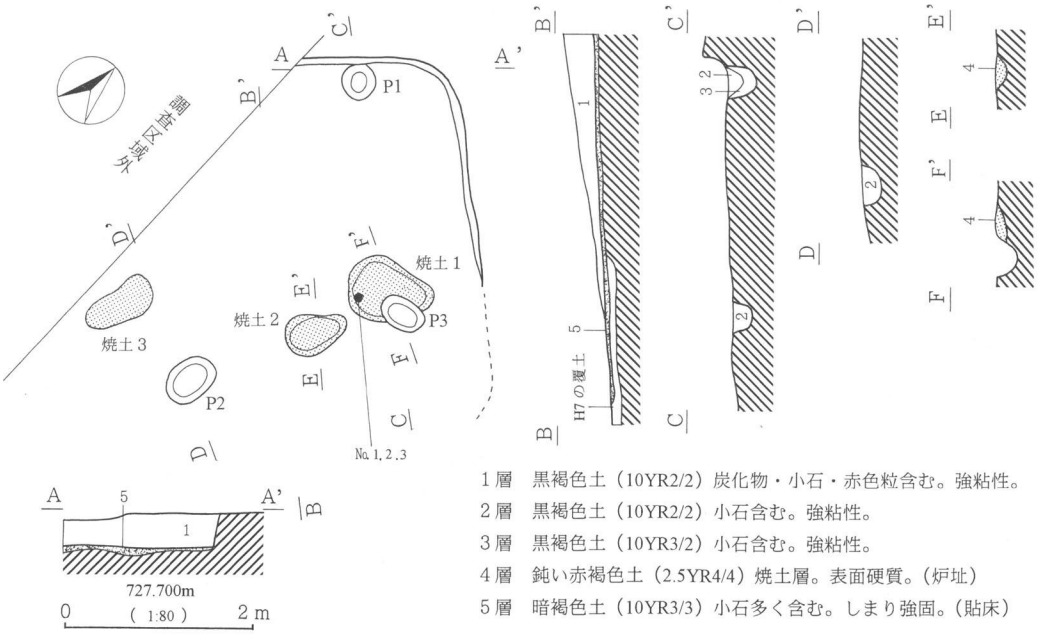
番号	器種・器形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率%・部位	焼　成	色調(外面)
1	土師器 鉢	16.5	3.4	6.0	内外面横ミガキ・赤色塗彩　底部ヘラ削り	100	良好	2.5YR4/6 赤褐色
2	土師器 鉢	(16.2)	3.8	5.2	内外面横ミガキ・赤色塗彩　底部ヘラ削り	40	良	2.5YR4/4 鈍い赤褐色
3	土師器 鉢	—	—	—	内外面横ミガキ・赤色塗彩	口縁破片	良	10R4/4 赤褐色
4	土師器 鉢	(17.6)	—	—	内外面横ミガキ	口縁破片	良	7.5YR7/4 鈍い橙色
5	土師器 鉢	(15.6)	4.2	6.5	外面僅かに赤色塗彩の痕跡あり	20	良	7.5YR5/8 明褐色
6	土師器 小型丸底壺	10.5	丸底	6.0	内外面細かいミガキ	80	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色
7	土師器 器台	9.6	12.8	9.9	脚部外面縦・裾部横ミガキ　台部内外面横ミガキ 台部中央径9.6㎜の孔１個　脚部に10㎜の孔３個	95	良好	7.5YR7/4 鈍い橙色
8	土師器 高坏	—	—	—	内面横ミガキ　内外面赤色塗彩	坏部破片	良	7.5YR7/6 橙色
9	土師器 高坏	—	—	—	脚部外面　坏部内面赤色塗彩	頸部のみ	良	10R4/4 赤褐色
10	土師器 高坏	—	—	—	外面縦ミガキ・赤色塗彩 内面横ハケ目	脚部破片	良	10R4/6 赤色
11	土師器 台付甕	11.5	8.2	15.1	口縁縦櫛目　体部横櫛描文　台部張り付け 内面ヘラナデ	75	良	2.5YR5/4 鈍い赤褐色
12	土師器 甕	—	23.8	—	口縁外面縦ミガキ 口縁内面横櫛目	口縁100	良	5YR8/4 淡橙色
13	土師器 蓋	—	18.3	—	口縁外面上半横ミガキ　下半縦櫛描文 口縁内面横ナデ	口縁95	良	7.5YR6/4 鈍い橙色

H1号住居址遺物観察表（1）

14	土師器 壺	(21.6)	—	—	口縁外面縦ミガキ 口縁内面横ミガキ	口縁25	良	2.5Y8/4 淡黄色
15	土師器 甕	(21.5)	—	—	口縁外面下半・体部斜め櫛目	口縁破片	良	7.5YR5/6 明褐色
16	土師器 蓋	4.1	—	—	つまみ中央に径３㎜の孔	20	良	5YR7/4 鈍い橙色
17	土師器 甕	—	—	—	内外面摩耗　底部ヘラ削り	底部から体部	良好	7.5YR6/4 鈍い橙色
18	土師器 壺	13	—	—	口縁二重口縁、縦櫛目、頸部下部横櫛目 胴上部縦櫛目　口縁内面ナデ	60	良	2.5YR5/6 明赤褐色
19	土師器 甕	—	—	—	頸部外面簾状文　外面体部ハケ目 内面ヘラナデ	体部破片	良	7.5YR6/6 橙色
20	土師器 甕	—	—	—	二重口縁 外面櫛描波状文	口縁破片	良	5YR5/4 鈍い赤褐色
21	土師器 甕	—	—	—	外面櫛描波状文	口縁破片	良	7.5YR5/4 鈍い褐色
22	土師器 甕	—	—	—	外面櫛描波状文	破片	良	7.5YR4/4 鈍い褐色
23	土師器 甕	—	—	—	外面縦櫛描文	口縁破片	良	2.5YR5/8 明赤褐色
24	土師器 甕	—	—	—	外面簾状文・縦櫛描文	頸部破片	良	7.5YR6/6 橙色
25	土師器 甕	—	—	—	外面簾状文・縦櫛描文	頸部破片	良	7.5YR6/6 橙色
26	土師器 甕	—	—	—	外面縦・横櫛描文	頸部破片	良	10YR8/3 浅黄橙色
27	土師器 甕	—	—	—	外面横簾状文・赤色塗彩	頸部破片	良	7.5YR6/4 鈍い橙色
28	土師器 甕	—	—	—	口縁横ナデ	口縁破片	良	7.5YR4/3 褐色

H1号住居址遺物観察表（2）

H2号住居址

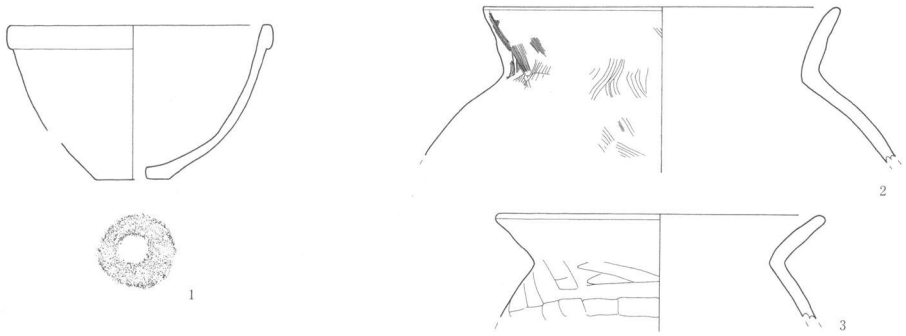


1層　黒褐色土（10YR2/2）炭化物・小石・赤色粒含む。強粘性。
2層　黒褐色土（10YR2/2）小石含む。強粘性。
3層　黒褐色土（10YR3/2）小石含む。強粘性。
4層　鈍い赤褐色土（2.5YR4/4）焼土層。表面硬質。（炉址）
5層　暗褐色土（10YR3/3）小石多く含む。しまり強固。（貼床）

H2号住居址実測図

遺構はD－あ－3グリットの緩斜面上に位置する。覆土は強粘性の黒褐色土である。規模は西側は調査区外及び、遺構が斜面に構築され壁が存在しないため不明である。確認された規模は北

壁1.8m、東壁2.4m、壁高は北壁最深部で36cmを測る。（床面）平面形は確認できた北東コーナーの形状から隅丸の方形と考えられる。床面は北壁から南に4.0m付近まで堅く土間状を呈していることから、少なくともこの範囲までは住居内であったものと思われ、3箇所に焼土の堆積及び3個のピットが認められた。焼土範囲のうち焼土1．2はやや窪みを持ち、焼土の堆積が認められたことから住居址の炉址と思われる。ピットについては主柱穴であるかは不明である。床面下は2～4cm程度で地山に達することから、掘方は床面を平らにする程度のものであったと考えられる。遺物は土師器の甕、甑が出土した。1は甑で、底部からやや内彎ぎみに立ち上がる。2、3は口縁から体部に至る甕の破片で頸部が「く」の字状を呈する。本住居址は古墳時代前期中頃のものと考えられる。



H2号住居址遺物実測図

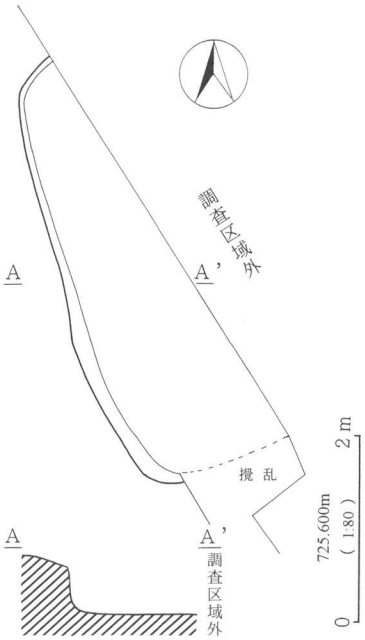
番号	器種・器形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率%・部位	焼　成	色調(外面)
1	土師器 甑	(14.2)	3.8	8.1	二重口縁　底部径13mmの孔	30	良	5YR6/8 橙色
2	土師器 甕	(19.0)	—	—	口縁内外面横ナデ　外面櫛目 体部内面ヘラナデ	口縁50	良	5YR6/8 橙色
3	土師器 甕	(17.6)	—	—	口縁横ナデ　体部外面僅かに櫛目	口縁25	良	5YR6/6 橙色

H2号住居址遺物観察表

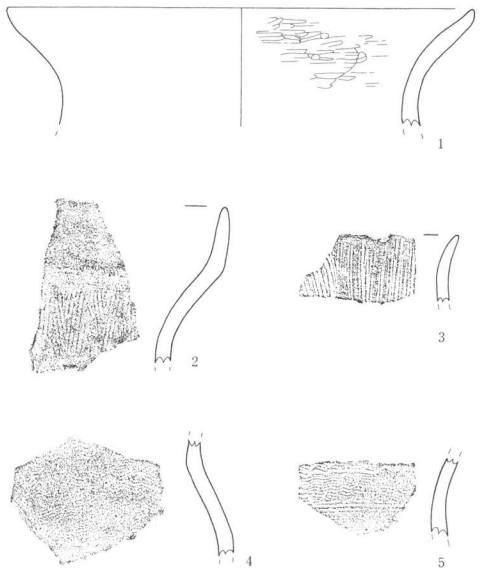
H3号住居址

遺構はC－く－6グリットの緩斜面上に位置し、東側は調査区外となる。完全な規模は東側が調査区外のため不明である。確認規模は南北4.8m内外、東西0.6m～1.6m、壁高は最深の北西コーナー付近で70cmを測る。平面形は残存部の形状から隅丸方形と思われる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は堅さを持つがピット、炉址は認められなかった。

遺物は、甕・壺片が出土した。1～2は壺の口縁破片と思われ、1は頸部付近からやや外反気味に立ち上がり口縁付近にてやや内彎し口縁に至る。2は頸部からやや外反気味に立ち上がり口辺上部から角度が急激に立ち上がり口縁に至る。外反する下部に薄く縦方向の櫛描文が認められる。3は甕の口縁で、やや外反気味で外面に縦方向の櫛描文を施す。4、5は甕の頸部付近の破片と思われ、外面に櫛描波状文を施す。本住居址は古墳時代前期中頃と考えられる。



H3号住居址実測図



H3号住居址遺物実測図

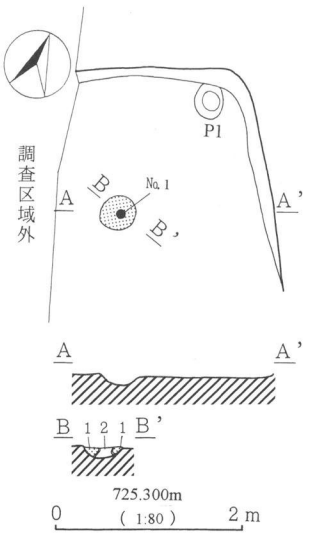
番号	器種・器形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率%・部位	焼　成	色調(外面)
1	土師器 壺	(25.0)	—	—	内外面横ナデ	口縁破片	良	7.5YR7/6 橙色
2	土師器 壺	—	—	—	内外面横ナデ 外面縦櫛描文	口縁破片	良	5YR7/4 鈍い橙色
3	土師器 甕	—	—	—	外面縦櫛描文 内面横ミガキ	口縁破片	良好	7.5YR6/4 鈍い橙色
4	土師器 甕	—	—	—	外面櫛描波状文	体部破片	良	7.5YR7/6 橙色
5	土師器 甕	—	—	—	外面横櫛描文・櫛描波状文	体部破片	良	7.5YR6/6 橙色

H3号住居址遺物観察表

H4号住居址

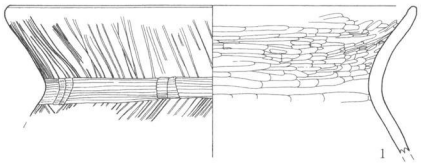
遺構はC－き－4グリットの緩斜面上に位置し、東側は調査区外となる。覆土は強粘性の黒褐色土である。規模は調査区外及び遺構の構築場所が緩斜面上であるため全体の4分の1程度の確認にとどまった。確認規模は北壁1.8m、東壁2.4m、壁高は最深の北壁付近で15cm内外を測る。床面は堅く炉址及びピット1が認められた。炉の窪みの中には甕の口縁部を輪切りにしたものが埋め込まれ、焼土が堆積していた。床下は1～3cm程度で地山に達することから、掘方は床面を平らにする程度のものであったと思われる。

1層　黒褐色土（10YR3/2）焼土・炭化物含む。強粘性。（炉址）
2層　褐　色　土（7.5YR4/6）焼土多く、炭化物含む。しまりあり。（炉址）



H4号住居址実測図

遺物は炉址から甕の口縁部が出土し、頸部に簾状文、口辺部に縦方向の櫛描文、体部に斜め方向の櫛描文を施す。本住居址は古墳時代前期中頃と考えられる。



H4号住居址遺物実測図

番号	器種・器形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率%・部位	焼　成	色調(外面)
1	土師器 甕	21.6	―	―	口縁・体部外面縦櫛描文　頸部簾状文 口縁内面横ミガキ	口縁100	良好	2.5YR5/6 明赤褐色

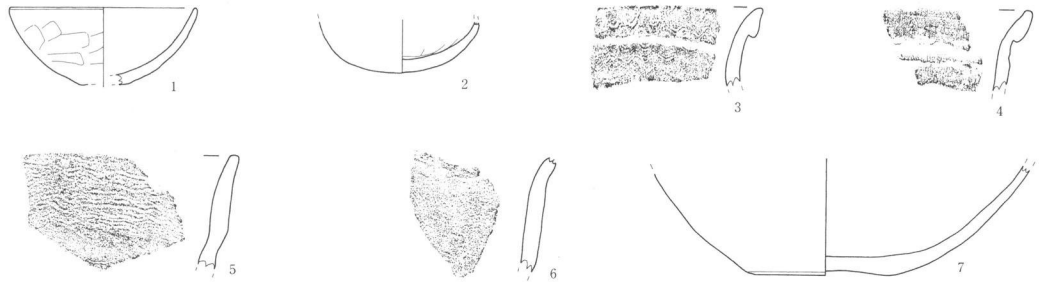
H4号住居址遺物観察表

H5号住居址実測図

1層　暗褐色土（10YR3/3）小石含む。強粘性。
2層　黒褐色土（10YR2/2）小石・炭化物含む。強粘性、しまりあり。
3層　黒褐色土（10YR2/3）小石含む。強粘性、しまりあり。
4層　褐 色 土（10YR4/4）小石含む。しまり強固 。（貼床）
5層　黒褐色土（10YR2/3）小石含む。強粘性、しまりあり。
6層　黒褐色土（10YR2/3）赤色粒含む。粘性・しまりあり。
7層　赤褐色土（2.5YR4/6）焼土層。黒色土わずか含む。
8層　黒褐色土（7.5YR2/2）焼土・炭化物含む。しまりあり。（炉址）
9層　赤褐色土（2.5YR4/6）焼土層。しまりややあり。（炉址）
10層　黒褐色土（10YR2/2）炭化物含む。しまりあり。（炉址）
11層　黒褐色土（10YR2/3）炭化粒含む。粘性ややあり、しまりなし。

遺構はC－き－3グリットの緩斜面上に位置する。覆土は強粘性の暗褐色土である。住居址全体の規模は遺構が斜面上に構築されていることから斜面下である東壁が未確認なため不明である。確認規模は西壁6.6m、東壁4.2m、壁高は西壁の最深部で0.45mを測る。壁はやや外形し立ち上がる。平面形は確認された状況から隅丸の方形と考えられる。床は住居内の平坦部全体に渡り堅く貼り床され。西壁から北壁の一部にかけて周溝が巡る。ピットは床面上で3個認められ、これが主柱穴と思われるが住居内の北東に存在すると思われるピットの確認はできなかった。また床面上には4箇所の焼土範囲が存在し、調査の結果、住居内中央のやや北に位置し、10cm内外の深さを持ち、多量の焼土が堆積していた焼土1が本住居址の炉址と考えられた。床下は2～3cm程度で地山に達することから、掘方は床面を平らにする程度のものであったと思われる。

遺物は鉢、小型丸底壺、甕、壺が出土した。1は小型の鉢で非常に小型の底部から内彎しながら立ち上がる。2は小型丸底壺の底部と考えられる。3～7は壺、甕の口縁、底部の破片で、3、4は二重口縁の口縁部で3の外面には細かい櫛描波状文を施す。5は口縁部の破片で外面に細かい櫛描波状文を施し、口辺途中に稜が認められる。6は体部の破片である。7は底部から体部の一部にかけてで底部からやや丸みを帯ながら立ち上がる。本住居址は古墳時代前期中頃のものと考えられる。



H5号住居址遺物実測図

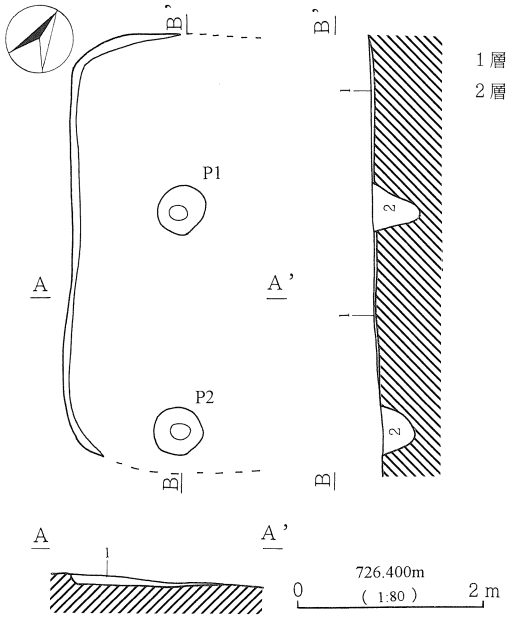
番号	器種・器形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率%・部位	焼　成	色調(外面)
1	土師器 鉢	(10.0)	(2.4)	(4.1)	外面ヘラ削り	25	良好	7.5YR6/6 橙色
2	土師器 小型丸底壺	—	丸底	—	外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	底部周辺破片	良	5YR7/6 橙色
3	土師器 壺	—	—	—	二重口縁 外面櫛描波状文	口縁破片	良	7.5YR7/6 橙色

H5号住居址遺物観察表（1）

4	土師器 壺	—	—	—	二重口縁	口縁破片	良	5YR4/2 灰褐色
5	土師器 壺	—	—	—	外面櫛描波状文	口縁破片	良	5YR6/6 橙色
6	土師器 甕	—	—	—	外面摩耗	体部破片	良	5YR4/1 褐灰色
7	土師器 甕	—	7.3	—	外面縦ミガキ 内面ヘラナデ	底部周辺破片	良	5YR6/4 鈍い橙色

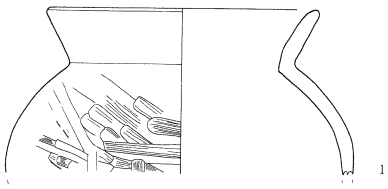
H5号住居址遺物観察表（2）

H6号住居址



H6号住居址実測図

1層　黒褐色土（10YR2/2）炭化物・赤色粒含む。強粘性。（掘方）
2層　黒褐色土（10YR2/2）炭化物含む。粘性あり。



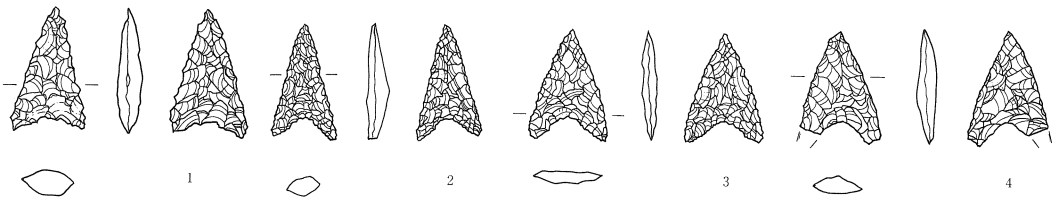
H6号住居址遺物実測図

遺構はC－こ－4グリットの緩斜面上に位置しH2号住居址に切られ、掘方のみ残存していた。確認された規模は西壁及び北壁の一部とピット2個である。遺物はピット2から頸部が「く」の字を呈する同丸の壺1点が出土した。本住居址は古墳時代前期中頃のH2に切られるが、出土遺物にさほど時期差が認められないことから、やや時代の遡る古墳時代前期中頃のものと考えられる。

番号	器種・器形	口径cm	底径cm	器高cm	調　整・文　様	残存率%・部位	焼　成	色調(外面)
1	土師器 壺	(23.5)	—	—	口縁外面縦櫛描文 体部外面横・斜め櫛描文	口縁・体部破片	良	5YR3/4 暗赤褐色

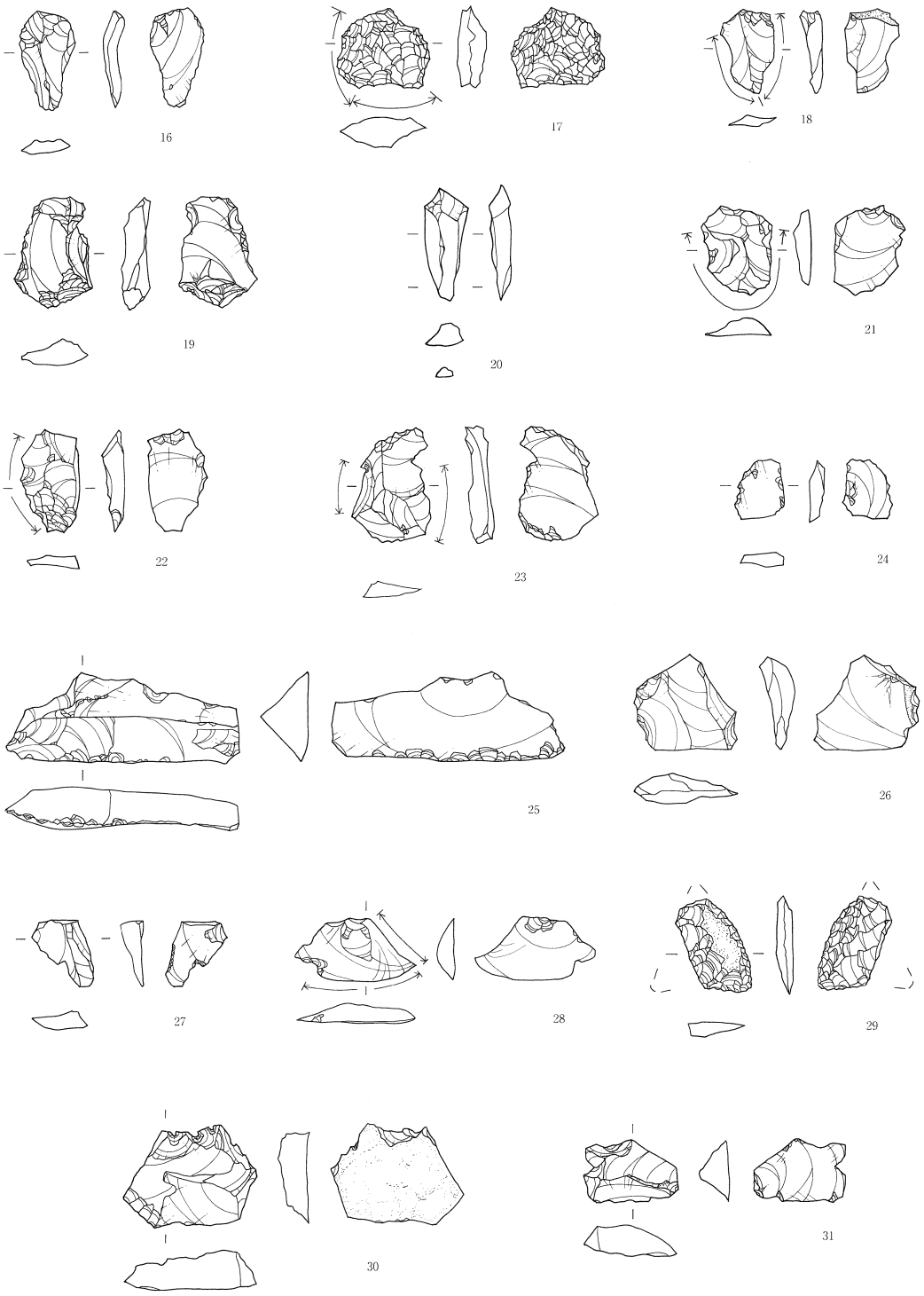
H6号住居址遺物観察表

石　器

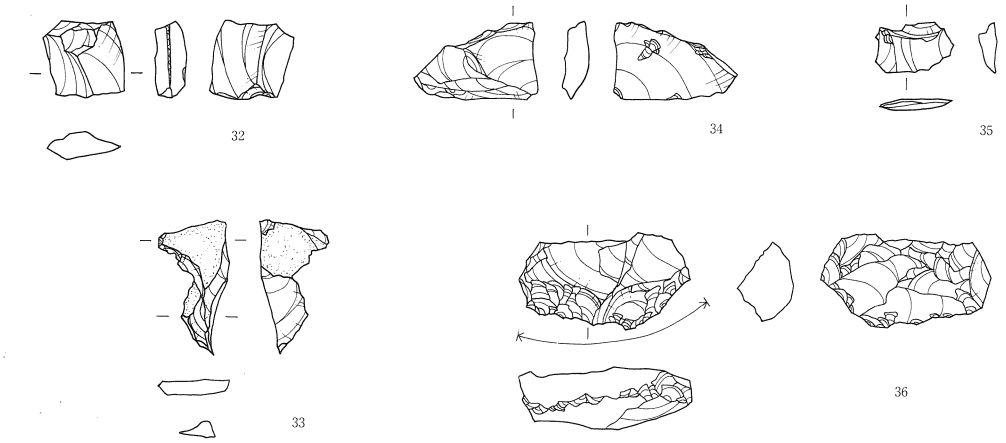


1・5号住居址石器実測図

H1号住居址石器実測図



H 1号住居址石器実測図



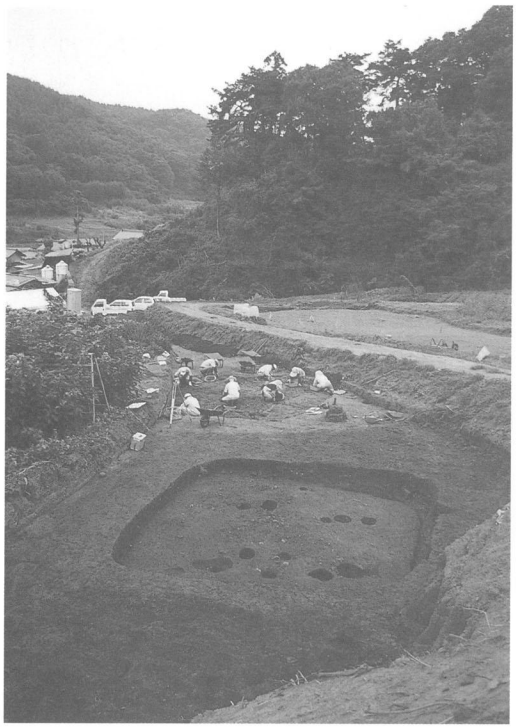
H1号住居址石器実測図

番号	器　種	石　材	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)
1	石鏃	黒曜石	2.55	1.5	0.5	1.1
2	石鏃	黒曜石	2.3	1.3	0.4	0.6
3	石鏃	黒曜石	2.2	1.6	0.3	0.6
4	石鏃	黒曜石	2.3	1.65	0.4	0.9
5	剥片	黒曜石	3.2	1.1	1.1	5.9
6	剥片	黒曜石	2.1	2.6	0.8	3.6
7	コア	黒曜石	3.9	2.9	2	20.2
8	スクレーパー	黒曜石	2.9	5.9	1.9	20.8
9	剥片	黒曜石	1.8	3.8	1.2	4.6
10	石鏃未製品	黒曜石	2.6	3.2	0.9	5.8
11	剥片	黒曜石	6.1	2	1.1	8.3
12	剥片	黒曜石	3.7	1.6	0.5	1.9
13	石錐	黒曜石	2.6	1.6	1	1.6
14	剥片	黒曜石	2.6	4	1.1	7.6
15	剥片	黒曜石	2	1.4	0.3	0.5
16	剥片	黒曜石	2.2	1.1	0.6	0.9
17	スクレーパー	黒曜石	1.8	2.2	1.7	2.1
18	剥片	黒曜石	1.85	1.25	0.55	0.5

番号	器　種	石　材	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)
19	剥片	黒曜石	2.5	1.9	0.7	1.9
20	石錐	黒曜石	2.55	0.95	0.5	1
21	剥片	黒曜石	2	1.55	0.45	2.8
22	剥片	黒曜石	2.3	1.35	0.5	1.4
23	剥片	黒曜石	2.6	1.8	0.7	1.9
24	剥片	黒曜石	1.3	1.1	0.3	0.4
25	剥片	黒曜石	2.05	5.25	1.05	7.1
26	剥片	黒曜石	2.1	2.35	0.7	2
27	剥片	黒曜石	1.5	1.35	0.55	0.4
28	剥片	黒曜石	1.4	2.7	0.45	1.5
29	石鏃未製品	黒曜石	2.3	1.7	0.3	1.1
30	剥片	黒曜石	2.3	2.95	1	4.8
31	剥片	黒曜石	1.4	2.1	0.7	1.4
32	剥片	黒曜石	1.65	1.55	0.65	1.5
33	石錐	黒曜石	2.6	1.4	0.4	1
34	剥片	黒曜石	1.55	2.5	0.5	1.5
35	剥片	黒曜石	1	2.05	0.35	0.3
36	スクレーパー	黒曜石	2	3.5	1.2	6.5

No1～3、5～36－H1　No4－H5出土

H1、5号住居址石器観察表



調査風景（北から）

H1号住居址調査風景

調査風景（南から）

H1号住居址全景（南東から）

Ｈ１号住居址遺物取り上げ後全景（南東から）

Ｈ１号住居址炉址周辺

Ｈ１号住居址炉址完掘状況

Ｈ１号住居址遺物出土状況（1）

Ｈ１号住居址遺物出土状況（2）

H1号住居址遺物出土状況（3）No.13

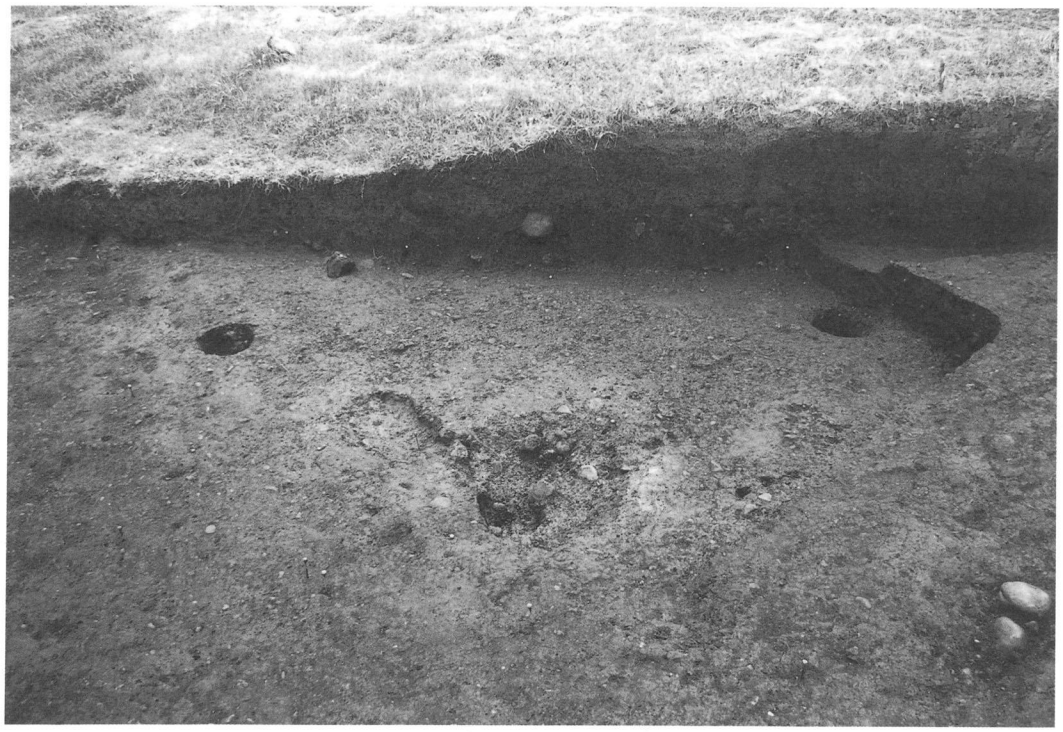
H1号住居址遺物出土状況（4）No.11・12・14

H1号住居址遺物出土状況（5）No.1

H1号住居址南東コーナー付近

H1号住居址掘方（南東から）

H2号住居址全景（南から）

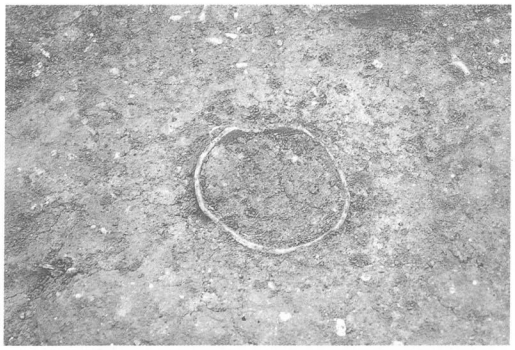


H2号住居址掘方（東から）

H2号住居址遺物出土状況　№1·2·3

H3号住居址全景（南から）

H4号住居址全景（南から）



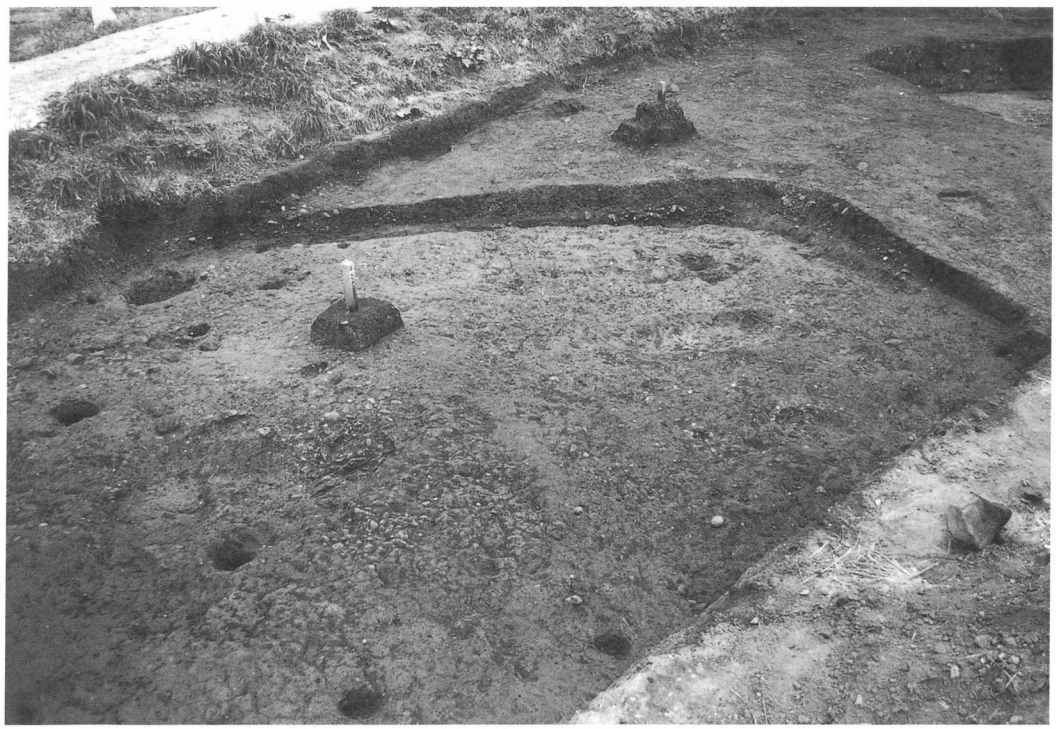
H4号住居址炉址確認状況

H4号住居址炉址半裁状況

H4号住居址炉址完掘状況

H4号住居址炉址遺物除去後状況

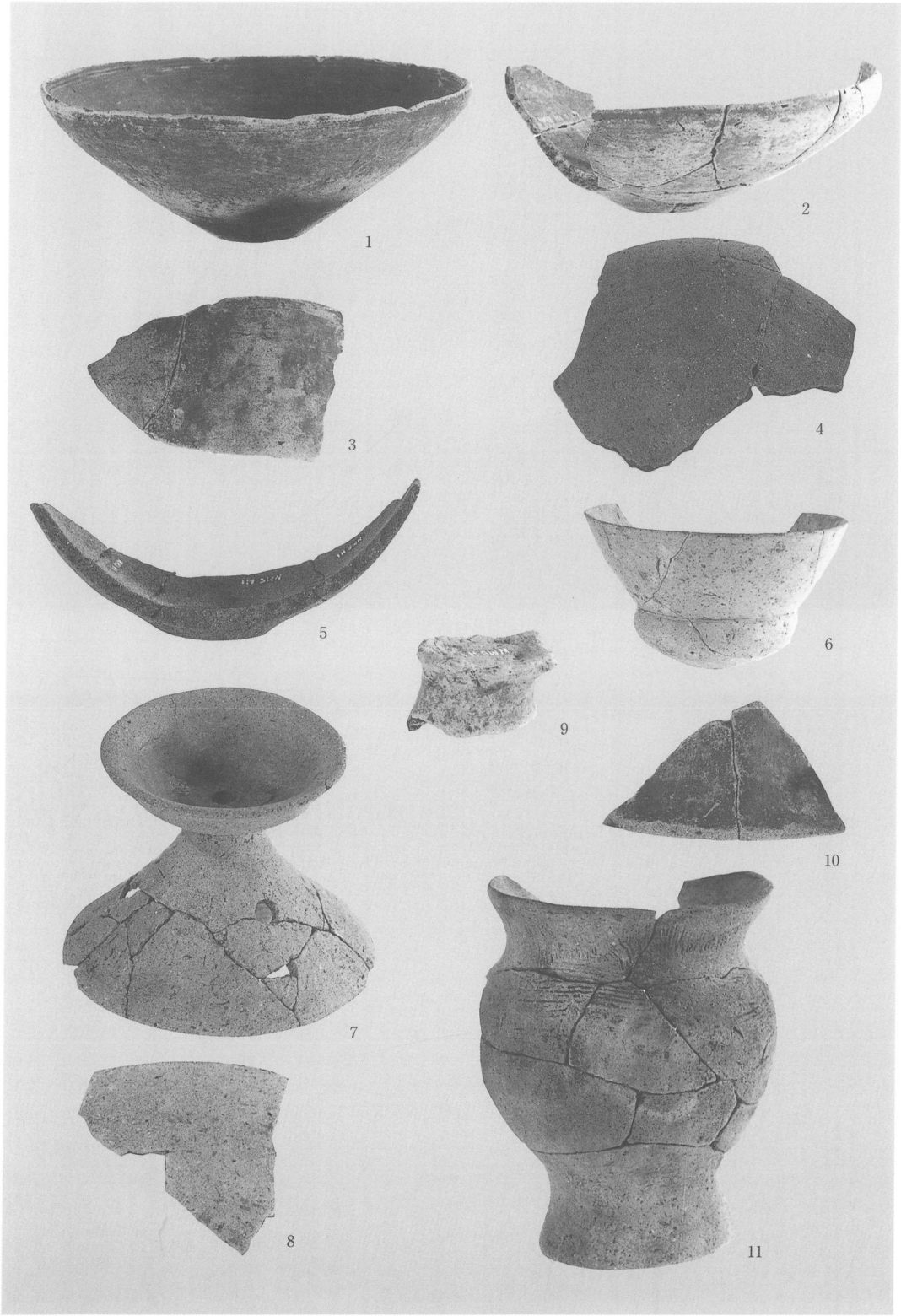
H5号住居址全景（南東から）



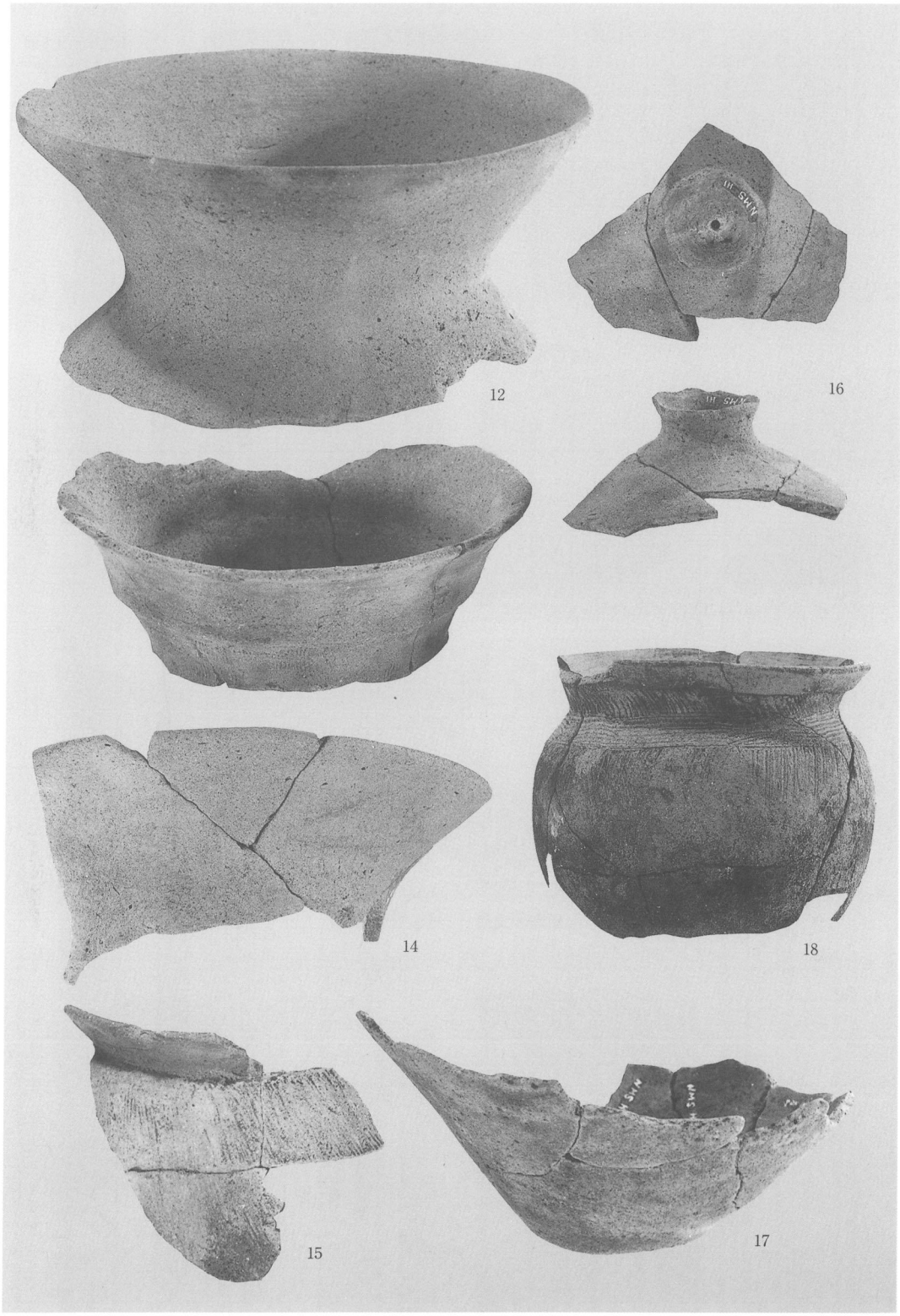
H5号住居址掘方（南東から）

H5号住居址炉址

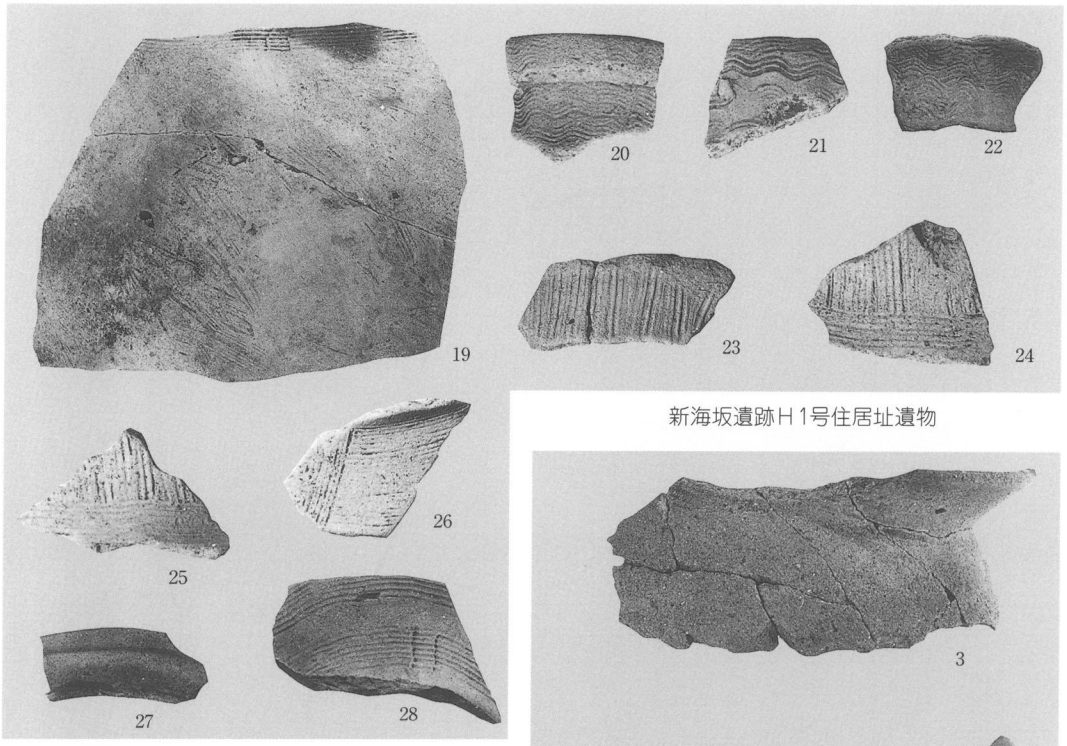
H6号住居址全景（東から）



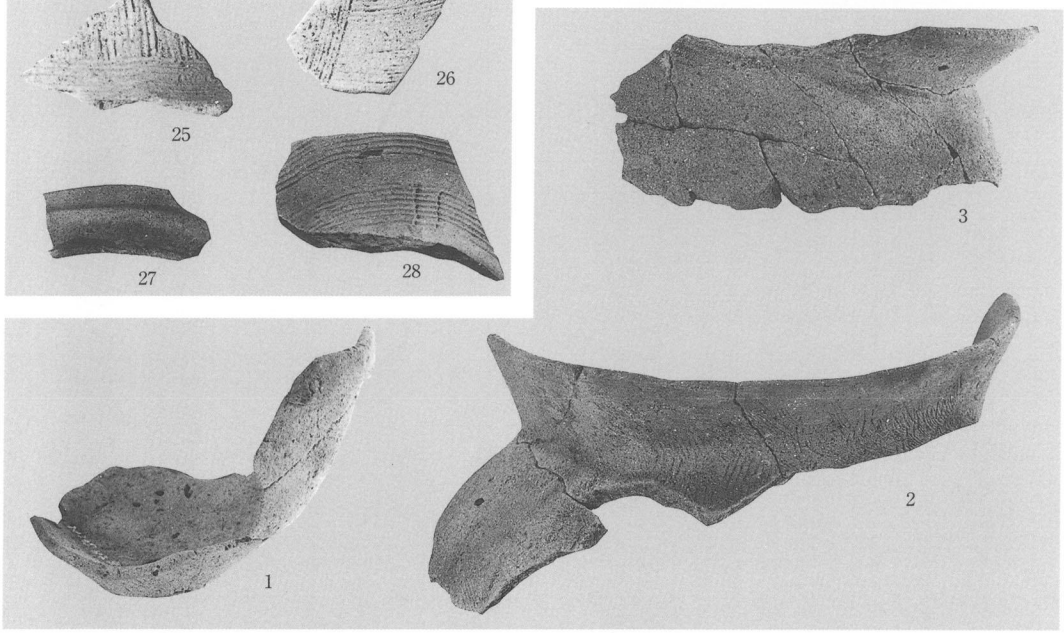
新海坂遺跡H1号住居址遺物



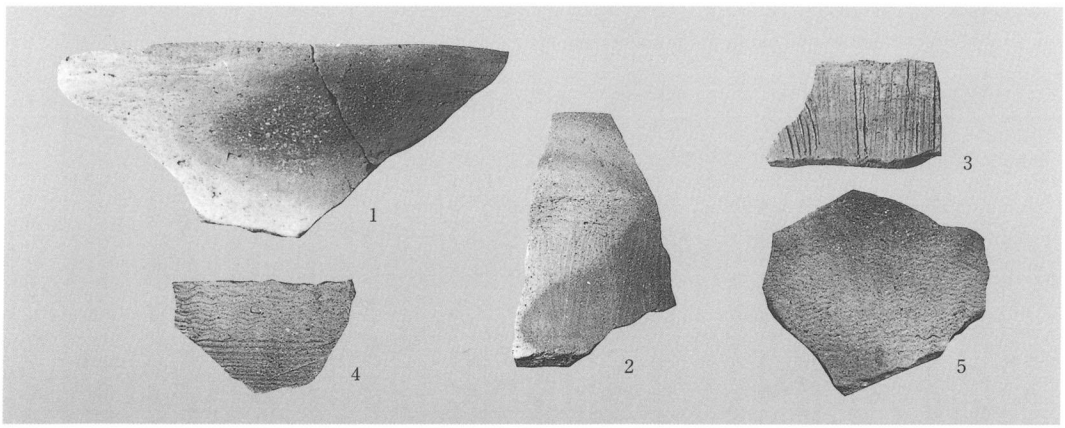
新海坂遺跡Ｈ１号住居址遺物



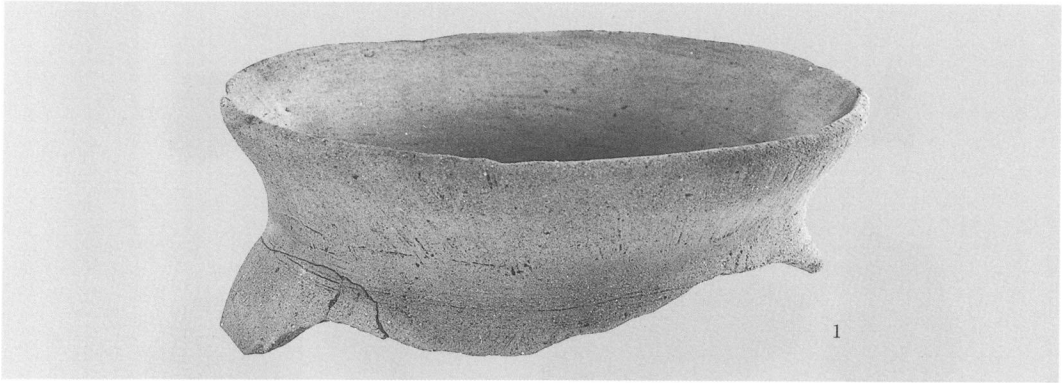
新海坂遺跡Ｈ１号住居址遺物



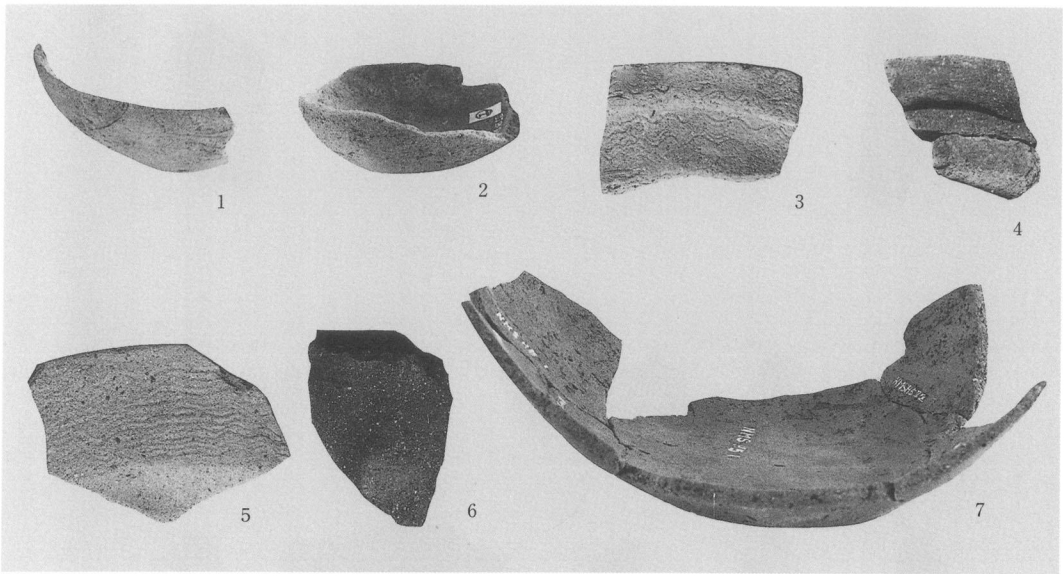
新海坂遺跡Ｈ2号住居址遺物



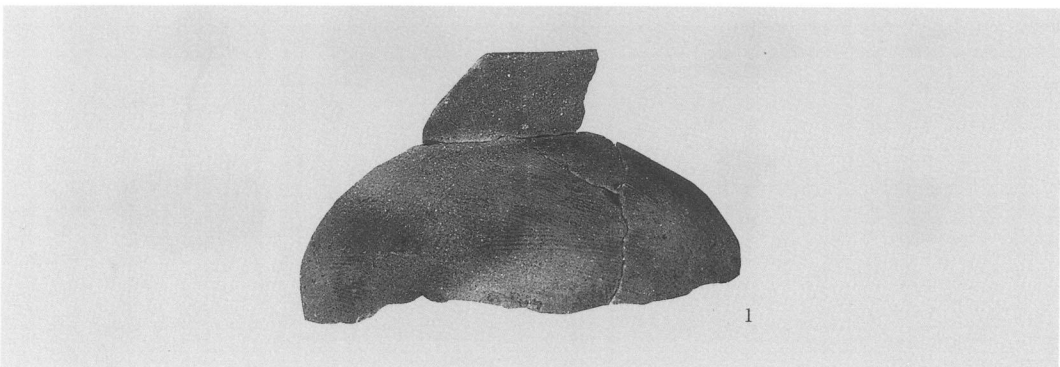
新海坂遺跡Ｈ3号住居址遺物



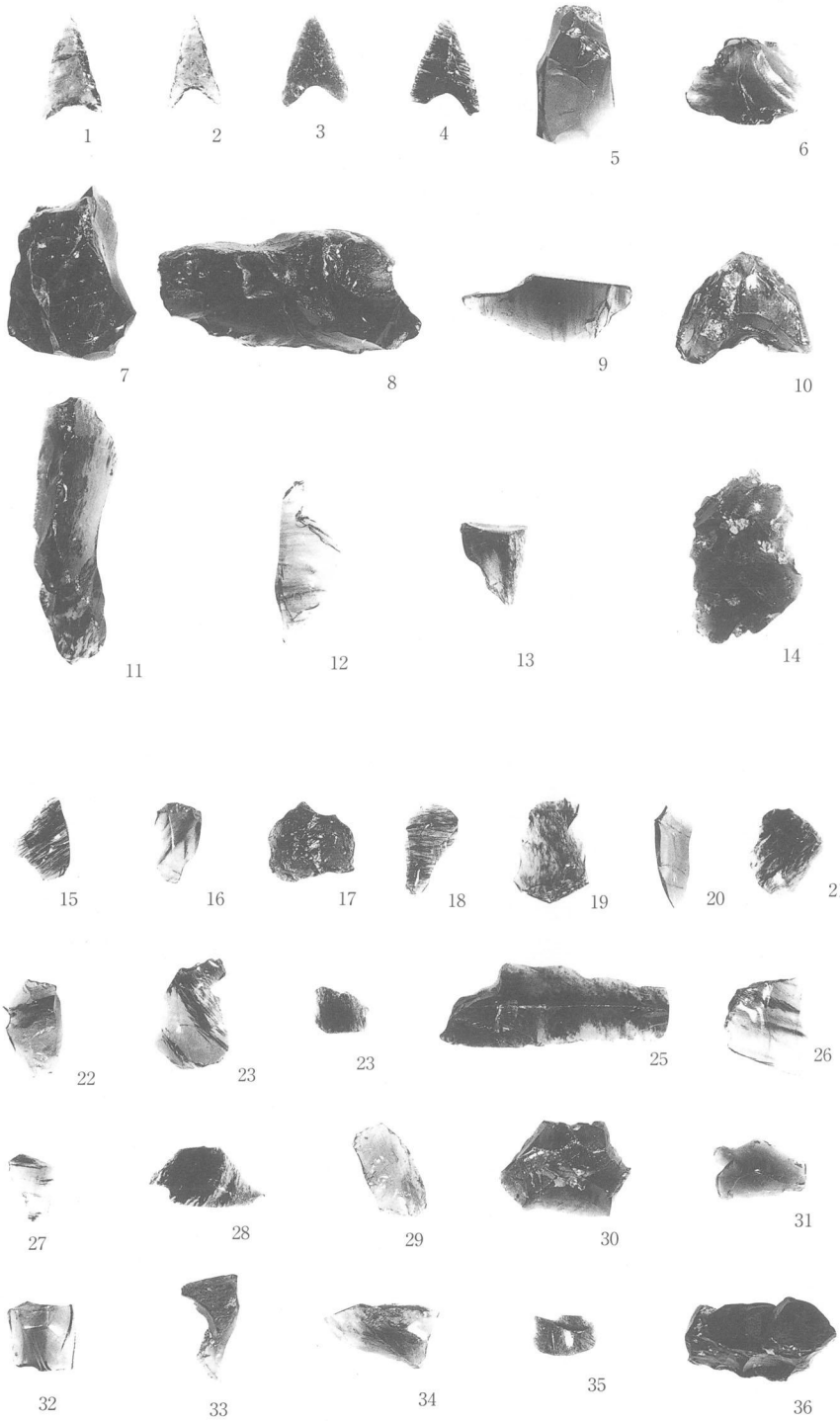
新海坂遺跡H4号住居址遺物



新海坂遺跡H5号住居址出土遺物



新海坂遺跡H6号住居址遺物


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
23
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

新海坂遺跡出土石器

調査報告書

蛇塚Ａ遺跡群　蛇塚遺跡Ⅱ

所　在　地　佐久市大字安原字南御堰1119-1

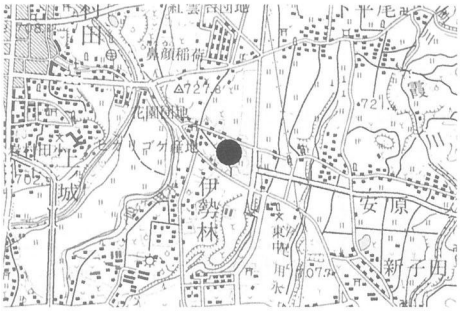
調査委託者　川上紀夫

開発事業名　集合住宅建設事業

調 査 期 間　平成13年6月4日～平成14年3月29日

調 査 面 積　29,0㎡

調査担当者　出澤　力



蛇塚遺跡Ⅱ　位置図（1:50,000）

例言・凡例

1. 本書は、平成13年度に行った蛇塚Ａ遺跡群蛇塚遺跡Ⅱの調査報告である。
2. 遺構、遺物の縮尺は以下の通り。　ー竪穴住居址　1／80　　土器　1／4
3. 遺構の海抜標高は水糸標高を「標高」として記している。
4. 土層、土器の色調は1988年度版『新版　標準土色帖』に基づいて示した。
5. 写真図版中の遺物の縮尺は概ね挿図と同じである。また、遺物番号と挿図番号は対応する。
6. 挿図中のスクリーントーンは以下のことを示している。

地山　　焼土　　黒色処理

7. 出土遺物は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
8. 本報告の執筆は出澤が行った。

経過と立地

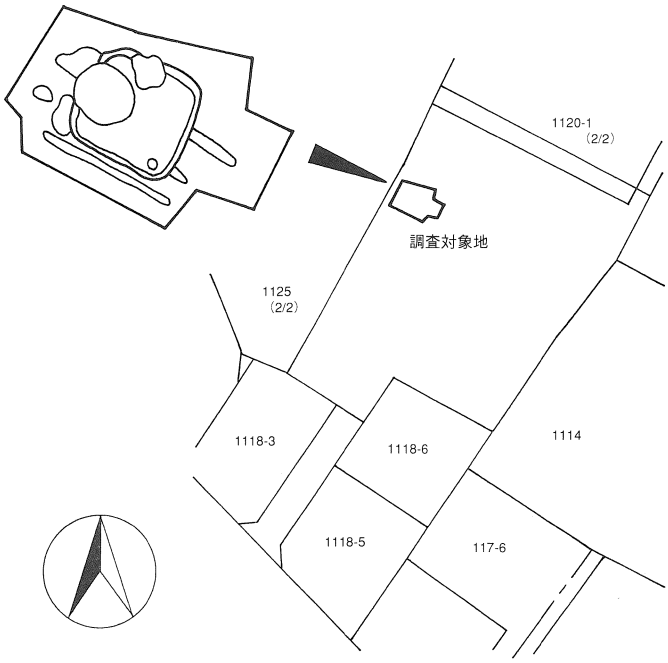
蛇塚遺跡Ⅱのある蛇塚Ａ遺跡群は佐久市安原地籍に所在する。当地の西方を流れる湯川の浸食により形成された河岸段丘上に位置し、東方には小規模な田切りの低地が見られる。蛇塚Ａ遺跡では平成6・8年度の行われた蛇塚遺跡、及び蛇塚古墳の発掘調査があり、縄文時代後半、古墳時代後期、平安時代の竪穴住居址をそれぞれ1軒、堀立柱建物址、土坑や6世紀後葉～7世紀初頭、7世紀後半、8世紀後半の古墳址3基が発掘され、古墳内からはガラス小玉、馬具、鍔などが出土した。また、隣接する蛇塚B遺跡群では、過去3回の調査で26軒の住居址が確認され、それらは平安時代の住居址である。今回調査された蛇塚遺跡Ⅱで調査された竪穴住居址も平安時代の住居址であると思われる。

今回、川上紀夫により集合住宅建設事業が計画され、それに伴い試掘調査が行われた。結果竪

穴住居址1軒の存在が確認され、保護協議の結果遺構の破壊が免れない建物部分にかかる竪穴住居址について、記録保存を目的とする発掘調査が行われることとなった。

遺構と遺物

試掘調査において確認された住居址部分のみ表土を取り除き、表土下30cmのローム層において竪穴住居址1軒の調査を行った。住居址は方形。規模等は下表を参照されたい。覆土は自然堆積。耕作などにより多く攪乱を受け、住居址西側を大きく攪乱で破壊されている。ピットは1基を確認する。また床下より不整な方形を呈する土坑状の施設を確認した。カマドは袖部からの幅91cm煙道までの長さ96cm、地山を堀り込み、芯材として礫を据えそれに粘性のある土を被覆してカマドとしている。



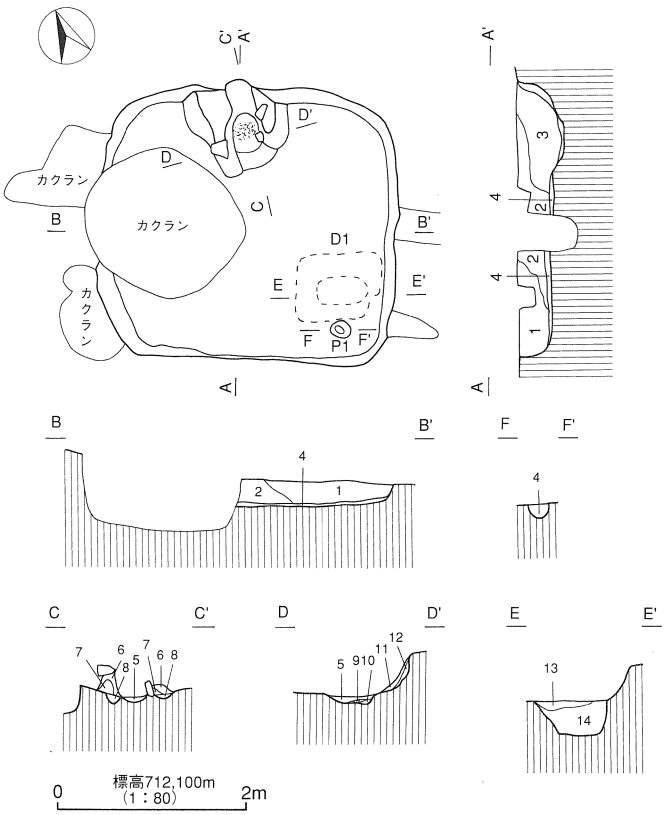
蛇塚遺跡Ⅱ　調査全体図（1：1,000）

遺物は5点を図示する。その他には、須恵・土師器の坏、武蔵甕、ロクロ甕などが見えた。遺物の詳細は下表を参照されたい。これらの遺物から、当住居址は9世紀後半のものと考えられる。

遺構名	形態	規模（㎡・cm）						主軸方位	カマド位置	備　考
		面積	北壁	東壁	南壁	西壁	深さ			
H 1	方形	(3.9)	266	264	244	268	28	N－17°－E	北	床下土坑を確認。

No.	器種	器形	計測値（cm）			調整・成形		備　考
			口径	底径	器高	外　面	内　面	
1	土師器	坏	11.4	5.1	4.2	ロクロ・底部回転糸切り	ミガキ・黒色処理	墨書（文字不明）あり
2			13.8	5.4	4.1	ロクロ・底部回転糸切り	ミガキ・黒色処理	墨書（文字不明）あり
3			－	6.5	(2.8)	ロクロ・底部回転糸切り	ミガキ	
4		ロクロ甕	23.4	－	(9.8)	ロクロ	ヘラナデ	
5			19.6	－	(13.7)	ロクロ・体部下方ヘラケズリ	ヘラナデ	

蛇塚遺跡Ⅱ　住居址・遺物観察表



H１　土説

1　暗褐色土(10yr3/3) 2㎜大のバミスをやや多く含む。ローム粒含む。しまりなし。

2　黒褐色土(10yr2/3) 黒色土ブロックを含む。炭化物微量含む。バミスの混入は１層に比して少ない。

3　黒褐色土(10yr2/3) カマド崩落土層。粘土塊を多量に含む。

4　褐色土(10yr4/4) 貼床部。小礫、上層黒褐色土ブロックを混入する。しまりややあり。

5　暗褐色土(10yr3/3) 炭化物、焼土粒含む。

6　黒褐色土(10yr2/3) バミス、粘土塊多く含む。粘性強い。

7　黒褐色土(10yr3/2) バミス、粘土塊含む。粘性、しまりあり。

8　暗褐色土(10yr3/4) ローム粒、粘土塊多く含む。

9　褐色土(7.5yr4/6)　火床部。焼土多量に含む。

10　褐色土(10yr4/4) ローム多量に含む。

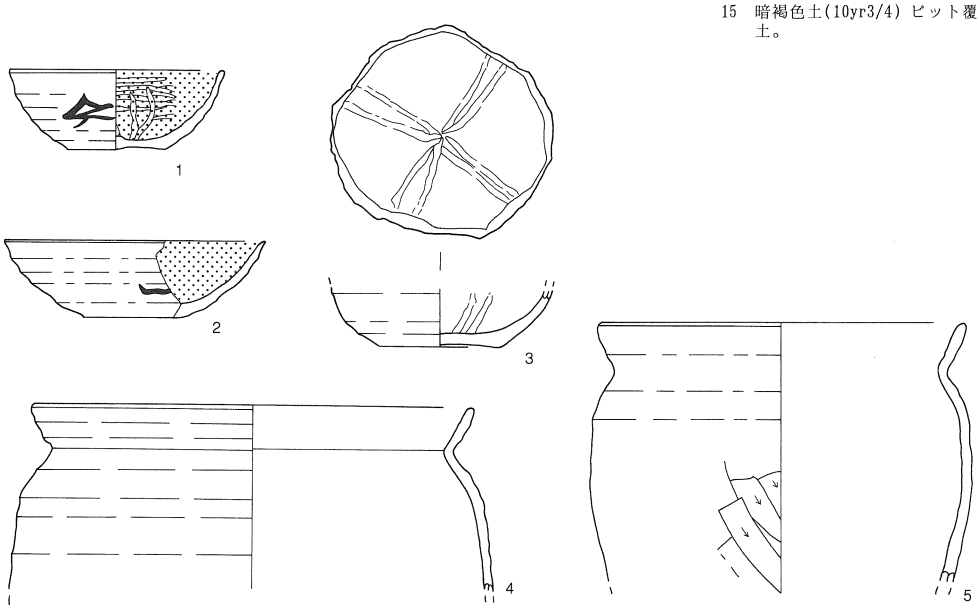
11　暗褐色土(10yr3/4) 粘土、焼土粒多量に含む。

12　褐色土(7.5yr4/6)　煙道部。火熱を強く受けている。

13　褐色土(10yr4/4) 黒色土、ロームブロック、バミスを混入する。しまり弱い。

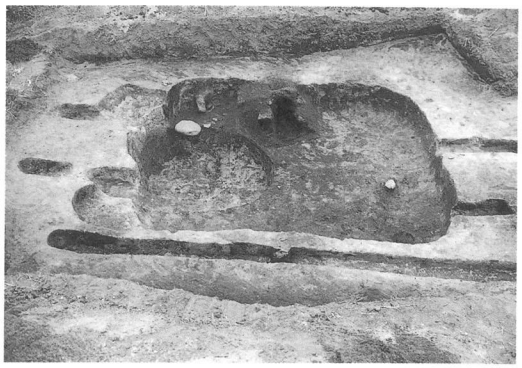
14　褐色土(10yr4/6) 極小のバミス微量に含む。しまり極弱い。

15　暗褐色土(10yr3/4) ピット覆土。



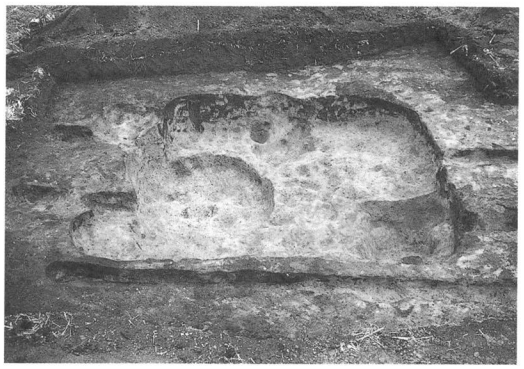
H1号住居址　実測図

遺構確認状況（南より）

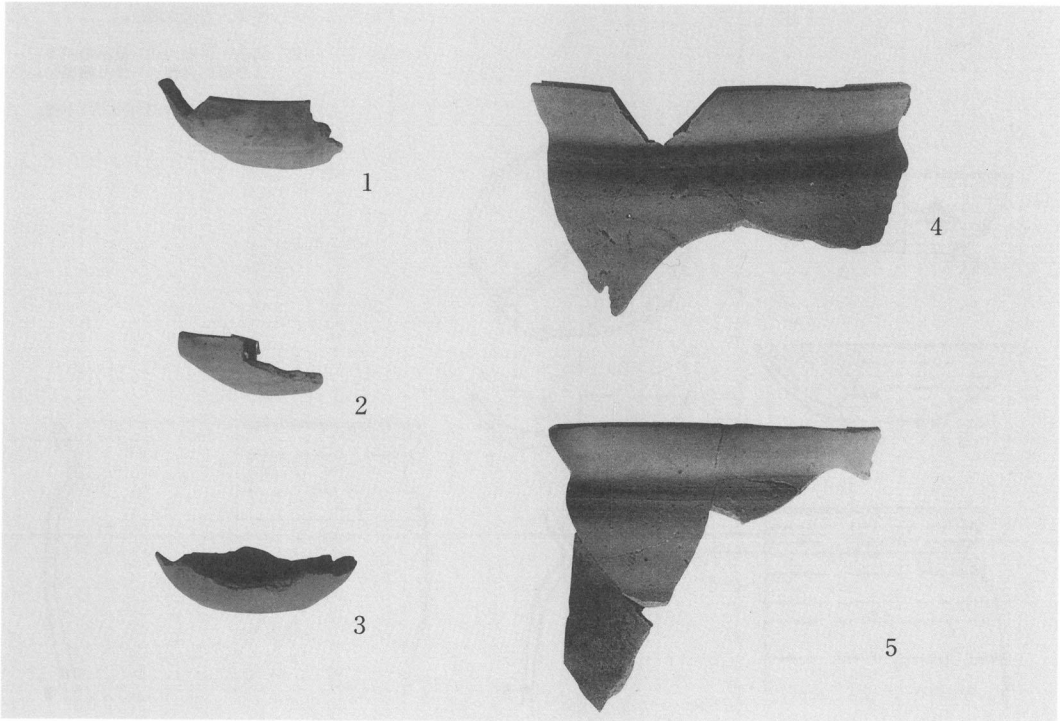


H1号住居址（南より）

カマド石組み（南より）



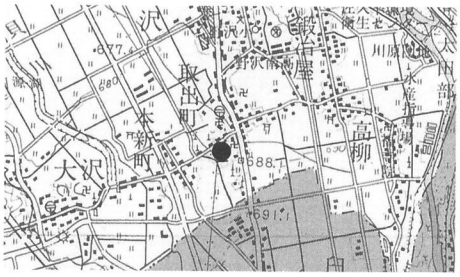
H1号住居址堀り方（南より）



蛇塚遺跡Ⅱ　出土遺物

白拍子遺跡群　白拍子遺跡

所　在　地　佐久市大字取出字白拍子301-1、303
調査委託者　佐久市庶務課
開発事業　消防詰所・器具庫の建設
調査期間　平成13年6月25・26日
調査面積　64㎡
調査担当者　林　幸彦



白拍子遺跡群白拍子遺跡位置図（1:10,000）

立地と経過

白拍子遺跡群は、千曲川と片貝川の沖積平坦地野沢平の南方取出町にあり、遺跡の周辺の標高は標高686ｍを測る。一帯には帯状の微高地が形成されていて、本遺跡群も微高地上に展開している。今回、佐久市庶務課が消防詰所と器具庫建設を建設することになり、発掘調査を実施した。

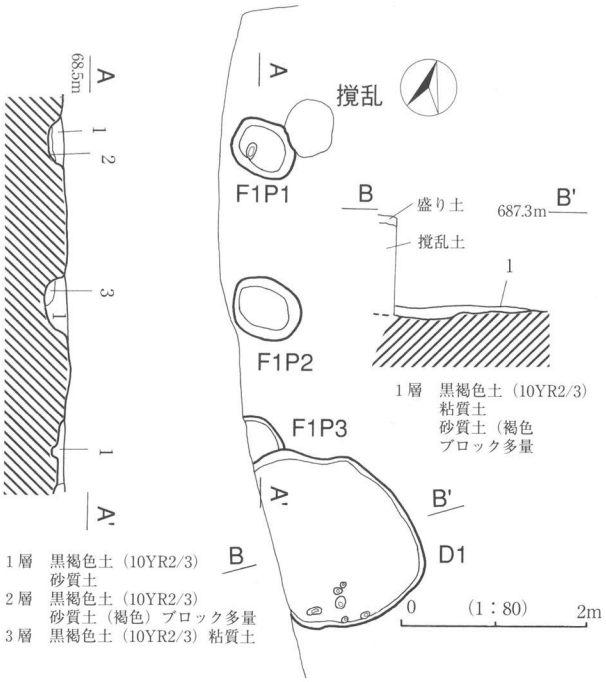
平成10年2月には、今回の対象地も含めた1,506㎡の範囲で佐久市都市計画課の公園造成に先立ち、試掘調査されている。平安時代の竪穴住居址3軒、掘立柱建物址3棟、溝状遺構1本、土坑等が検出された。遺構確認面まで60cmの深さであった。保護協議の結果、建物部分の移動と盛り土により遺構の保存が図られた。

Ｆ1号掘立柱建物址・Ｄ1号土坑（北方から）

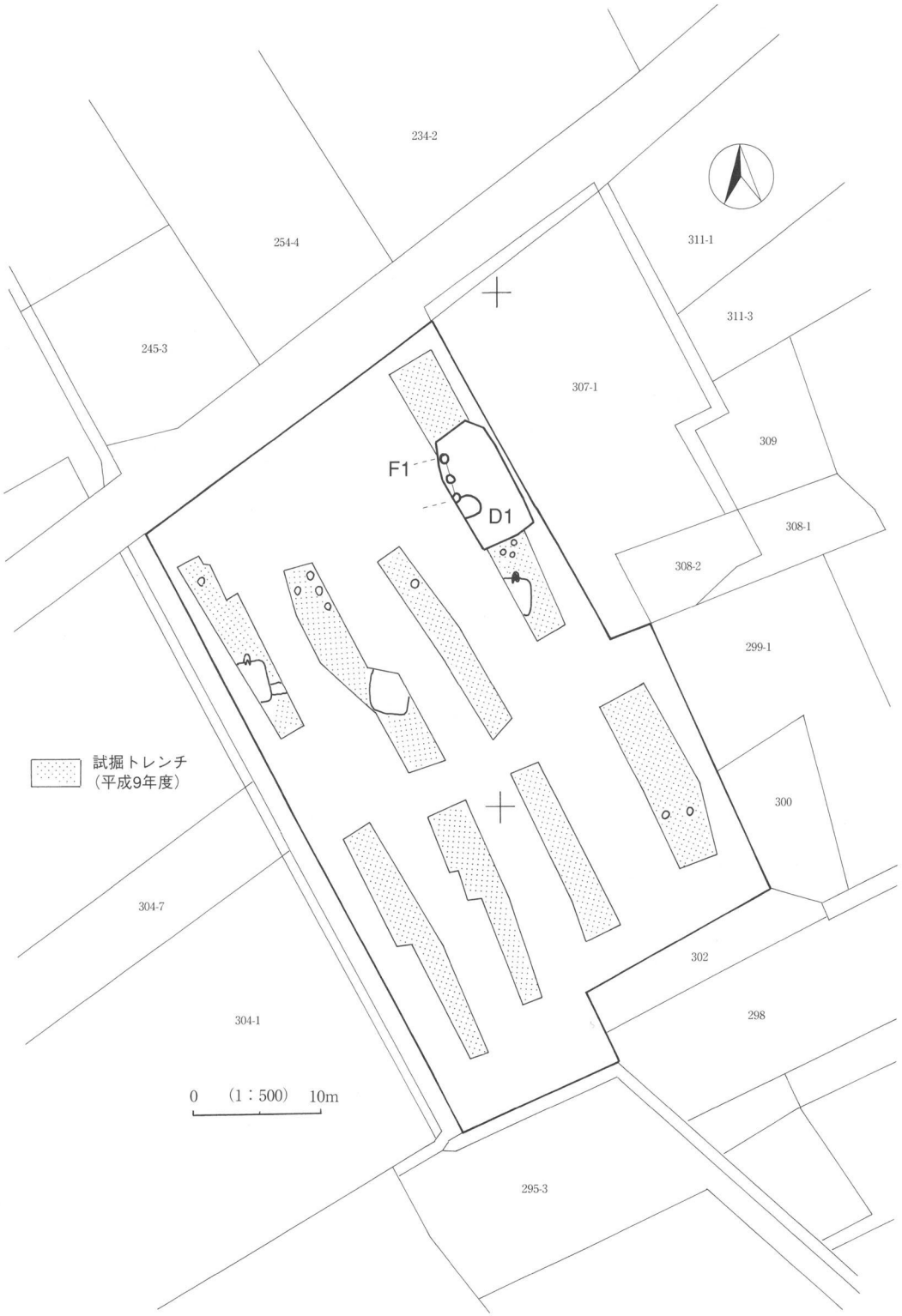
調査の概要

掘立柱建物址1棟と土坑1基が検出された。Ｆ1号掘立柱建物址は3個の柱穴しか調査されなかったが、側柱式の建物址が考えられよう。南北2間3.2ｍ、方位はＮ－20°－Ｗを示す。柱穴は50cm×70cm前後の楕円形を呈し、深さは16cm～25cmを測る。Ｐ3には柱痕状の窪みがある。遺物は平安時代須恵器坏小片1点が出土した。

Ｄ1号土坑は、Ｆ1号を切る。南北長1.8ｍ、深さ20cm出土遺物は無い。



Ｆ1号掘立柱建物址・Ｄ1号土坑実測図



白拍子遺跡群白拍子遺跡調査全体図（1：500）

8　分析・鑑定結果報告書

佐久市出土のガラス玉類の分析

小泉　好延（武蔵野文化財修復研究所）

1．はじめに

佐久市出土の弥生時代から古墳時代までの、多様な形状と色彩をもつガラス玉類の材質分析を行った。分析は非破壊法で行い、貴重なデータが得られた。

2．分析方法と試料の前処理

PIXE分析法を用いた。この方法は非破壊分析法である。

PIXE分析

PIXE分析法(荷電粒子励起X線分析、Part1c1e Induced X-ray Emission)は、加速器によって陽子やα粒子を高エネルギーに加速し、分析試料に照射し、試料の含有元素から発生する特性X線のエネルギースペクトルを半導体型放射線検出器で測定する分析方法である。PIXE法の特長は、試料破損が無く放射線による着色が生じないこと、多元素を同時に分析できることにある。本件の分析者らはPIXE法をナトリウムから錫、バリウム、鉛、ウランまで同時に分析できるよう改良し、考古遺物のガラス玉、青銅、真鍮金属、陶磁器などの材質分析に使用している。

PIXE分析条件

加速器による照射エネルギーと粒子は3MeVのプロトン、照射ビーム径は0.5㎜、照射電流値は0.5～１ナノアンペア(nA)、照射電荷量200～1000ナノクーロン(nC)である。X線検出器は高純度Si半導体検出器とCZT半導体検出器の両者を同時に使用し、特性X線のエネルギースペクトル（PIXEスペクトル）解析から定量を行った。

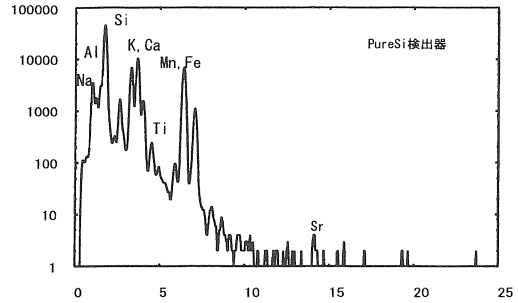
分析試料と前処理

試料の前処理は、分析4試料をエタノール：蒸留水　1：1の溶液、超音波洗浄器を用い、3分間洗浄の後、エタノール液で流し洗浄、真空乾燥を経て、PIXE分析ホルダーに装着した。

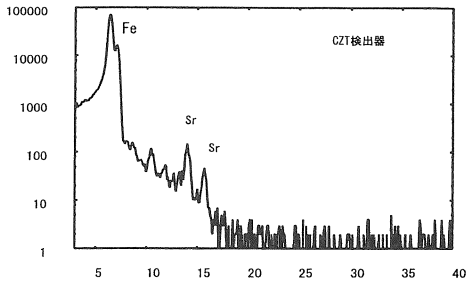
3．分析結果

分析の結果、得られたPIXEスペクトルを高純度Si半導体検出器、CZT半導体検出器の図を例示した。また、定量はガラス分析表面が不定形のためNa（ナトリウム）～Pb（鉛）までを分析し、それらの合計を100とし重量パーセント（wt%）で示したものである。分析結果の定量値を表に示す。

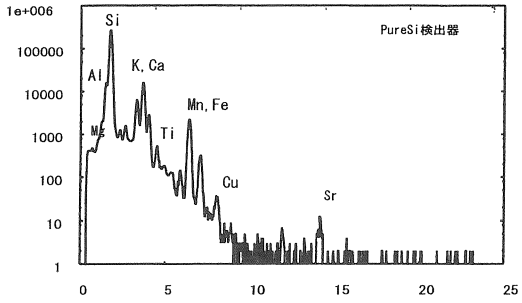
蛇塚古墳1号墳出土　二層No10　外層　黄色部



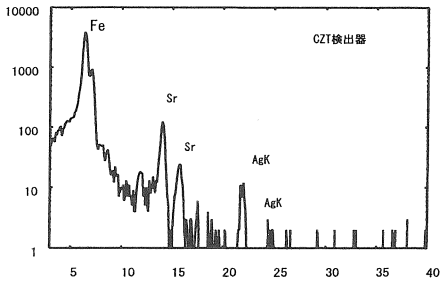
蛇塚古墳1号墳出土　二層ガラスNo10　外層黄色部表面



蛇塚古墳1号墳出土　二層No5　内層白色部



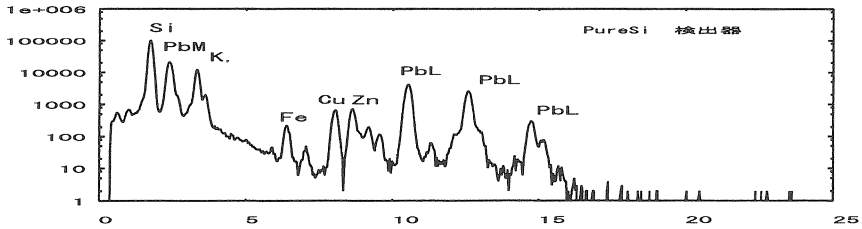
蛇塚古墳1号墳出土　二層ガラスNo5　内層白部



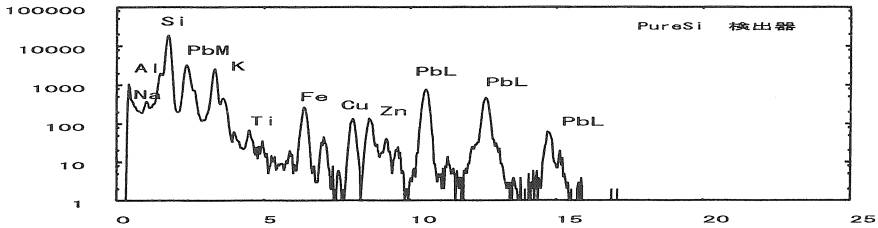
X線　エネルギー (keV)

X線　エネルギー (keV)

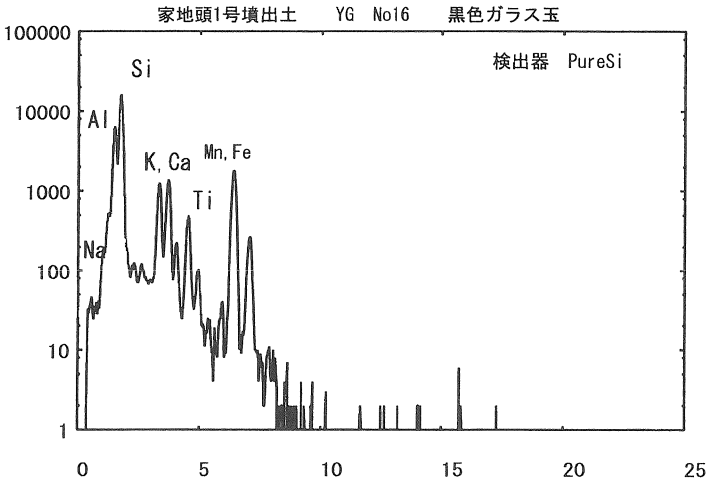
北西の久保遺跡出土　板状ガラス片　青色　研磨部

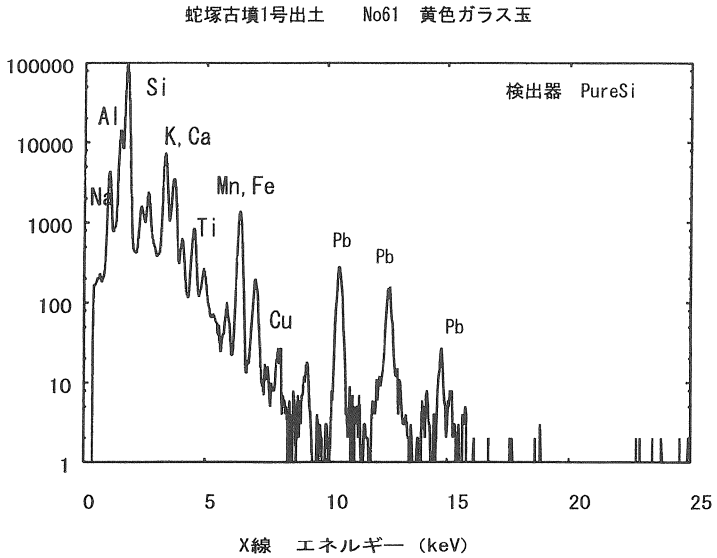


北西の久保遺跡出土　板状ガラス片　青色表面の白色腐食部採取試料



X線　エネルギー (keV)





4・結論と考察

分析したガラス玉、板状ガラス片試料は15資料であり、表面腐食部や同一試料で位置を変化した場合を含めると、23の測定結果を示した。出土ガラス類の年代区分、および遺構は、弥生時代中期（未確定）住居址、同後期　円形周溝墓、6世紀後半　円墳横穴式石室、7世紀初頭円墳横穴式石室である。

ガラス玉の形状は内層と外層の異なる色調と材質を有する二層玉、玉破片、小玉、板状ガラス片である。一部を写真に示す。色調は多彩で、弥生時代から通常出土する紺、青に加え、黒、薄い透明な茶黄などである。

佐久市玉類材質分析の結果

値は酸化物重量パーセント(wt%)

試料名	時代区分	色調・分析部位	Na_2O	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	CuO	PbO	MgO	ZnO	CoO	備考
蛇塚古墳1号墳YHA202No5P1　二層玉	7世紀初頭	外層部・茶黄色	11.67	5.74	55.63	3.92	8.47	0.20	0.08	10.57	n.d	n.d	3.71	n.d	n.d	
蛇塚古墳1号墳YHA203No10　二層玉	7世紀初頭	外層部・茶黄色	16.48	3.03	53.99	4.99	7.86	0.18	0.08	10.18	n.d	n.d	3.22	n.d	n.d	
蛇塚古墳1号墳YHA202No5P1　二層玉	7世紀初頭	内層部・白色	0.53	5.88	86.64	1.21	3.52	0.11	0.04	1.09	0.02	n.d	0.96	n.d	n.d	Ag、Sr
蛇塚古墳1号墳YHA202No5P2　二層玉	7世紀初頭	内層部・白色	0.50	5.85	86.70	1.20	3.52	0.12	0.04	1.10	0.02	n.d	0.94	n.d	n.d	Ag、Sr
蛇塚古墳1号墳YHA202No5P3　二層玉	7世紀初頭	内層部・白色	0.48	5.72	87.37	1.19	3.49	0.09	0.04	0.92	0.01	n.d	0.70	n.d	n.d	Ag、Sr
蛇塚古墳1号墳石室内201OT1P1	7世紀初頭	茶黄色片	2.08	6.97	81.05	1.13	1.93	0.34	0.06	5.70	n.d	n.d	0.74	n.d	n.d	
蛇塚古墳1号墳石室内201OT1P2	7世紀初頭	茶黄色片	1.10	6.05	83.28	1.25	1.98	0.33	0.06	5.48	n.d	n.d	0.47	n.d	n.d	
蛇塚古墳1号墳YHAOT1	7世紀初頭	玉・黄	9.31	11.12	70.41	3.23	1.35	0.49	0.05	1.52	0.02	2.5	n.d	n.d	n.d	
蛇塚古墳1号墳YHANo100	7世紀初頭	玉・紺	0.31	3.07	85.76	6.50	0.92	0.20	1.76	1.42	n.d	n.d	n.d	n.d	0.06	
蛇塚古墳1号墳YHA187OT1石室内	7世紀初頭	玉・黒	8.68	7.56	76.40	1.45	1.38	0.86	0.07	2.57	0.09	0.06	0.86	n.d	n.d	
蛇塚古墳1号墳YHA192No68	7世紀初頭	玉・黄	8.77	10.23	64.75	3.07	1.87	0.80	0.30	2.88	0.06	6.6	0.66	n.d	n.d	
蛇塚古墳1号墳YHA174OT1石室1	7世紀初頭	玉・青	12.61	6.91	61.91	3.28	7.31	1.03	0.15	4.20	2.06	n.d	0.54	n.d	n.d	
蛇塚古墳1号墳YHA176OTⅣ石室	7世紀初頭	玉・青	8.63	8.46	63.47	2.82	7.54	1.09	0.39	4.40	2.37	n.d	0.49	0.33	n.d	
蛇塚古墳1号墳YHA183OTⅡ石室	7世紀初頭	玉・緑	14.90	7.43	65.97	2.18	1.42	1.04	0.18	2.67	1.07	2.2	0.94	n.d	n.d	
蛇塚古墳3号墳YHA4ーOT3石室内	7世紀中葉	玉・紺	0.99	4.01	80.91	2.63	6.06	0.13	0.20	1.95	0.24	0.38	2.42	n.d	0.11	
家地頭1号墳YGNo16No16P1	6世紀後半	玉・黒	1.76	24.37	54.59	2.54	2.94	1.57	0.08	9.43	n.d	n.d	2.72	n.d	n.d	
家地頭1号墳YGNo16No16P2	6世紀後半	玉・黒	1.55	20.02	60.98	1.88	2.38	1.97	0.05	8.81	0.04	n.d	2.33	n.d	n.d	
周防畑遺跡BNSTBーTM2ー主体部ー1	弥生後期	玉・紺	0.91	4.30	77.64	9.45	2.30	0.25	2.48	2.07	n.d	n.d	0.60	n.d	n.d	
北西の久保ー板状青研磨部	弥生中期？	青	0.74	0.99	62.01	3.84	n.d	n.d	n.d	0.14	0.73	30.7	n.d	0.88	n.d	
北西の久保ー板状青P1	弥生中期？	青	0.99	0.69	60.49	3.39	n.d	n.d	n.d	0.16	0.76	32.5	n.d	0.98	n.d	
北西の久保ー板状青P2	弥生中期？	青	1.22	1.32	60.28	2.95	n.d	n.d	0.02	0.18	0.78	31.4	0.90	0.98	n.d	
北西の久保ー板状腐食白色部	弥生中期？	白・腐食色	1.49	6.32	58.52	4.00	n.d	0.07	0.02	0.95	0.74	25.9	1.17	0.80	n.d	
北西の久保ー板状青腐食白部	弥生中期？	白・腐食色	2.37	5.96	60.01	3.78	n.d	0.02	0.04	0.95	0.61	24.3	1.55	0.78	n.d	

＊　n.dは検出限界値以下　＊　分析結果はNa～Pbまでの合計を100として計算した値である。時代区分は発掘調査側によるものである。

蛇塚古墳1号墳出土二層ガラス玉

7世紀の遺跡としても、この形状にガラス玉の出土は少ない。内層は白色で透明な茶黄色ガラスが被され二層となっている。試料YHA202は層接合面で剥離し、各層別の分析が可能であった。

試料YHA202,YHA203外層は、ほぼ同一なアルカリ石灰系ソーダ石灰ガラスである。Fe酸化物（鉄）が10wt%と極めて濃度が高い。茶黄色の着色成分は、Fe以外の検出されていないことから、Feが着色成分であろう。同試料の白色内層はSi酸化物濃度が高く、Na、Mg、K,Ca酸化物濃度は低い。透明性もなく溶解ガラス化しているか疑問である。CZT検出器ではSrと微量のAgが検出されている。前者はSi鉱物の不純物であるが、Agは意図して添付されたのか否かは判断できない。白色内層をミクロ分析や観察によって明らかにされるだろう。

蛇塚古墳1号墳出土茶黄色ガラス玉破片

上記、二層ガラス玉の外層と同様な色調であるが、さらに透明性がある。分析結果ではNa、K,,Ca成分が二層ガラス玉外層より濃度が低く、Si、Al成分が高い。腐食によって成分が変化したとも考えられる。Fe酸化物は約5wt%と高く、着色剤として機能していると思われる。

蛇塚古墳1、3号墳出土黄、紺、黒、青、緑色などのガラス玉

紺、黒色ガラスを除いてアルカリ石灰系ソーダガラスである。紺色ガラスはNa成分が低く、K成分が高いことからカリ石灰ガラスである。黒色ガラスはアルカリ石灰ガラスであるが、Al;成分が極めて高い。着色成分は紺色ガラスでMn,Feが1wt%を越え、やや紺色としては濃度が高いほうに属する。黄色はPb、Feが濃度が高く、緑、青ではCu、Feが高く、これらがそれぞれの着色成分であり、状来の結果とも合致している。なお、黒はFe成分が異常に高く、主成分のAlも高濃度であることから、興味深いデータである。

北西の久保　板状青色ガラス片

弥生時代中期の住居址出土のガラス片は、PbO（鉛）が24～32wt%と高く、鉛ガラスである。表面は腐食のため白色化していたため、腐食部をわずかに採取して分析したが同様な成分を示した。2mm径サイズで軽い研磨を行い分析したが、PbOは30wt%であった。Cuが約0.6～0.8wt%検出されていることから、Cuが着色剤である。なお、表面の腐食が顕著なことから、厳密な成分比率は確定できない。今後、類似する形状のガラスから、年代や用途などを検討する必要がある。

周防畑遺跡出土　紺色ガラス玉

筆者が従来から分析、考察してきた典型的な弥生時代のガラス成分を示している。アルカリ石灰系カリガラス、着色はMn鉱物（Mn,Fe、（Co検出限界値以下））である。この時代の東日本、近畿地域などで盛んに出土する。

今後、現在分析を進めている佐久市出土のガラス分析が全て終了した時点で、このような多彩なガラス玉類を再考察したい。本市出土の多様なガラス玉には、弥生時代から古墳時代へのガラス材質の変遷を明らかに出来る貴重な遺物である。

参考資料

1. 小泉好延、小林紘一「弥生・古墳時代のガラス材質」第１回考古科学シンポジウム 1999.12
2. 藤田　等「弥生時代のガラスの研究―考古学的方法―」名著出版　1994
3. 小泉好延、小林紘一「狸塚27号墳から出土のガラス玉の材質分析」埼玉県江南町埋蔵文化財調査報告書12集　1999.3
4. 小泉好延、小林紘一「榎田遺跡より出土したガラス玉の材質分析」長野県埋蔵文化財センター発掘報告書　1999.3

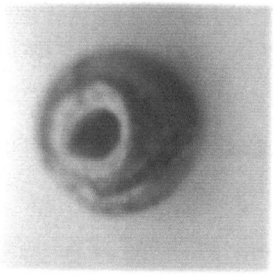


写真1　蛇塚古墳1号墳　二層ガラス玉　YHA203No10

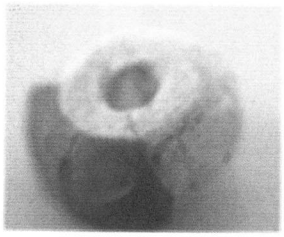


写真2　蛇塚古墳1号墳　二層ガラス玉　YHA202No5

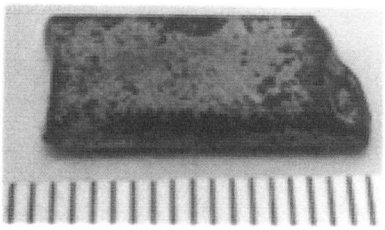
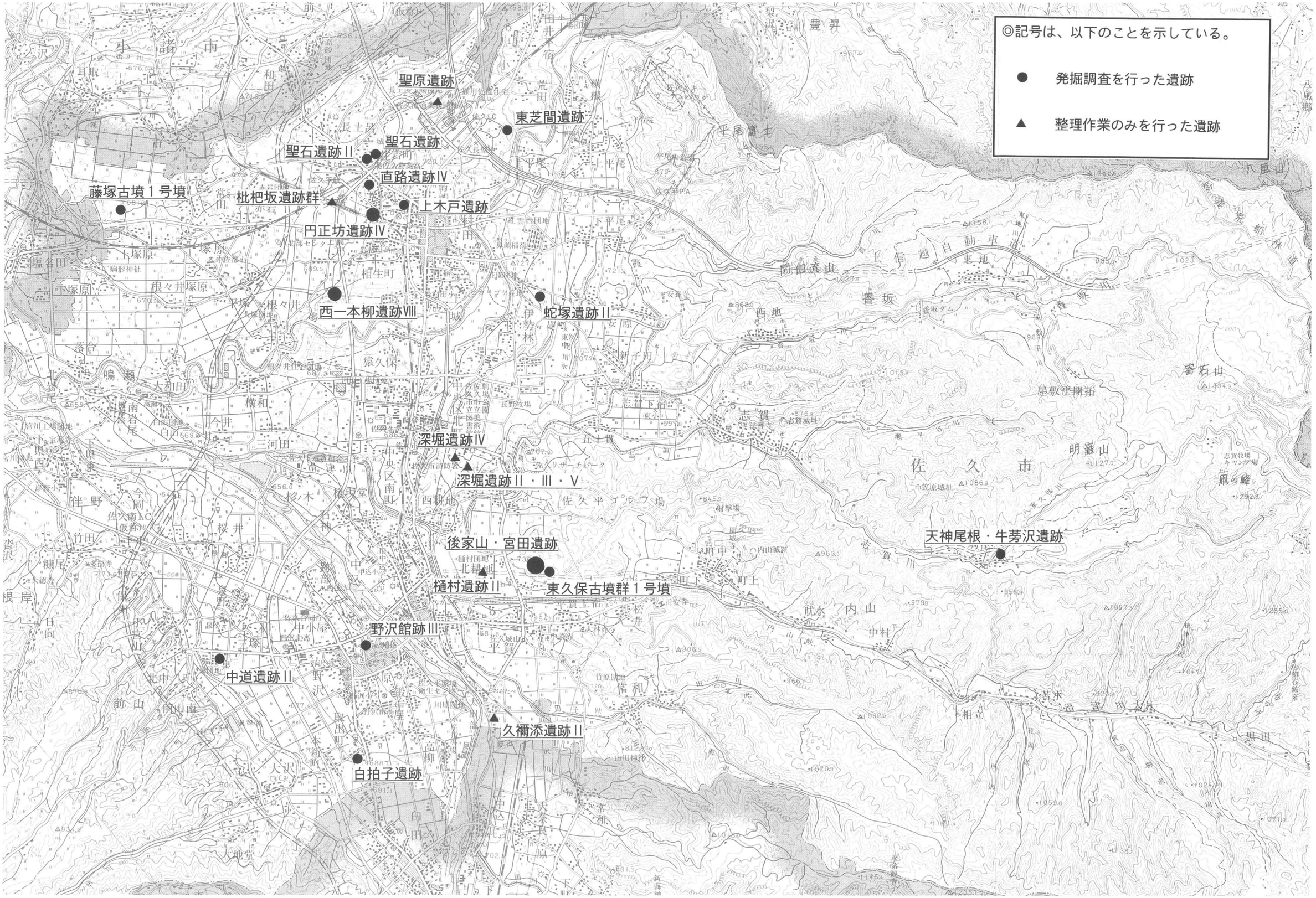


写真3　北西の久保遺跡　板状ガラス片



平成13年度発掘調査及び整理調査遺跡位置図（1：50,000）

Ⅲ　一般文化財事業

1　体制

佐久市教育委員会　文化財課

教育長	依田　英夫（4月～6月）	髙柳　勉（7月～）
教育次長	小林　宏造（4月）	黒沢　俊彦（5月～）
文化財課長	草間　芳行	
文化財係長	荻原　一馬（4月）	森角　吉晴（5月～）
文化財係	林　幸彦　須藤　隆司　小林　眞寿　羽毛田卓也	
	冨沢　一明　上原　学　山本　秀典　出澤　力	

文化財保護審議会委員

会長	鈴木　公人
職務代理	小林　徳雄
	清水　岩夫　堀籠　好夫　小林　壽三　並木　良子
	中沢　忠人　小栗　集

資料館協議会委員

会長	柳沢佐久平
職務代理	小林　信夫
	相沢　昭子　鈴木　公人　柳沢　和敏　臼田　隆雄
	柳沢　陽　植松千鶴子

2　調査事業費

平成12年度一般文化財事業費	予算額	6,577,000円
	決算額	6,570,061円

3　国・県・市指定文化財

No	指定区分	文化財名	名　　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
1	国指定	天然記念物	岩村田ヒカリゴケ自生地	1カ所	岩村田	佐久市	T 10.3.3
2	〃	史跡	旧中込学校	1カ所	中　込	佐久市	S 44.4.12
3	〃	重要文化財	駒形神社本殿（附　棟札4枚）	1棟	下塚原	駒形神社	S 24.5.30
4	〃	重要文化財	絵本着色一遍上人絵伝第二	1幅	野　沢	金台寺	S 9.1.30
5	〃	重要文化財	絵本書他阿上人自筆仮名消息	1幅	野　沢	金台寺	S 9.1.30
6	〃	重要文化財	旧中込学校（附　建築文書3点）	1棟	中　込	佐久市	S 44.3.12
7	〃	重要文化財	鉄鐘	1	跡　部	藤沢平治	S 52.6.11
8	〃	無形民俗文化財	跡部の踊り念仏	1	跡　部	跡部踊り念仏保存会	H 12.12.27
9	県指定	県宝	木造地蔵菩薩半跏倚像	1躯	根々井	正法寺	S 44.5.15
10	〃	県宝	木造阿弥陀如来坐像	1躯	岩村田	西念寺	S 34.11.9
11	〃	県宝	木像阿弥陀如来坐像及び両脇侍	3躯	安　原	安養寺	H 6.8.15
12	〃	史跡	三河田大塚古墳	1基	三河田	故柳沢義一	S 37.7.12
13	〃	史跡	伴野城跡	1	野沢	大伴神社・佐久市	S 40.4.30
14	〃	史跡	根々井氏館跡	1	根々井	正法寺	S 40.7.29
15	〃	史跡	北高禅師墓碑	1基	岩村田	龍雲寺	S 44.10.2
16	〃	史跡	大井城址（王城・黒岩城）	1	岩村田	個人34人	S 46.5.27
17	〃	史跡	平賀城跡	1	常　和	個人37人	S 46.5.27
18	〃	史跡	岩尾城跡	1	鳴　瀬	個人39人	S 46.5.27
19	〃	天然記念物	王城のケヤキ	1	岩村田	荒宿十二社	S 61.3.27
20	〃	県宝	版本大般若経	582巻	安　原	安養寺	S 63.3.24
21	〃	県宝	洞源山貞祥寺三重塔	1	前　山	貞祥寺	H 4.9.10
22	市指定	史跡	安原大塚古墳	1基	安　原	英多神社	S 45.10.1
23	〃	史跡	大梅禅師墓碑	1基	内　山	正安寺	S 45.10.1
24	〃	史跡	鵜縄沢端一里塚東塚	1基	岩村田	関口芳行	S 45.10.1
25	〃	天然記念物	白山神社のイチイ古樹	1	常　和	白山神社	S 45.10.1
26	〃	天然記念物	野沢町の女男木	1	野　沢	大伴神社	S 45.10.1
27	〃	有形文化財	竹田の鉦（一）	1	根　岸	工藤光吉	S 45.10.1
28	〃	有形文化財	竹田の鉦（二）	1	根　岸	工藤勇祐	S 45.10.1
29	〃	有形文化財	金台寺の鉦	1	野　沢	金台寺	S 45.10.1
30	〃	有形文化財	下桜井村寛永の5人組帳	1	桜　井	臼田繁雄	S 49.12.1
31	〃	有形文化財	平賀村中善寺大般若経	600巻	平　賀	中善寺	S 49.12.1
32	〃	有形文化財	永禄十一年上原筑前御恩検地帳	1	瀬　戸	柳沢譲	S 49.12.1

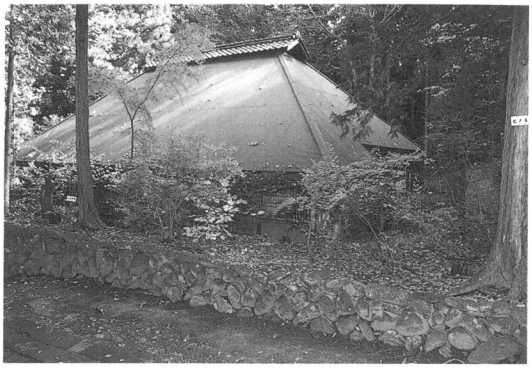
No.	指定区分	文化財名	名　　称	員数	所在地	所有者	指定年月日
33	市指定	有形文化財	桃源院木造地蔵菩薩坐像	1躯	南岩尾	桃源院	S49.12.1
34	〃	有形文化財	平尾大社本殿	1棟	上平尾	平尾大社	S49.12.1
35	〃	有形文化財	取出町百番観音	100躯	取出町	取出町区	S49.12.1
36	〃	史跡	北西ノ久保の石像塔婆群	1群	岩村田	井上行雄	S49.12.1
37	〃	史跡	正楽院の供養塔	1	平賀	長福寺	S49.12.1
38	〃	名所	皎月原	1カ所	小田井	佐久市	S53.2.1
39	〃	天然記念物	チョウゲンボウ	2カ所	伴野・鳴瀬	佐久市	S53.2.1
40	〃	有形文化財	旧長命寺仁王堂応永在銘石柱	1基	大沢	長命寺	S54.9.25
41	〃	史跡	前山城跡	1	前山	個人11人	S56.4.23
42	〃	有形文化財	暦應在銘板碑	1	中込	正楽寺	S57.3.1
43	〃	民俗無形文化財	岩村田祇園におけるお船様祭り	1	岩村田	荒宿区	S58.9.1
44	〃	有形文化財	安養寺の木造宝燈国師倚像	1躯	安原	安養寺	S62.10.20
45	〃	有形文化財	安養寺の中世文書	7点	安原	安養寺	S62.10.20
46	〃	有形文化財	龍雲寺の中世文書	38点	岩村田	龍雲寺	S62.10.20
47	〃	有形文化財	東一本柳遺跡古墳出土遺物	147点	岩村田	佐久市	S62.10.20
48	〃	有形文化財	上直路遺跡出土遺物	35点	岩村田	佐久市	S62.10.20
49	〃	有形文化財	北西ノ久保遺跡出土の遺物	83点	岩村田	佐久市	S62.10.20
50	〃	有形文化財	中道遺跡出土遺物	2点	野沢	佐久市	S62.10.20
51	〃	有形文化財	周防畑B遺跡出土遺物	34点	長土呂	佐久市	S62.10.20
52	〃	有形文化財	後沢遺跡出土遺物	26点	小宮山	佐久市	S62.10.20
53	〃	有形文化財	瀧の峯古墳出土遺物	31点	根岸	佐久市	S62.10.20
54	〃	史跡	後沢遺跡	2基・5棟	小宮山	佐久市	S62.10.20
55	〃	史跡	瀧の峯古墳群	1～4号	根岸	個人6人	S62.10.20
56	〃	有形文化財	木造愛染明王及び脇侍 木造両界大日如来坐像	3躯	志賀	法善寺	H1.11.6
57	〃	有形文化財	大井法華堂修験関係文書	859点	岩村田	大井道也	H1.11.6
58	〃	有形文化財	旧大沢小学校	1棟	大沢	佐久市	H8.6.6
59	〃	有形文化財	倉沢薬師堂（本殿、宮殿、石像薬師如来立像、加舎白雄自筆奉納俳額）	4点	前山	貞祥寺	H10.4.30
60	〃	有形文化財	正法寺多層塔	1基	根々井	正法寺	H10.12.28

国指定8件　　県指定13件　　市指定39件　　合計60件

4　普及・公開事業

旧中込学校・藤村旧宅入館者状況

	開館日数	入館者数
旧中込学校	304日	9,121人
藤村旧宅	139日	2,335人



▶藤村旧宅

Ⅳ　庶務日誌

平成13年

4月	1日	跡部の踊り念仏（依田教育長、小林次長、課長、係出席）
	10日	旧中込学校・大沢資料館の消防器具点検（係立会）
	19日	旧中込学校藤の木の施肥及び保存会総会（係出席）
	25日	佐久市新規採用職員市内施設見学（文化財課事務室・旧中込学校）
	26日	月例会
5月	10日	職場体験学習（野沢中学校2学年10人）
	12日	天然記念物「王城のケヤキ」午後10：07火災発生。 翌13日午前10：35鎮火。出火原因は落雷による（警察発表）
	31日	月例会
6月	4日	旧中込学校臨時開館（鴎友学園中等部来館のため）
	15日	市町村文化財担当者会議（於県庁：講堂）
	26日	県史跡「伴野城跡」現状変更事前協議（於県庁：文化財生涯学習課） 職場体験学習（野沢中学校2学年10人）
	29日	月例会
	4日	依田教育長、髙柳教育長歓送迎会
	9日	中込大塚古墳アメシロ防除
	16日	天然記念物「岩村田ヒカリゴケ自生地」テレビ局（ＮＢＳ）撮影立会 （放送7月19日）
	17日	旧大沢小学校樹木伐採計画現地立会調査（大沢区区長会要請により）
	26日	文化財パトロール（文化財保護指導委員：新海節夫）

27日　「王城のケヤキ」枯れ枝の撤去作業（係）

30日　月例会

7月　4日　ＦＭ佐久平出演（少年考古学教室についてお知らせ）

31日　文化財保護審議会（貞祥寺山門・総門の県宝指定申請）

8月　1日　市内天然記念物調査（岡山県自然保護団体会長による調査。文化財保護審議委員鈴木公人）

2日　長野県教育委員会へ貞祥寺山門・総門の県法指定申請書提出

6～8日　第22回少年考古学教室（於後家山遺跡）

11日　（財）文化財建造物保存技術協会九州事務所横地節子氏による旧中込学校視察を案内（係）

30日　月例会

詩人「佐藤春夫」が戦中疎開した建物の寄付採納希望による現地立会

9月　2日　志賀下宿区主催合同防災訓練参加（課長）

13・14日　職場体験学習（中込中学校2学年7人）

21日　伴野城跡現状変更事前協議（都市計画課公園係、文化財課文化財係）

27日　月例会

10月　15日　跡部踊り念仏保存会の第43回関東ブロック民俗芸能大会参加へ市長より激励金の交付

16日　職場体験学習（浅間中学校3学年10人）

19日　貞祥寺山門・総門の県法指定のための現地調査行われる（長野県文化財保護審議会委員　大河直躬千葉大学教・県文化財保護係福島指導主事ほか）

職場体験学習（浅間中学校2学年6人）

21日　第43回関東ブロック民俗芸能大会が千葉県にて行われ、跡部踊り念仏保存会が長野県代表として参加（係）

22日　旧中込学校保存会との協議（保存会4人、髙柳教育長、黒沢次長、課長、係長、係）

23日　職場体験学習（野沢中学校2学年10人）

31日　月例会

11月　9日　職場体験学習（東中学校2学年2人）

14日　平成13年度文化財保護研修会　文化財保護審議委員小林徳雄、小栗集、並木良子の3名出席（主催：長野県教育委員会、社団法人長野県文化財保護協会）

16日　佐久地区文化財保護研修会（於御代田町真楽寺、係出席）

	28日	文化財パトロール（文化財保護指導委員：新海節夫）
	30日	月例会
12月	27日	課仕事納め
	28日	月例会
1月	7日	課仕事始め
	24日	月例会
	25日	文化財防火デー（市有形文化財　旧大沢小学校にて放水訓練）
1月	26日	旧大沢小学校、野沢小学校6年生卒業制作のために使用許可（係立会）
2月	25日	年度報告会（於佐久セントラルホテル）
2月	27日	文化財保護審議会
	28日	月例会
3月	1日	資料館協議会
	23日	課年度納め
	29日	月例会

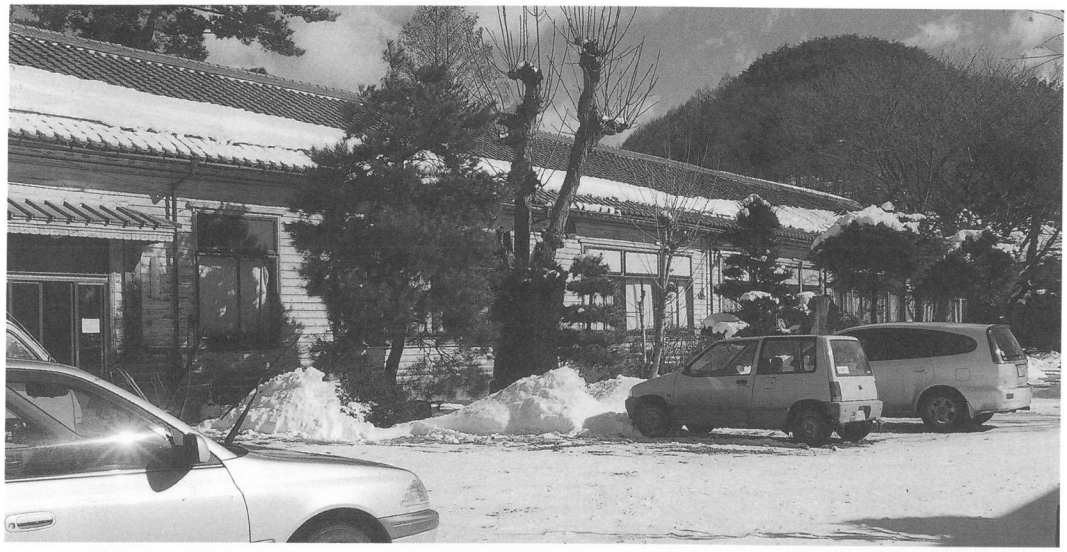
V　施設

施設は佐久市大字志賀に在り、旧志賀小学校の一部を改修･修繕し使用している。事務所棟として使用する平屋の南校舎は明治34年に、整理棟として使用する北校舎は大正12年にそれぞれ造築された。平成9年には北校舎の一部が老朽化の為取り壊しとなり、新たに平屋の整理棟（2部屋）を増設した。

施設面積　8,050㎡（グランドは除く）

事務室1室（2室分）	管理･更衣室･事務用品倉庫1室		図書室1室
資料展示室1室	調査整理室15室	水洗室2室	スタジオ1室
保存処理室1室	木製品収蔵室1室	機材整備室1室	機器材倉庫2箇所
測量用具倉庫1室	大型遺物収蔵庫1棟	耐火収蔵庫1室	小倉庫2室
防火器具庫2箇所	防火水槽1箇所	給湯施設3箇所	屋内トイレ2箇所
屋外トイレ2箇所	休憩室1室	シャワー室1室	

文化財防火デー（於　旧大沢小学校）

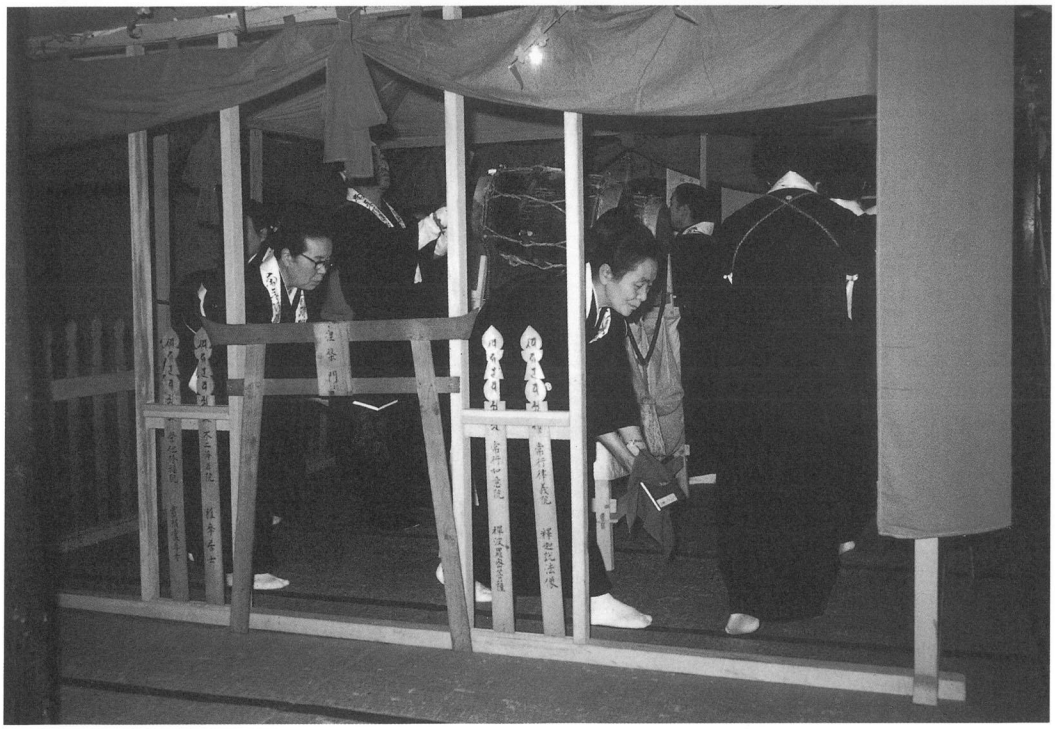


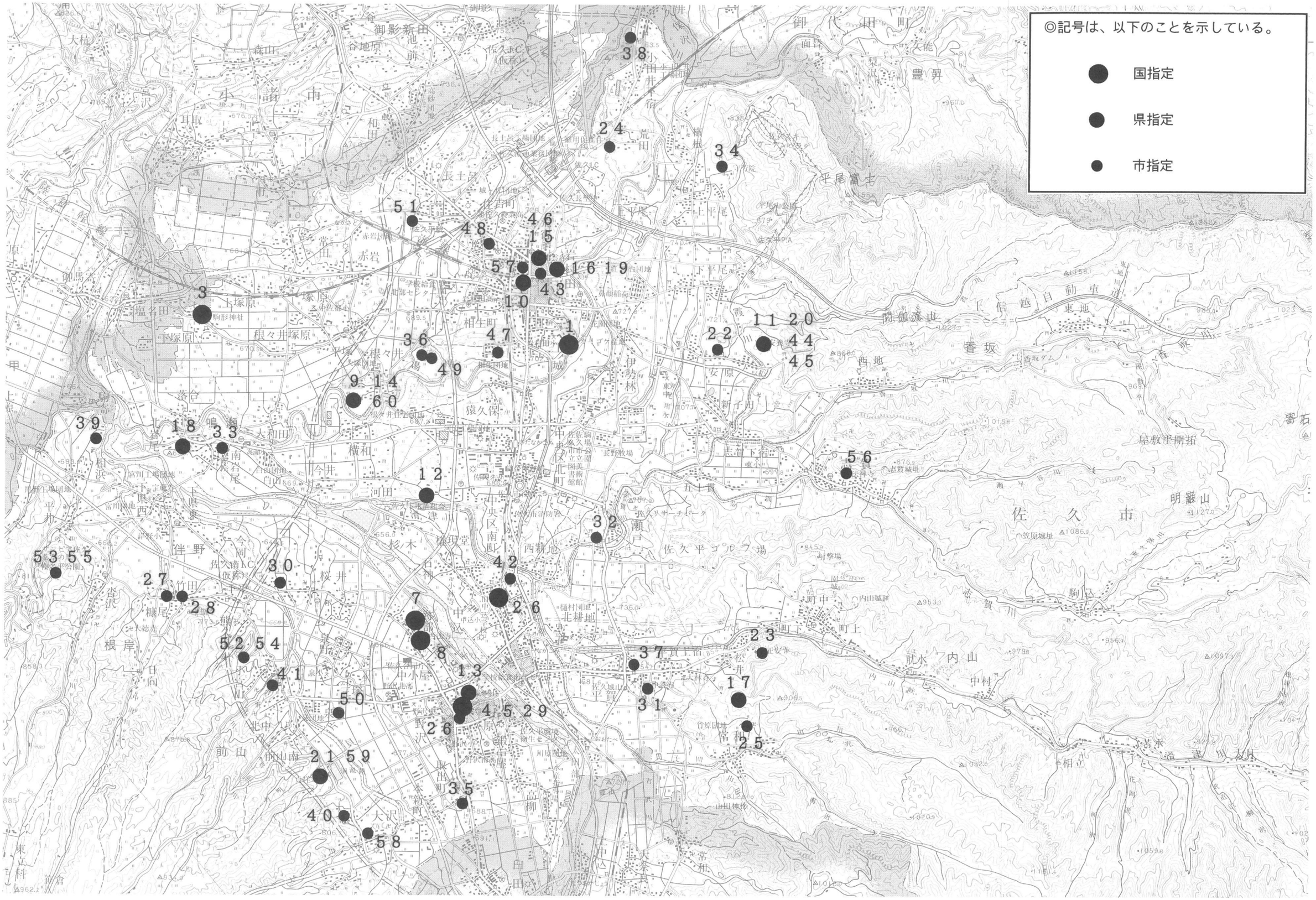
事務所南棟

事務所南棟

▶貞祥寺山門

▼跡部踊り念仏





佐久市指定文化財位置図（1：50,000）　P　　国県市指定文化財参照

佐久市文化財　年報11

平成13年度

2003年3月

編集・発行　佐久市教育委員会

〒385-8501　長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006　長野県佐久市大字志賀5953

TEL　0267-68-7321

印　　刷　㈱佐久印刷所